

### 第3章

## 街区ファサードのデザインエレメントの 場所及び時間による変動分析

### 第1節 本章の目的と方法論

#### 3.1.1 目的

第1章では、ウィーン州建設法が都市及び建築に関わる権利を調整する行政法でありながら、タウンスケープへの配慮を意識した「景観法」でもあること、その中でも特に「建築線等」「建築クラス」「外観に関する規定」及び「保存地区」に関する規定が景観を誘導する項目として重要であることを考察した。さらに第2章では、特にハース・ハウスを中心とした近年のタウンスケープに関する議論を整理・検討することによって、ウィーン州建設法における各規定の運用に関する問題点と、そこから今後整備していくことが望まれる運用システムについて考察を行い、さらにウィーン市市都心部の街区ファサードにおいて「軒線や2階の高さを揃えること」「窓の大きさなどについて考慮すること」「色彩」「材料」等がそのタウンスケープの「統一性」と「多様性」の同時実現を可能にする上でのキーワードであることを導くことができた。

本章では、第1章及び第2章で得られた知見を踏まえ、「統一性」と「多様性」のある個性的な街路を対象として、そのデザインエレメントの時間と場所による変化を分析することによって、街路全体において街区ファサードのデザインエレメントの果たす役割と相互関係を考察し、街区ファサードにおいて「統一性」と「多様性」を同時に実現するための定量的目安を導き出すとともに、街区ファサードが何によってその「変化」と「特長」を得ることができるのかということを検討し、さらにその街路空間における著名建築家の作品について考察を行うことを主たる目的としている。但し、本章では分析項目の統一性を図るため、上述してきた「場所」の概念を、建築物の「着地」とすることにした。

#### 3.1.2 研究の方法

##### 1) 研究のフローチャート

図3-1-1 は本章のフローチャートである。

まず第一に、対象街路を抽出し、歴史的背景と共にその概要を把握する。

第二に、研究のための基礎的なデータを作成する。この基礎データは現状写真と街区ファサードのデータベースからなっている。このデータベースは、建築許可図面から整理し

た数値データと現地調査によって収集したデータを基に作成した。

第三に街路に関する街区ファサードのデザインエレメントを整理し、分析項目と分析方法を構築する。それによって導かれる定量的目安は、第4章での隣接部分に関する分析・評価の基準となるものであり、そのことを念頭に入れて方法論を構築する。

第四に、作成した街区ファサードのデータベースを、構築した分析手法によって分析する。対象街路がウィーンにおいて特殊なものであり一般的なものではなく、かつデータ数が少ないので、それぞれの街路におけるサンプルを母集団と仮定した上で、建物の番地をX軸として、平均値と標準偏差を計算し、さらにその変動をグラフ化し、それを読み取ることによって分析を行った。時間的変化については、1914年、1955年、1975年、1994年の時点を再現することにした。

これらの各時点は次のような点を踏まえて決定した。すなわち、まず第一に建築許可の図面が19世紀後半から整理して保存してあることである。第二に、1914年は第一次世界大戦の勃発によってGründerzeitが終焉した年、1955年は戦災復興計画の区切りの年、1975年は保存地区制定によって建築行為が禁止されるまでに建築許可を受けた建築が概ね竣工したと考えられる年、1994年はデータを収集した年で、保存地区制定による今までの効果を最新の情報をもって知ることができる年である。

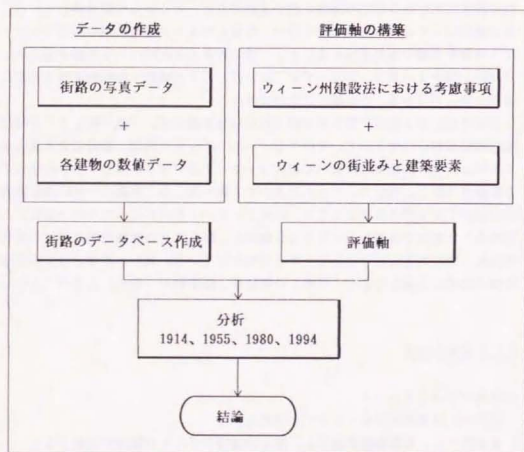


図3-1-1 第3章のフローチャート

## 2) 対象街路の抽出

対象とした街路は、グラーベン街とケルトナーリング通りである。この2街路の抽出については、以下の考え方に基づいている。即ち、

- ①ウィーンで最も賑やかであり、人が集まる街路であること
- ②「統一性」があると同じに「多様性」と「個性」に富んだ街区ファサードを持っていること
- ③ウィーンの歴史的時代の変遷を経験しており、各年代の様式や時代背景を反映した建物があること
- ④旧城壁の内部と外部のそれぞれ1つずつであること
- ⑤高密度な市街地の一部を形成しており、建物と建物とが隣接していること
- ⑥王室や美術館などの公共建築物はなく、民間建築物によって構成された住宅街路（住宅市街地を形成する街路）であること

である。以上の条件に加え、グラーベン街はウィーン市中心部に位置する歩行者天国であり、第2章で対象としたハース・ハウスとオット・ワグナーのアンカーハウスを含んでいるということ、ケルトナーリング通りはグルンデ・ツァイトに建設されたリング道路で、1区に対して正面玄関としての場所に位置し、グラーベン街に比較すると建設活動が多いため街区ファサードの経年変化が大きく、かつ第2章で扱ったケルトナーリング・ホーフを含んでいるということにより、この2街路を対象街路とした。

## 3) データ収集の方法

現状写真は、データベース作成を補助する役目を持っている。即ち、対象街路の現状の定性的な把握が可能にし、さらに各建築物の数値データを建築許可図面から読み取る際に不明な部分を補足することができる。撮影については、カメラはNIKON-FM2、レンズはPC-NIKOR 28mmを使用した。そして、街路の反対側から、連続的に部分が重なるように平行移動しながら、レンズの水平面に対する角度を変えないように気をつけて写真を撮る。

建物の数値データは、各デザインエレメントの数値データである。これは、建築警察に保管してある建築許可図面を写真に撮り、それをもとに作成した<sup>(1)</sup>。

また、色については、色見本帳（「平成3年度R版 塗料用標準色見本帳」、関西ペイント株式会社（社団法人日本塗料工業会））を使って現地で採取した。即ち、建物ファサードの中層部<sup>(2)</sup>における主材料の色を道路の中心から見て、手元の色見本帳の中で最も近い色のマンセル値によって、視覚的に判断して決定した。従って、天候と時間によって多少左右されている可能性がある。材料については現地において、やはりファサードの中層部における主材料を判断した。

## 4) 分析の方法

まず、第1章及び第2章で得られた知見とウィーンにおけるタウンスケープに関する既存研究を参考にして、本章で扱う街区ファサードのデザインエレメントを整理し、その分析項目の定義を行った。

第二に、対象街路に関する各種データを整理した。その中には20世紀初頭からのドプラン及びBプラン、街区ファサードのデータベース及びそれを基に作成したグラフが含ま

れる。

第三に、1914年、1955年、1975年、1994年の4時点における街区ファサードのデザインエレメントの番地毎の変動を分析した。つまりそれは、

①1900年から現在までの各デザインエレメントの時間的変化

②ある時点における平均値に対するデザインエレメントの場所的変化の分析である。①によって、デザインエレメントの街区ファサードにおける役割と各デザインエレメントの相互関係を把握し、さらに建設法によるコントロールがどのように各デザインエレメントに影響を与えているのかということも考察した。②においては、その変化の平均値と標準偏差を計算し、それらをもとに街区ファサードにおける「統一性」と「多様性」の同時実現するためのデザインエレメントの定量的目安を検討した。さらに、対象街区における街区ファサードの変化の特徴とそこに存在する著名建築家の作品とを比較することによって、その著名建築家の作品が対象街区においてどのように位置づけられるかということを考察した。

ここで平均と標準偏差を計算するのは次の理由による。すなわち、これらのデータが正規分布であると仮定すると、「平均±標準偏差」の間に全母集団の68%が含まれる。逆に考えると、この区間に含まれるものは、68%の信頼度で多数派であり、その両端の値が「統一性」と「多様性」との境界線となりうる。また、隣接建築物に対して「標準偏差」くらいの差を持つように考慮して建物をデザインすれば、現状くらい「統一性」と「多様性」とを持つ街区ファサード全体の姿を概ね再現することができると考えられる。従って、その「標準偏差」によって与えられる数値幅を、「統一性」と「多様性」との同時実現のために、隣接建築物に対して考慮すべき定量的目安とする。

### 3.1.3 街区ファサードのデザインエレメントと分析項目

#### 1) 街区ファサードのデザインエレメントの整理・分類

まず始めに、ウィーンにおけるタウンスケープの既存研究では景観構成要素をどのように扱っているかをレビューする。ウィーン工科大学地域空間研究室（モザー教授）では、図解分析のために、ウィーンを始めとするヨーロッパの都市景観の要素を整理し、定義を行っている<sup>(1)</sup>。その分類では、建築的要素と自然的要素とに分けているが、ここでは建築的要素のみ検討する。：

##### ①空間境界要素(Raumbegrenzung)：

／家並み線の変化(Fulchtlinienverlauf)

真っ直ぐな、折れ曲がった、曲がりくねった、段々の

／建築方式(Bebauungsweise)：

閉鎖型、開放型、連結型、グループ型、並列型

／建築高さ(Gebäudehöhe)：

階、建築クラス<sup>(2)</sup>

／空間区分境界(Raumbegrenzende Einfriedung)：

壁、垣根または柵、広告壁、支持壁の勾配

##### ②空間シンボル・区分大要素

(Raummarkierung, Raumdifferenzierung- Grobstruktur)：

／高さの段の変化(Höhenstaffelung)：

弱い、中間、強い

／奥行きの変化(Tiefenstaffelung)：

狭い、広い、出入口の状況

／建築軀体の状況(Raukörperstellung)：

兩横(軒)、切り妻、自由の、支配的な

／建築前面長(Gebäudefrontlänge)：

／屋根軀体(Dachkörper)：

##### ③空間シンボル・区分小要素

(Raummarkierung, Raumdifferenzierung- Feinststruktur)：

／屋根軀体(Dachkörper)：

屋根のタイプ・・・切妻、寄せむね、陸屋根

屋根突出物・・・煙突

／全体秩序(Kolossalordnung)：

突出の度合い・・・強い、弱い

屋上突出物・・・シンメトリ、リズム

基壇部、蛇腹

窓・・・窓冠、窓形態(高さ、巾)

／区分要素

裝飾、彫刻、色、美術品、

車道、側道、道路附属物、道路ランドマーク、ストリートファナリ

##### ④空間結節要素(Raumverbindung)：

道路幅員、建築物高さ、基壇部、蛇腹、出窓(エルケア)、窓頂冠

間、軀体の状況、道路の構造

これらのうち、建築物のファサードの要素であるのは、①建築高さ(階、建築クラス)、②高さの段の変化、建築前面長、③屋根、基壇部、蛇腹、窓、裝飾、彫刻、色、④建築物高さ、基壇部、蛇腹、出窓、窓頂冠である。

一方、ウィーン州建設法の規定の中で、タウンスケープの要素に影響を与える事項あるいはタウンスケープの要素となりうるもの、若しくはタウンスケープにおいて考慮すべき項目は法§60及び§85に規定してある。また、本研究で扱う街区ファサードのデザインエレメントは建築物の要素であるから、建築家が設計を行うときに考慮していく物事の筋道に立脚している。以上のことから、第2章から導き出せた要素も考慮しつつ、既存文献における景観構成要素と対応させて、街区ファサードのデザインエレメントを整理・分類すると表3-3-1 のようになる。

表3-1-1 街区ファサードのデザインエレメントと既存文献の景観構成要素の対応

街区ファサードのデザインエレメント	法 860、885及び第2章	地域空間研究室
建築様式	建築様式(Stil)	
規模	規模(Maßstab) 建築物高さ、最高高さ 建築物形態 軒庇の位置 比率、リズム	建築高さ (階、建築クラス) 高さの段の変化 建築壁面長 屋根
ファサードの分割 (三層構成)	三層構成、比率、リズム 2階の位置	基壇部 屋根部
開口部	大きさ  比率、リズム	窓 装飾 窓頂冠 装飾 彫刻
装飾		
材料	色彩学	色

## 2) 分析項目の定義

以上の整理・分類を踏まえ、本章及び第4章での街区ファサードのデザインエレメントの分析における分析項目を定義する。

### ① 規模に関するもの：

- ・ 最高高さ：建築物の附属物である避雷針、広告物および彫刻などの装飾を除き、建物のボリュームを決定する塔屋や飾り屋根などを含めた建築物の部分の地盤面からの最高高さ<sup>(1)</sup>
- ・ 屋根高さ：建築物の居室として利用される部分を覆う屋根の地盤面からの高さ
- ・ 軒高：地盤面から道路側の壁面線上の最も上部にある軒蛇腹の天端までの高さ
- ・ 壁面長：前面道路に接する建築物壁面線の水平長さ
- ・ 壁面分割数：ファサードの凹凸や出窓などによって視覚的に知覚することができる壁面の分割数
- ・ 壁面分割長：壁面長÷壁面分割数
- ・ 平均階高：屋上階と地下階とを除いた階の階高の合計を階数で除したものの
- ・ 階数：屋上階と地下階とを除いた階の数
- ・ ファサード面積：壁面長×軒高

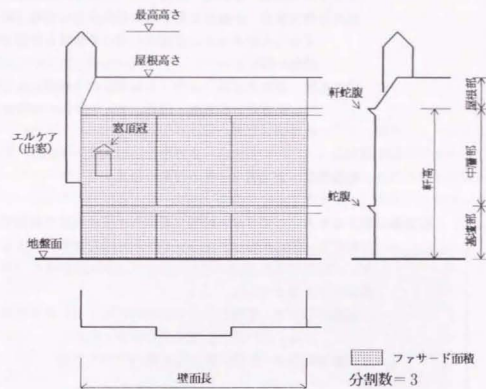


図3-1-2 規模に関する分析項目

### ② ファサードの分割に関するもの；ここでのファサードの分割は、ヨーロッパの建物のプロポーションに関するいわゆる三層構成に基づく。

- ・ 基壇部：以下の条件で視覚的に節目と決定することができる1又は2階部分とそれより上の部分との境界の地盤面からの高さ
  - 1) 中層部分とを蛇腹または材料の変化で区切っていること
  - 2) 床の用途と動線の構成が半公共的であり、商業あるいは業務として利用されているために、外部の者が入ることができる階の部分であること
- ・ 中層部：基壇部と中層部の境界から軒蛇腹の天端までの高さ
- ・ 屋根部：中層部の上端から階として利用される屋上階の屋根の最上端までの高さ

### ③ 開口部に関するもの：

- ・ 開口率：ファサードの全開口面積をファサード面積で除したものの
- ・ ファサードの全開口面積：ファサード面積を計算するファサードの部分に含まれる開口部分の内法面積

- ・ファサード面積：壁面長×軒高
- ・窓の平均大きさ：中層部にある開口部の面積の平均（開口率と比較することによって、基壇部の開口の特徴も把握できるので、中層部に限定した）
- ・窓の形状：対象とするファサードの部分の中層部にある開口の形状で、正方形、長方形、円形、アーチ形に分類できる。その数の比で表示している。  
正方形：長方形：円形：アーチ形
- ・装飾様式：窓頂冠など窓の装飾の様式

- ④装飾に関するもの：ここでは、蛇腹や石割りがどの程度の密度であるのかを分析する。特に蛇腹は、そのプロファイルが建築様式として重要であるが、本研究では断面積が大きいものの方が視覚的にインパクトがあり、古典的であると考えた。
- ・蛇腹の断面量：地盤面から中層部の天端までにある蛇腹の断面における、水平長さ×垂直長さの積の合計
  - ・蛇腹断面量率：蛇腹の断面量を軒高で除した値

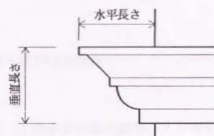


図3-1-3 蛇腹断面量の定義

- ・石割率：ファサードにおける石割りの頻度をその垂直長さの合計で除した値

#### ⑤主要仕上げ材料に関するもの：

- ・主要材料：本章では、参考に留める
- ・色：本研究では、2つの方法によって色の分析を行う。まず、マンセル値<sup>(5)</sup>で測定し、色相調和、明度/彩度調和を検討する。次に、マンセル値を日本カラー研究所のヒュー&トーン<sup>(6)</sup>に置換し、カラー・イメージ・スケール<sup>(7)</sup>上でその分布を分析する。前者によって、対象街路の色彩上の調和を色相・明度/彩度の三つの軸で検討し、現状の調和具合について考察する。さらに後者によって、隣接建築物に対して考慮すべき目安を得ることを試みる。

## 第2節 対象街路の概要と街区ファサードのデータベース

### 3.2.1 グラーベン街 (Graben)

#### 1)位置と性格

グラーベン街は、ウィーン第一区の中心に位置し、ケルトナー通り、コールマルクト街と共に第一区の歩行者天国を形成している（図3-2-1）。道路幅員は約20m位で、オット・ワーグナーのアンカーハウス、ハンス・ホラインのハース・ハウスがあるほか、アドルフ・ロースのクニツツェ、ヨーゼフ・ホフマンのアルトマン、ホラインのシュリン宝石店などがあるウィーン第一の高級ショッピング街である。

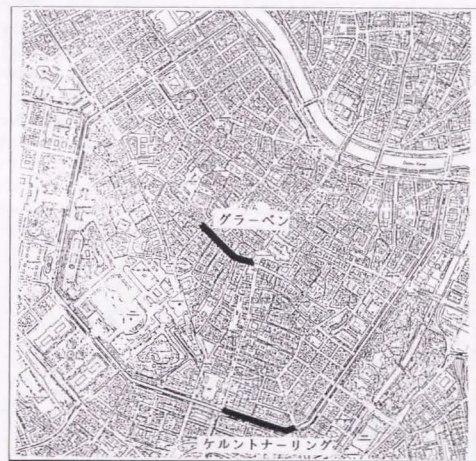


図3-2-1 対象街路の位置

#### 2)Fプラン・Bプランの変遷

時間的な変化を分析するので、Fプラン・Bプランについてもその変遷を知るべきである。グラーベンにかかるFプラン及びBプランは、1949年以降のものを全て描えることができた。それ以前については、第1章における考察を参考にする。

1949年のものはハース・ハウスにおけるものだが、建築指定線を後退し、建物の最

高さを建築クラスを越えて32.5mまで許可するとしている(図3-2-2)。

1964年には、新しい建築線が付け加えられている。即ち、従来の建築限界線(Baulinien)に付け加えて、建築指定線(Bauflichtlinien)、公共用地境界線(Grenzfluchtlinien)及び規制境界線(Grenzlinien)が与えられている(図3-2-3)。これは、既存の建築がそれまでの建築線を越えていることにより指定されたものである。1961年の全体都市計画における都市景観の保存のスローガンを受けてのものと考えられる。

1973年には、保存地区が制定された(図3-2-4)。

1975年には、線で囲まれた部分における建築行為を禁止している(図3-2-5)。

1986年には、ハース・ハウスの改築案に対するFプラン・Bプランの提案が行われている(図3-2-6)。

最後は1989年時点でのFプラン及びBプランである(図3-2-7)。図中の全ての街区に、GB V gと記されているが、GBはFプランによる用途規制で、複合建築用地を指定している。Vは、Bプランによる建築クラス5を指し、建物の軒高を21m以上26m以下に規制し、gは同じくBプランによって、建築方式をクローズ(囲い込み型)に指定している。それ以外には建築線の指定と、個別の敷地毎に特別規制(BB)がかかっている。すなわち、グラーベン11については、道路に接する部分における建物高さを、BB1によってウィーン0mから27.3mに規制しており、さらにハース・ハウスには第2章で述べたようにBB6の特別規制がかけられている。

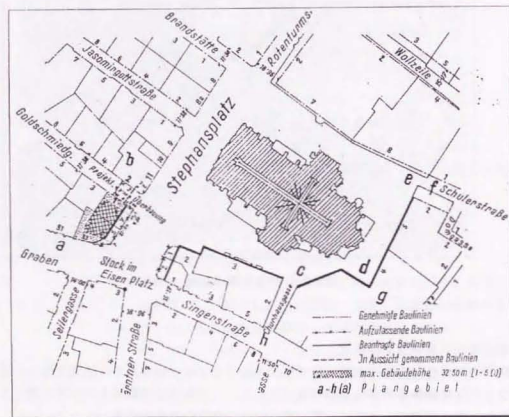


図3-2-2 1949年におけるグラーベン街のFプラン・Bプラン

【出典：W.Abt.18-2172/46. Plan Nr.1841, 8.Dez.1949】

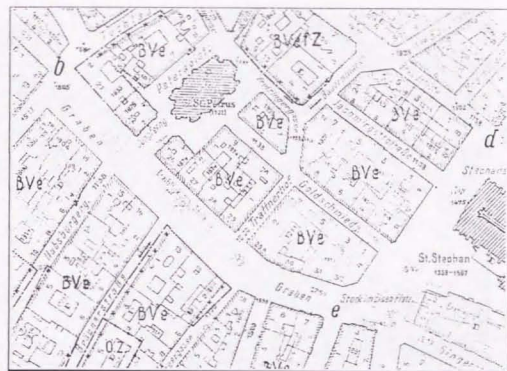


図3-2-3 1964年におけるグラーベン街周辺のFプラン・Bプラン

【出典：W.Abt.18 - Reg 1/7/63, Stadt- und Landesplanung, Plandokument Nr.4089, 5.Mai 1964】

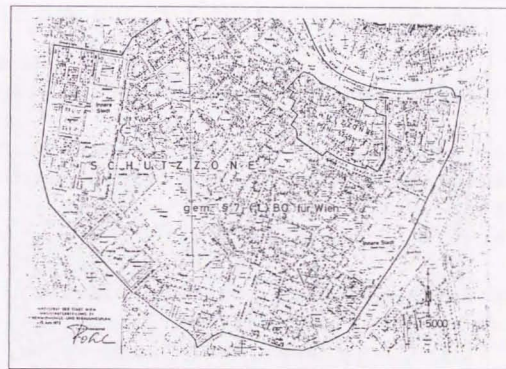


図3-2-4 1973年における第一区の保存地区指定

【出典：Ma21 - Flächenwidmungs- und Bebauungsplanung, Plandokument Nr.5265 30. Nov. 1973, Pr.Z1.3647/73】



図3-2-5 1975年における第1区における建築行為禁止に関する図面  
 【出典：WA21 — Flächenwidungs- und Bebauungsplan, Plandokument Nr. 5333,  
 28. Februar 1975, Pr. Zl. 514/75】



図3-2-6 1986年におけるハースハウスへのFプラン・Bプラン(案)  
 【出典：WA21 — Flächenwidungs- und Bebauungsplan, Plandokument Nr. 5951  
 14. Mai 1986, Pr. Z. 1517/86】

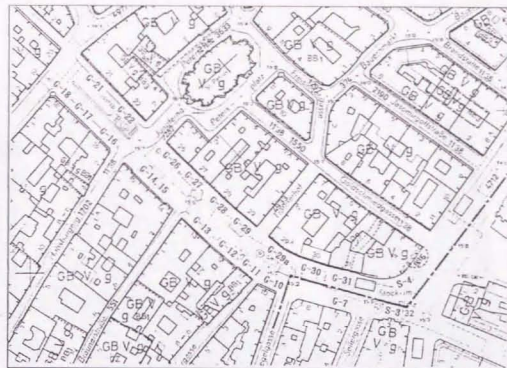


図3-2-7 1989年におけるグラーベン街にかかるFプラン・Bプラン  
 【出典：WA21 — Flächenwidungs- und Bebauungsplan, Plandokument Nr. 5991  
 30. Juni 1989, Pr. Z. 1708/89】

### 3) 現状写真

写真3-2-1 は、グラーベン街の現状写真である。写真の撮影は1994年11月中旬に行なった。

写真の upper 一番右手にシュテファン教会、その隣にハース・ハウスが写っている。即ち、upper の写真が、ハース・ハウス側の列であり、下段の写真がその反対側の列の現状である。この写真でも分かるようにハース・ハウスのガラス部分にはシュテファン教会が写り込んでいる。そのようにしてシュテファン教会を意識させるのがこのハース・ハウスのコンセプトである。

またこの現状写真には、表3-2-1～表3-2-4の建物番号(番地)及び第3節の分析におけるグラフのX軸と対応がつくように、建物番号(番地)を記し、さらに第3節において触れる著名建築家の作品にはその名称を記しておいた。

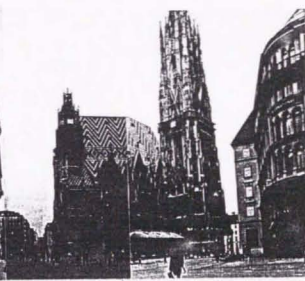


写真3-2-1 グラーベンの現状写真  
【1994.11.10撮影】

写真3-2-1 グラーベンの現状写真  
【1994.11.10撮影】



S-4  
ハウス・ハウス



聖シュテファン教会

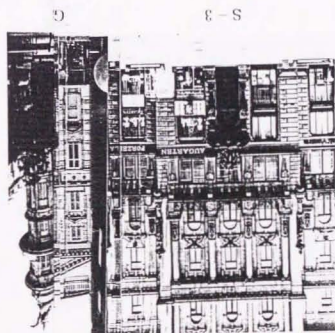


写真3-2-1 グラーベンの現状写真  
【1994.11.10撮影】



G-21

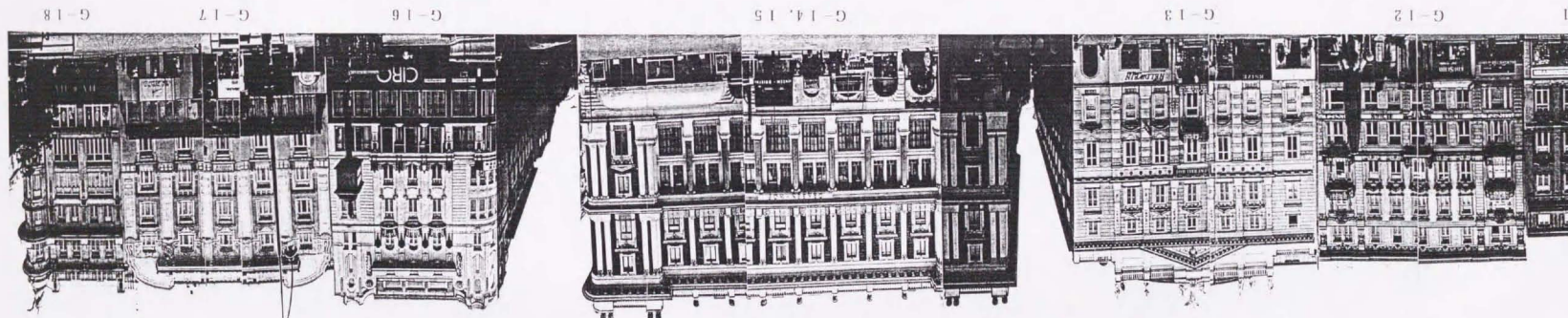
G-22

G-26

G-27

G-28

G-29



G-18

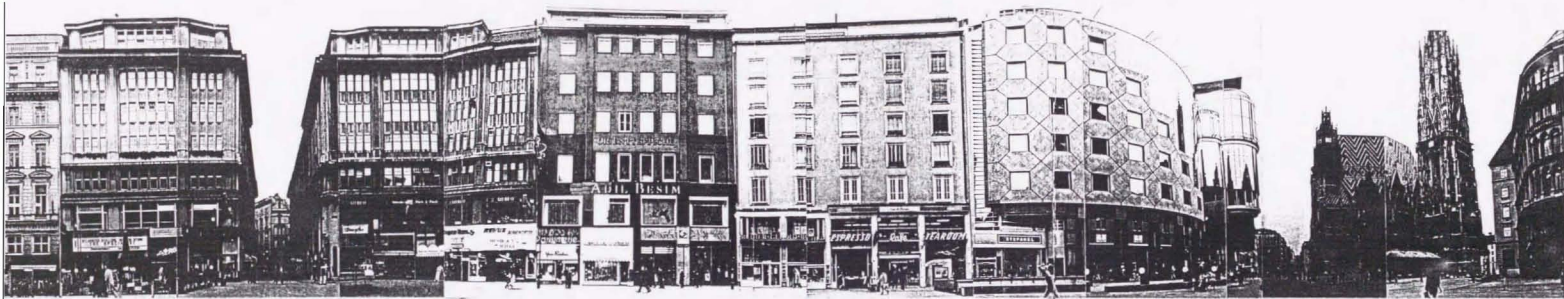
G-17

G-16

G-14, 15

G-13

G-12



G-29

G-29a

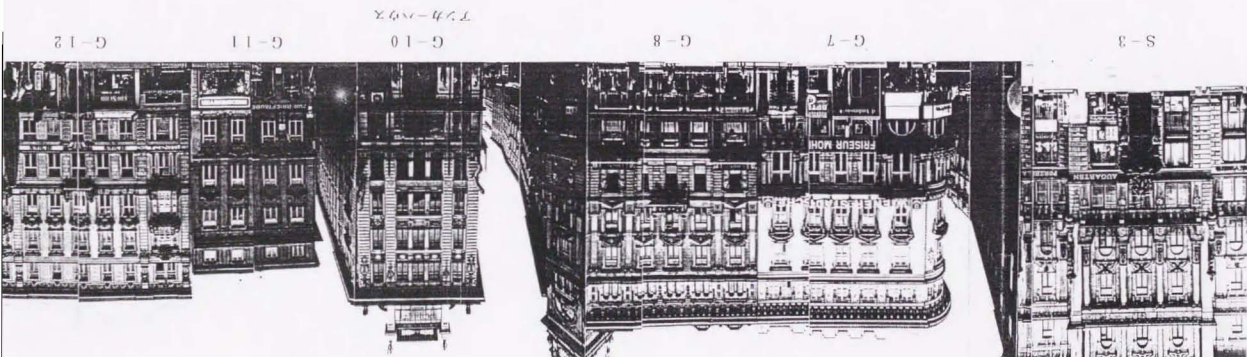
G-30

G-31

S-4

ハース・ハウス

聖シュテファン教会



G-12

G-11

G-10

G-8

G-7

S-3

写真3-2-1 グラーゼンの現状写真  
【1994. 11. 10撮影】

#### 4) 街区ファサードのデータベース

表3-2-1、表3-2-2、表3-2-3 及び表3-2-4 は、1914年、55年、75年、94年におけるグラーベン街の街区ファサードのデータベースである。前述したように、これらは建築許可 (Baubewilligung) の図面から読み取った数値データ、現地調査によるデータ及び写真データより作成した。この表の中で、第3節でグラフ化して分析を行う分析項目はイタリックで記入している。また、14年、55年、75年における建物の材料と色は、当時のデータが存在しないので表には記入しなかった。

表中に K-1、K-2 といった記号が出てくるが、これは建物番号 (番地) を示している。つまり、街路名の頭文字と番地の数字を組み合わせることによってできた表示記号であり、以下のようなルールでできている。即ち、

GRABEN (グラーベン街)	..... G
STOCK-IM-EISEN-PLATZ (ストック・イム・アイゼン広場)	..... S
KÄRNTNERRING (ケルトナーリング通り)	..... K

というように、最初のアルファベットが街路名称を示し、その後ろの数字が該当建物の番地を示している。従って、例えば:

G-10	⇒	GRABEN 10
K-12	⇒	KÄRNTNERRING 12

というように対応している。また、幾つかの表示記号において、G-14, 15 のように番地が2つあるいは3つあるものがあるが、これは建物への入口が複数あるなどの理由で、一つの建物に2つの番地が与えられているものである。

表3-2-2 クラークのチヤとエシヤ (1975年)表3-2-1 グラマーの「ザ・エレクト」(1994年)



### 3.2.2 ケルトナーリング通り(Kärntnerring)の概要

#### 1)位置と性格

ケルトナーリング通りは、その名の通りリング道路の一部であるが、第一区への入口であるケルトナー通りと交差する部分に位置し、また国立オペラ座に連続する通りであることから、リング道路の中でも最もウィーン市が力を入れて整備してきた道路の一つである。近年建設されたケルトナーリング・ホーフや、改修されてホテルに生まれ変わったANAホテルもそうであるが、リング建設当時から存在するインベリアルホテルやプリストルホテルが立ち並び、ウィーン市街地への表玄関として相応しい都市景観を造りだしている(図3-2-1 参照)。

#### 2)Fプラン・Bプランの変遷

ケルトナーリング通りにかかるFプランとBプランの変遷を概観してみよう。

図3-2-7は1900年のものである。この時点ではケルトナーリング通りは完成していたので、このプランはリング道路の内側の道路拡張を対象としている。ケルトナーリング通りに関しては、既に整然としたプルバルが出来上がっていたことが分かる。

図3-2-8は、1931年のものである。ケルトナーリング通りに面するところには建築クラス5(当時の法では、20m以上25m以下の指定がされている<sup>(2)</sup>)がかけられているのが読み取れる。

図3-2-9は、1957年のものである。一点鎖線は、新しい建築線であるが、結局この変更は実現しなかった。

1973年にはグラベン街と同様に保存地区制定(図3-2-4)そして1975年の建築行為の禁止(図3-2-5)が定められたが、その後現在は1992年決定によるFプラン及びBプランの規制がかけられている(図3-2-10)。この図から分かるように、本章で対象とする当該建築物には全てGB V gの規制がかけられている。この規制はグラベン街のものと同じである。それ以外は建築線がかけられているのみである。

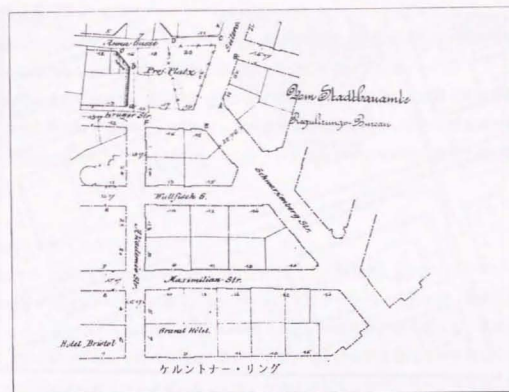


図3-2-8 1900年におけるケルトナーリング通りの建築線規制

【出典：Antrag des Stadtrathes, Gemeinderath der k.k. Reichshaupt- und Residenz, Nr.150 ex.1900】

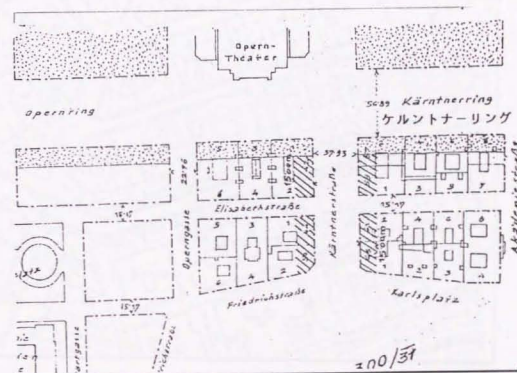


図3-2-9 1931年におけるオペラ座周辺のFプラン・Bプラン

【出典：Gemeinderat der Stadt Wien, Nr.104 aus 1931  
Pr.Z.1510 aus 1931】

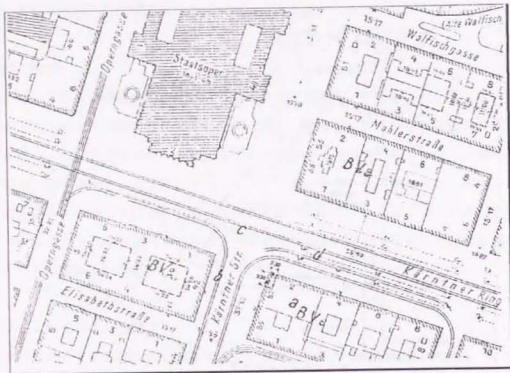


図3-2-10 1957年におけるオペラ座周辺のFプラン・Bプラン  
 【出典：“Abänderung des Bebauungsplanes an der Opernkreuzung im 1. Bezirk”,  
 Plandokument 3170, Wien, im August 1956, MA18 Reg. I./7/56】

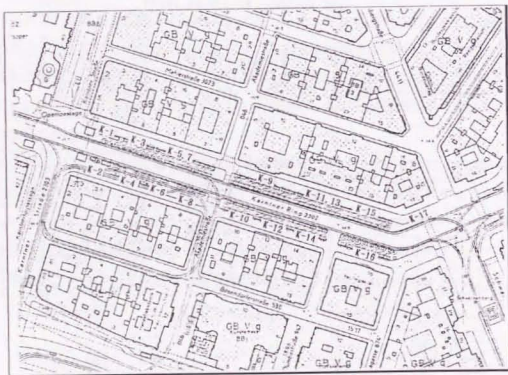


図3-2-11 1992年におけるケルトナーリング通りのFプラン・Bプラン  
 【出典：Magistrat der Stadt Wien, MA21 — Flächenwidmungs- und Bebauungsplan  
 Plandokument 5993, 23. Okt. 1992, Pr. Zl. 3436/92】

### 3) 現状写真

写真4-2-2 は、ケルトナーリング通りの現状写真である。左手が国立オペラ座側で、上段の写真がリングの内側で、下段の写真がリングの外側にあたる。

またこの現状写真には、表3-2-5～表3-2-8の建物番号（番地）及び第3節の分析におけるグラフのX軸と対応がつくように、建物番号（番地）を記し、さらに第3節で対象とする著名建築家の作品（ケルトナーリング・ホーフ）についてはその建物名称を記しておいた。

### 4) 街区ファサードのデータベース

表3-2-5、表3-2-6、表3-2-7及び表3-2-8は、1914年、55年、75年、94年におけるケルトナーリング通りの街区ファサードのデータベースである。前述したように、これらの主なデータは建築許可(Baubewilligung)の図面から読み取って、各時点における建物の状況を判断しながら作成した。この表中で、特に第3節でグラフ化して分析を行う分析項目はイタリックで記入している。以降の分析はこのデータベースを基に行っている。また、14年、55年、75年における建物の材料と色は、当時のデータが存在しないので表には記入しなかった。



K-17

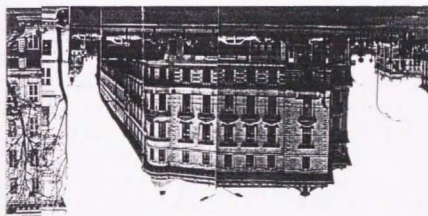
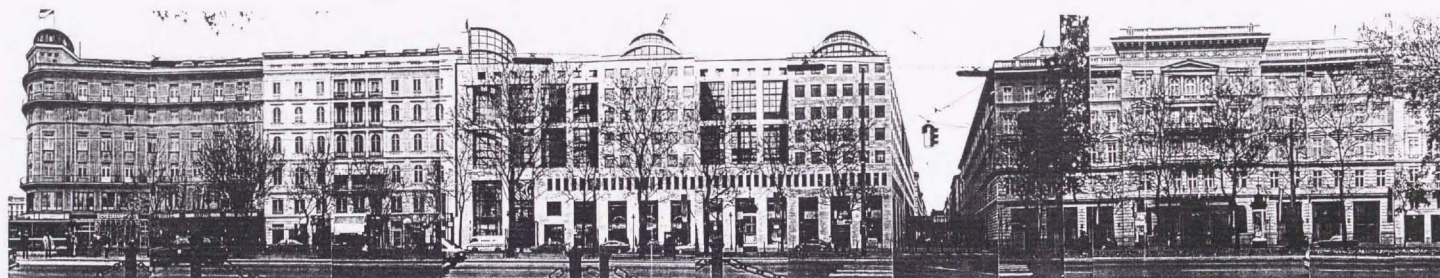


写真3-2-2 ケルトナーリングの現状写真  
【1994.11.10撮影】



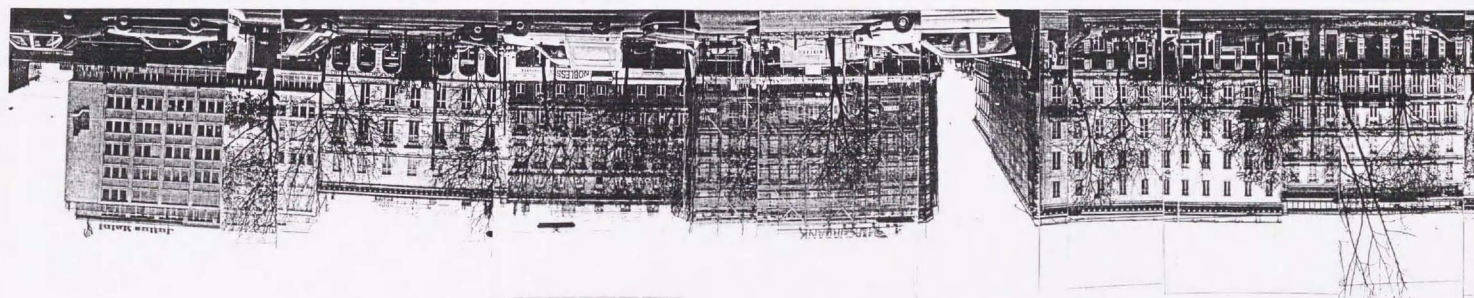
K-1

K-3

K-5, 7

K-9

ケルントナーリング・ホーフ



K-2

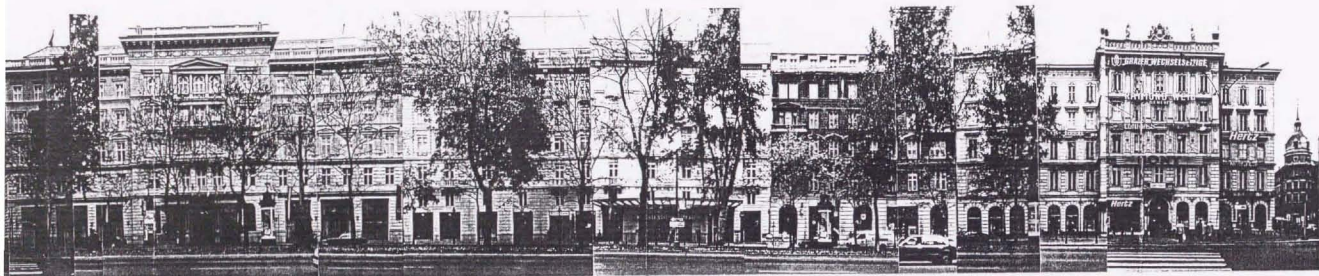
K-4

K-6

K-8

K-10

K-12

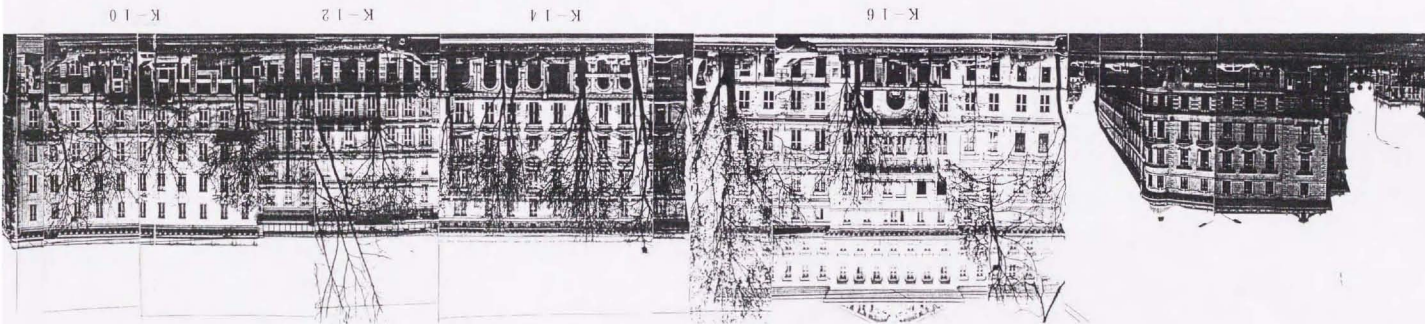


K-9

K-11, 13

K-15

K-17



K-10

K-12

K-14

K-16

写真3-2-2 ケルントナーリングの現状写真  
【1994.11.10撮影】

項目	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5	K-6	K-7	K-8	K-9	K-10	K-11	K-12	K-13	K-14	K-15	K-16	K-17	K-18	K-19	K-20	K-21	K-22	K-23	K-24	K-25	K-26	K-27	K-28	K-29	K-30	K-31	K-32	K-33	K-34	K-35	K-36	K-37	K-38	K-39	K-40	K-41	K-42	K-43	K-44	K-45	K-46	K-47	K-48	K-49	K-50	K-51	K-52	K-53	K-54	K-55	K-56	K-57	K-58	K-59	K-60	K-61	K-62	K-63	K-64	K-65	K-66	K-67	K-68	K-69	K-70	K-71	K-72	K-73	K-74	K-75	K-76	K-77	K-78	K-79	K-80	K-81	K-82	K-83	K-84	K-85	K-86	K-87	K-88	K-89	K-90	K-91	K-92	K-93	K-94	K-95	K-96	K-97	K-98	K-99	K-100	K-101	K-102	K-103	K-104	K-105	K-106	K-107	K-108	K-109	K-110	K-111	K-112	K-113	K-114	K-115	K-116	K-117	K-118	K-119	K-120	K-121	K-122	K-123	K-124	K-125	K-126	K-127	K-128	K-129	K-130	K-131	K-132	K-133	K-134	K-135	K-136	K-137	K-138	K-139	K-140	K-141	K-142	K-143	K-144	K-145	K-146	K-147	K-148	K-149	K-150	K-151	K-152	K-153	K-154	K-155	K-156	K-157	K-158	K-159	K-160	K-161	K-162	K-163	K-164	K-165	K-166	K-167	K-168	K-169	K-170	K-171	K-172	K-173	K-174	K-175	K-176	K-177	K-178	K-179	K-180	K-181	K-182	K-183	K-184	K-185	K-186	K-187	K-188	K-189	K-190	K-191	K-192	K-193	K-194	K-195	K-196	K-197	K-198	K-199	K-200	K-201	K-202	K-203	K-204	K-205	K-206	K-207	K-208	K-209	K-210	K-211	K-212	K-213	K-214	K-215	K-216	K-217	K-218	K-219	K-220	K-221	K-222	K-223	K-224	K-225	K-226	K-227	K-228	K-229	K-230	K-231	K-232	K-233	K-234	K-235	K-236	K-237	K-238	K-239	K-240	K-241	K-242	K-243	K-244	K-245	K-246	K-247	K-248	K-249	K-250	K-251	K-252	K-253	K-254	K-255	K-256	K-257	K-258	K-259	K-260	K-261	K-262	K-263	K-264	K-265	K-266	K-267	K-268	K-269	K-270	K-271	K-272	K-273	K-274	K-275	K-276	K-277	K-278	K-279	K-280	K-281	K-282	K-283	K-284	K-285	K-286	K-287	K-288	K-289	K-290	K-291	K-292	K-293	K-294	K-295	K-296	K-297	K-298	K-299	K-300	K-301	K-302	K-303	K-304	K-305	K-306	K-307	K-308	K-309	K-310	K-311	K-312	K-313	K-314	K-315	K-316	K-317	K-318	K-319	K-320	K-321	K-322	K-323	K-324	K-325	K-326	K-327	K-328	K-329	K-330	K-331	K-332	K-333	K-334	K-335	K-336	K-337	K-338	K-339	K-340	K-341	K-342	K-343	K-344	K-345	K-346	K-347	K-348	K-349	K-350	K-351	K-352	K-353	K-354	K-355	K-356	K-357	K-358	K-359	K-360	K-361	K-362	K-363	K-364	K-365	K-366	K-367	K-368	K-369	K-370	K-371	K-372	K-373	K-374	K-375	K-376	K-377	K-378	K-379	K-380	K-381	K-382	K-383	K-384	K-385	K-386	K-387	K-388	K-389	K-390	K-391	K-392	K-393	K-394	K-395	K-396	K-397	K-398	K-399	K-400	K-401	K-402	K-403	K-404	K-405	K-406	K-407	K-408	K-409	K-410	K-411	K-412	K-413	K-414	K-415	K-416	K-417	K-418	K-419	K-420	K-421	K-422	K-423	K-424	K-425	K-426	K-427	K-428	K-429	K-430	K-431	K-432	K-433	K-434	K-435	K-436	K-437	K-438	K-439	K-440	K-441	K-442	K-443	K-444	K-445	K-446	K-447	K-448	K-449	K-450	K-451	K-452	K-453	K-454	K-455	K-456	K-457	K-458	K-459	K-460	K-461	K-462	K-463	K-464	K-465
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

表3-2-6 ケントナールリング通りのデザインエレメント (1975年)

	K-1	K-3	K-5	K-7	K-9	K-11,13	K-15	K-17	K-19	K-21	K-23	K-25	K-27	K-29	K-31	K-33	K-35	K-37	K-39	K-41	K-43	K-45	K-47	K-49	K-51	K-53	K-55	K-57	K-59	K-61	K-63	K-65	K-67	K-69	K-71	K-73	K-75	K-77	K-79	K-81	K-83	K-85	K-87	K-89	K-91	K-93	K-95	K-97	K-99	K-101	K-103	K-105	K-107	K-109	K-111	K-113	K-115	K-117	K-119	K-121	K-123	K-125	K-127	K-129	K-131	K-133	K-135	K-137	K-139	K-141	K-143	K-145	K-147	K-149	K-151	K-153	K-155	K-157	K-159	K-161	K-163	K-165	K-167	K-169	K-171	K-173	K-175	K-177	K-179	K-181	K-183	K-185	K-187	K-189	K-191	K-193	K-195	K-197	K-199	K-201	K-203	K-205	K-207	K-209	K-211	K-213	K-215	K-217	K-219	K-221	K-223	K-225	K-227	K-229	K-231	K-233	K-235	K-237	K-239	K-241	K-243	K-245	K-247	K-249	K-251	K-253	K-255	K-257	K-259	K-261	K-263	K-265	K-267	K-269	K-271	K-273	K-275	K-277	K-279	K-281	K-283	K-285	K-287	K-289	K-291	K-293	K-295	K-297	K-299	K-301	K-303	K-305	K-307	K-309	K-311	K-313	K-315	K-317	K-319	K-321	K-323	K-325	K-327	K-329	K-331	K-333	K-335	K-337	K-339	K-341	K-343	K-345	K-347	K-349	K-351	K-353	K-355	K-357	K-359	K-361	K-363	K-365	K-367	K-369	K-371	K-373	K-375	K-377	K-379	K-381	K-383	K-385	K-387	K-389	K-391	K-393	K-395	K-397	K-399	K-401	K-403	K-405	K-407	K-409	K-411	K-413	K-415	K-417	K-419	K-421	K-423	K-425	K-427	K-429	K-431	K-433	K-435	K-437	K-439	K-441	K-443	K-445	K-447	K-449	K-451	K-453	K-455	K-457	K-459	K-461	K-463	K-465	K-467	K-469	K-471	K-473	K-475	K-477	K-479	K-481	K-483	K-485	K-487	K-489	K-491	K-493	K-495	K-497	K-499	K-501	K-503	K-505	K-507	K-509	K-511	K-513	K-515	K-517	K-519	K-521	K-523	K-525	K-527	K-529	K-531	K-533	K-535	K-537	K-539	K-541	K-543	K-545	K-547	K-549	K-551	K-553	K-555	K-557	K-559	K-561	K-563	K-565	K-567	K-569	K-571	K-573	K-575	K-577	K-579	K-581	K-583	K-585	K-587	K-589	K-591	K-593	K-595	K-597	K-599	K-601	K-603	K-605	K-607	K-609	K-611	K-613	K-615	K-617	K-619	K-621	K-623	K-625	K-627	K-629	K-631	K-633	K-635	K-637	K-639	K-641	K-643	K-645	K-647	K-649	K-651	K-653	K-655	K-657	K-659	K-661	K-663	K-665	K-667	K-669	K-671	K-673	K-675	K-677	K-679	K-681	K-683	K-685	K-687	K-689	K-691	K-693	K-695	K-697	K-699	K-701	K-703	K-705	K-707	K-709	K-711	K-713	K-715	K-717	K-719	K-721	K-723	K-725	K-727	K-729	K-731	K-733	K-735	K-737	K-739	K-741	K-743	K-745	K-747	K-749	K-751	K-753	K-755	K-757	K-759	K-761	K-763	K-765	K-767	K-769	K-771	K-773	K-775	K-777	K-779	K-781	K-783	K-785	K-787	K-789	K-791	K-793	K-795	K-797	K-799	K-801	K-803	K-805	K-807	K-809	K-811	K-813	K-815	K-817	K-819	K-821	K-823	K-825	K-827	K-829	K-831	K-833	K-835	K-837	K-839	K-841	K-843	K-845	K-847	K-849	K-851	K-853	K-855	K-857	K-859	K-861	K-863	K-865	K-867	K-869	K-871	K-873	K-875	K-877	K-879	K-881	K-883	K-885	K-887	K-889	K-891	K-893	K-895	K-897	K-899	K-901	K-903	K-905	K-907	K-909	K-911	K-913	K-915	K-917	K-919	K-921	K-923	K-925	K-927	K-929	K-931	K-933	K-935	K-937	K-939	K-941	K-943	K-945	K-947	K-949	K-951	K-953	K-955	K-957	K-959	K-961	K-963	K-965	K-967	K-969	K-971	K-973	K-975	K-977	K-979	K-981	K-983	K-985	K-987	K-989	K-991	K-993	K-995	K-997	K-999	K-1001	K-1003	K-1005	K-1007	K-1009	K-1011	K-1013	K-1015	K-1017	K-1019	K-1021	K-1023	K-1025	K-1027	K-1029	K-1031	K-1033	K-1035	K-1037	K-1039	K-1041	K-1043	K-1045	K-1047	K-1049	K-1051	K-1053	K-1055	K-1057	K-1059	K-1061	K-1063	K-1065	K-1067	K-1069	K-1071	K-1073	K-1075	K-1077	K-1079	K-1081	K-1083	K-1085	K-1087	K-1089	K-1091	K-1093	K-1095	K-1097	K-1099	K-1101	K-1103	K-1105	K-1107	K-1109	K-1111	K-1113	K-1115	K-1117	K-1119	K-1121	K-1123	K-1125	K-1127	K-1129	K-1131	K-1133	K-1135	K-1137	K-1139	K-1141	K-1143	K-1145	K-1147	K-1149	K-1151	K-1153	K-1155	K-1157	K-1159	K-1161	K-1163	K-1165	K-1167	K-1169	K-1171	K-1173	K-1175	K-1177	K-1179	K-1181	K-1183	K-1185	K-1187	K-1189	K-1191	K-1193	K-1195	K-1197	K-1199	K-1201	K-1203	K-1205	K-1207	K-1209	K-1211	K-1213	K-1215	K-1217	K-1219	K-1221	K-1223	K-1225	K-1227	K-1229	K-1231	K-1233	K-1235	K-1237	K-1239	K-1241	K-1243	K-1245	K-1247	K-1249	K-1251	K-1253	K-1255	K-1257	K-1259	K-1261	K-1263	K-1265	K-1267	K-1269	K-1271	K-1273	K-1275	K-1277	K-1279	K-1281	K-1283	K-1285	K-1287	K-1289	K-1291	K-1293	K-1295	K-1297	K-1299	K-1301	K-1303	K-1305	K-1307	K-1309	K-1311	K-1313	K-1315	K-1317	K-1319	K-1321	K-1323	K-1325	K-1327	K-1329	K-1331	K-1333	K-1335	K-1337	K-1339	K-1341	K-1343	K-1345	K-1347	K-1349	K-1351	K-1353	K-1355	K-1357	K-1359	K-1361	K-1363	K-1365	K-1367	K-1369	K-1371	K-1373	K-1375	K-1377	K-1379	K-1381	K-1383	K-1385	K-1387	K-1389	K-1391	K-1393	K-1395	K-1397	K-1399	K-1401	K-1403	K-1405	K-1407	K-1409	K-1411	K-1413	K-1415	K-1417	K-1419	K-1421	K-1423	K-1425	K-1427	K-1429	K-1431	K-1433	K-1435	K-1437	K-1439	K-1441	K-1443	K-1445	K-1447	K-1449	K-1451	K-1453	K-1455	K-1457	K-1459	K-1461	K-1463	K-1465	K-1467	K-1469	K-1471	K-1473	K-1475	K-1477	K-1479	K-1481	K-1483	K-1485	K-1487	K-1489	K-1491	K-1493	K-1495	K-1497	K-1499	K-1501	K-1503	K-1505	K-1507	K-1509	K-1511	K-1513	K-1515	K-1517	K-1519	K-1521	K-1523	K-1525	K-1527	K-1529	K-1531	K-1533	K-1535	K-1537	K-1539	K-1541	K-1543	K-1545	K-1547	K-1549	K-1551	K-1553	K-1555	K-1557	K-1559	K-1561	K-1563	K-1565	K-1567	K-1569	K-1571	K-1573	K-1575	K-1577	K-1579	K-1581	K-1583	K-1585	K-1587	K-1589	K-1591	K-1593	K-1595	K-1597	K-1599	K-1601	K-1603	K-1605	K-1607	K-1609	K-1611	K-1613	K-1615	K-1617	K-1619	K-1621	K-1623	K-1625	K-1627	K-1629	K-1631	K-1633	K-1635	K-1637	K-1639	K-1641	K-1643	K-1645	K-1647	K-1649	K-1651	K-1653	K-1655	K-1657	K-1659	K-1661	K-1663	K-1665	K-1667	K-1669	K-1671	K-1673	K-1675	K-1677	K-1679	K-1681	K-1683	K-1685	K-1687	K-1689	K-1691	K-1693	K-1695	K-1697	K-1699	K-1701	K-1703	K-1705	K-1707	K-1709	K-1711	K-1713	K-1715	K-1717	K-1719	K-1721	K-1723	K-1725	K-1727	K-1729	K-1731	K-1733	K-1735	K-1737	K-1739	K-1741	K-1743	K-1745	K-1747	K-1749	K-1751	K-1753	K-1755	K-1757	K-1759	K-1761	K-1763	K-1765	K-1767	K-1769	K-1771	K-1773	K-1775	K-1777	K-1779	K-1781	K-1783	K-1785	K-1787	K-1789	K-1791	K-1793	K-1795	K-1797	K-1799	K-1801	K-1803	K-1805	K-1807	K-1809	K-1811	K-1813	K-1815	K-1817	K-1819	K-1821	K-1823	K-1825	K-1827	K-1829	K-1831	K-1833	K-1835	K-1837	K-1839	K-1841	K-1843	K-1845	K-1847	K-1849	K-1851	K-1853	K-1855	K-1857	K-1859	K-1861	K-1863	K-1865	K-1867	K-1869	K-1871	K-1873	K-1875	K-1877	K-1879	K-1881	K-1883	K-1885	K-1887	K-1889	K-1891	K-1893	K-1895	K-1897	K-1899	K-1901	K-1903	K-1905	K-1907	K-1909	K-1911	K-1913	K-1915	K-1917	K-1919	K-1921	K-1923	K-1925	K-1927	K-1929	K-1931	K-1933	K-1935	K-1937	K-1939	K-1941	K-1943	K-1945	K-1947	K-1949	K-1951	K-1953	K-1955	K-1957	K-1959	K-1961	K-1963	K-1965	K-1967	K-1969	K-1971	K-1973	K-1975	K-1977	K-1979	K-1981	K-1983	K-1985	K-1987	K-1989	K-1991	K-1993	K-1995	K-1997	K-1999	K-2001	K-2003	K-2005	K-2007	K-2009	K-2011	K-2013	K-2015	K-2017	K-2019	K-2021	K-2023	K-2025	K-2027	K-2029	K-2031	K-2033	K-2035	K-2037	K-2039	K-2041	K-2043	K-2045	K-2047	K-2049	K-2051	K-2053	K-2055	K-2057	K-2059	K-2061	K-2063	K-2065	K-2067	K-2069	K-2071	K-2073	K-2075	K-2077	K-2079	K-2081	K-2083	K-2085	K-2087	K-2089	K-2091	K-2093	K-2095	K-2097	K-2099	K-2101	K-2103	K-2105	K-2107	K-2109	K-2111	K-2113	K-2115	K-2117	K-2119	K-2121	K-2123	K-2125	K-2127	K-2129	K-2131	K-2133	K-2135	K-2137	K-2139	K-2141	K-2143	K-2145	K-2147	K-2149	K-2151	K-2153	K-2155	K-2157	K-2159	K-2161	K-2163	K-2165	K-2167	K-2169	K-2171	K-2173	K-2175	K-2177	K-2179	K-2181	K-2183	K-2185	K-2187	K-2189	K-2191	K-2193	K-2195	K-2197	K-2199	K-2201	K-2203	K-2205	K-2207	K-2209	K-2211	K-2213	K-2215	K-2217	K-2219	K-2221	K-2223	K-2225	K-2227	K-2229	K-2231	K-2233	K-2235	K-2237	K-2239	K-2241	K-2243	K-2245	K-2247	K-2249	K-2251	K-2253	K-2255	K-2257	K-2259	K-2261	K-2263	K-2265	K-2267	K-2269	K-2271	K-2273	K-2275	K-2277	K-2279	K-2281	K-2283	K-2285	K-2287	K-2289	K-2291	K-2293	K-2295	K-2297	K-2299	K-2301	K-2303	K-2305	K-2307	K-2309	K-2311	K-2313	K-2315	K-2317	K-2319	K-2321	K-2323	K-2325	K-2327	K-2329	K-2331	K-2333	K-2335	K-2337	K-2339	K-2341	K-2343	K-2345	K-2347	K-2349	K-2351	K-2353	K-2355	K-2357	K-2359	K-2361	K-2363	K-2365	K-2367	K-2369	K-2371	K-2373	K-2375	K-2377	K-2379	K-2381	K-2383	K-2385	K-2387	K-2389	K-2391	K-2393	K-2395	K-2397	K-2399	K-2401	K-2403	K-2405	K-2407	K-2409	K-2411	K-2413	K-2415	K-2417	K-2419	K-2421	K-2423	K-2425	K-2427	K-2429	K-2431	K-2433	K-2435	K-2437	K-2439	K-2441	K-2443	K-2445	K-2447	K-2449	K-2451	K-2453	K-2455	K-2457	K-2459	K-2461	K-2463	K-2465	K-2467	K-2469	K-2471	K-2473	K-2475	K-2477	K-2479	K-2481	K-2483	K-2485	K-2487	K-2489	K-2491	K-2493	K-2495	K-2497	K-2499	K-2501	K-2503	K-2505	K-2507	K-2509	K-2511	K-2513	K-2515	K-2517	K-2519	K-2521	K-2523	K-2525	K-2527	K-2529	K-2531	K-2533	K-2535	K-2537	K-2539	K-2541	K-2543	K-2545	K-2547	K-2549	K-2551	K-2553	K-2555	K-2557	K-2559	K-2561	K-2563	K-2565	K-2567	K-2569	K-257
--	-----	-----	-----	-----	-----	---------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------

表3-2-8 ケルントナーリング通りのデザインエレメント(1914年)

項目	平成27年度																平均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
財政状況	33.50	28.40	27.52	28.65	29.78	32.72	31.25	31.09	32.02	28.37	30.02	28.71	27.02	24.62	23.15	22.52	
財政健全化の状況	1.15	-0.61	-0.61	-0.25	-0.17	0.37	0.27	0.19	0.41	0.81	0.53	-0.57	-0.33	-0.55	-1.19	-0.55	
財政健全化の状況	27.60	28.30	28.00	28.65	29.50	32.53	29.25	31.09	27.41	28.37	28.93	28.71	27.80	24.62	23.15	22.52	
財政健全化の状況	1.01	0.03	0.03	0.05	0.08	0.08	0.07	0.13	0.09	0.05	0.04	0.05	0.04	0.05	0.05	0.05	
財政健全化の状況	25.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	
財政健全化の状況	0.18	0.00	0.42	0.42	0.42	0.12	0.12	0.08	0.11	-0.12	-0.14	-0.24	-0.10	-0.64	-0.45	-0.53	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40	28.42	31.83	28.12	26.49	27.83	25.82	25.82	26.37	25.83	24.52	23.52	23.42	
財政健全化の状況	31.69	26.40	26.72	27.40													

### 第3節 街区ファサードのデザインエレメントの分析と建築家の作品

表3-2-1～3-2-8の街区ファサードのデータベースを基に、X軸に建物番号(番地)、Y軸に分析項目毎の数値をとった折れ線グラフを作成し、以下の分析をやりやすいように視覚化した。その全グラフは附章1に掲載し、一部は本章に掲載する。これらのグラフには、図3-3-1a～図3-3-8iというように図番号をつけるが、ここでその図番号の付け方を説明しておく。

図番号は表3-2-1～表3-2-8に対応してつてある。すなわち、末尾の1～8の数字はそれぞれ、グラーベン街の94年(1)、75年(2)、55年(3)、14年(4)、及びケルトナーリング通りの94年(5)、75年(6)、55年(7)、14年(8)に対応している。また図番号の英文字a～iは、

- |                     |  |
|---------------------|--|
| a : 規模に関する分析項目の     | < 高さの絶対値 > の変化                                 |
| b : "               | < 路路平均に対する割合 > の変化                             |
| c : "               | < 平均との差 / 通りの平均路高 > の変化                        |
| d : パードの分割に関する分析項目の | < 高さの絶対値 > の変化                                 |
| e : "               | < 路路平均に対する割合 > の変化                             |
| f : "               | < 平均との差 / 通りの平均路高 > の変化                        |
| g : 開口部に関する分析項目の    | < 路路平均に対する割合 > の変化                             |
| h : 蛇腹に関する分析項目の     | < 絶対値 > の変化                                    |
| i : "               | < 路路平均に対する割合 > の変化                             |
| j : 色に関する分析項目の      | < h <sub>1</sub> -h <sub>2</sub> の差 > 上の頻度分布 > |

に対応している。

図中及び以降の議論において出てくる  $G-1$  や  $K-10$  といった記号の付け方のルールは、既に第2節で述べた。しかしここでもう一度記しておく。まず最初のアルファベットは、

GRABEN(グラベン街)	. . . . .	G
STOCK-IM-EISEN-PLATZ (ストック・イム・アイゼン広場)	. . . . .	S
KÄRNTNERRING(カントナーリング通り)	. . . . .	K

というように、街路名の頭文字に対応しており、その後ろの数字は建物の番地である。従って、例えば：

G - 1 0                    ⇔                    G R A B E N    1 0

というように対応している。また、いくつかの建物番号において、G-14, 15 のように番地が2つあるいは3つあるものがあるが、これは建物への入口が複数あるなどの理由で、一つの建物に2つの番地が与えられているものである。

### 3.3.1 グラーベン街の分析

#### <平均階高について>

表3-2-1における各デザイン要素の絶対値の標準偏差を見ると、「最高高さ」は3.96、「軒高」は1.33、「壁面長/分割数」は8.07、「平均階高」は0.26であり、「平均階高」が番地による変動が最も少なく、安定している。これは、他の分析年及びケルントナーリング通りについても同じことがいえるのが、表3-2-2～3-2-8及び図3-3-1a、図3-3-2a、図3-3-3a、図3-3-4a、図3-3-5a、図3-3-6a、図3-3-7a、図3-3-8aからも明らかである。従って、各分析年及び各街路に共通して、「平均階高」を基準にして分析することが可能であり、比較・検討しやすいといえる。即ち、「(デザイン要素の絶対値-平均値)/平均階高」をもって分析することによって、各デザイン要素の振動を比較できる。

#### 1) 規模及びファサードの分割

「最高高さ」「屋根の高さ」「軒高」及び「屋根部分」の各々について、グラーベン街における平均値の変化を表3-3-1に示す。ここで、「増加量(m)」はある分析年における数値とその前分析年における数値との差であり、「増分(%)」はある増加量の前分析年における数値に対する比である。この「増分」によって、各デザイン要素の増加の程度を比較することができる。

表3-3-1 グラーベン街における「規模」の平均値の変化

	1914	1955	1975	1994
最高高さ	31.31	31.14	31.14	31.62
増加量(m)	▲ 0.17	0.00	0.48	
増分(%)	▲ 0.54	0.00	1.54	
屋根高さ	29.06	29.24	29.50	29.68
増加量(m)	0.18	0.26	0.18	
増分(%)	0.62	0.89	0.61	
軒高	24.18	24.18	24.18	24.28
増加量(m)	0.00	0.00	0.10	
増分(%)	0.00	0.00	0.41	
屋根部	4.89	5.08	5.32	5.40
増加量(m)	0.19	0.24	0.08	
増分(%)	3.86	4.72	1.50	

表3-3-1を見ると、「最高高さ」「軒高」はほぼ横ばいで、最近の建て替え(ハース・ハウス)によって1975年から94年にかけて多少大きくなっているが、「屋根部」は特に1914年から75年にかけて比較的大きくなっていることが分かる。これは、戦後の復興計画と非常に大きな関係がある。即ち、この屋根裏部屋部の増築は戦後の復興計画によって促進されたのだが、それは下記に示す1947年のウィーン州建設法における戦災復興に関する特別立法によって明らかである。

1947年2月20日法改正(ウィーン市戦災復興に関する特別立法、ウィーン州建設法における例外規定によって許可されること)

§ 17

屋根裏層における住居の増築は、その屋根裏層の形状がその建物にふさわしくあるいは・・・(中略)・・・ければ、既存建築物及び建設法§ 87(4)の規定を緩和する本特別立法の§ 1による工事(被災建築物の建て替えなど)において許可される。その決定は、当該地区の委員会の確認が必要である。

【出典：Landesgesetzblatt für Wien, Jahrgang 1947,

Abgegeben am 10. April, 4. Stück, 5. Gesetz, p. 9】

また一方で、1975年までは「最高高さ」「軒高」の時間的変化はほとんどない。これは、グラーベン街の被災が比較的小さくかつ修復による戦災復興が行われたために、新築が比較的少なかったこと、新築が行われた場合にも出来るだけ高さを揃えようとしたことによると思われる。さらに、1975年から94年にかけて「最高高さ」が増加しているのは、ハース・ハウスが建設されたためである。また、1914年から1955年にかけて「最高高さ」が減っているのは、戦災によって幾つかの建物の塔状部分が被災したことによる。

次に図3-3-1c～4cを見てみる。ここで顕著なのは「最高高さ」の場所の変化が非常に大きいことである。平均階高の約±2倍の範囲で推移している。これは、塔、エルケア、その他屋根の上部に付けられる装飾などが多いことによる。グラーベン街には比較的古くからある歴史的建築が多く、こうしたものがそのタウンスケープの特徴を創り出し、変化を与えていると言える。

「壁面分割長」は、図3-3-1a～4a、1b～4bを見て明らかのように、その場所の変化が非常に大きい。5m～25mの間では交互に大きく変動している。図3-3-1b～4bを見ると、平均的な建物はほとんどない。平均より±40%前後大きい小さいかである。これは、縦線強調型と横線強調型が交互にあることを示している。建築家が恣意的にこういうタウンスケープを形成したのではないと思うが、このように交互に縦線強調型と横線強調型が現れるのは、タウンスケープのひとつのリズムになっている。従って、壁面の縦の分割はその建築物の建築家の自由なデザインに任せておいていいものと考えられる。また、法§ 80の壁面長さとの関係に関する規定では、「建築前面の長さ(壁面長)が30mを越え、かつ地盤の両端の高低差が3m以上ある場合には、建物前面の長さを分割しなければならない」となっている。グラーベンには地盤の高低差はほとんどないが、この30mという数字は上記の結果を見る限りは妥当な値である。さらに、グラーベンの連続壁面が完全に一つの建物であると仮定すると、壁面長の合計は479.64mであり、少なくと

も16に分割をしなければならないことになる。実際には46分割されているが、1つの建物を分割するときには2つに分割することはヨーロッパの美学上殆どあり得ず、普通3以上の分割になることから、妥当な結果が得られたと言える。

表3-2-1～3-2-4を見ると、「平均階高」は1955年に0.08mだけ小さくなったものの、その後はその高さを保っている。つまり、建て替えが1955年以降ほとんど行われていないこと、行われたとしても出来るだけ復元あるいは修復を基本にしていると考えられる。これは、保存地区などの一連の景観保存の一つの成果であると言える。階高は窓の位置などに影響を及ぼし、タウンスケープを大きく変える要素であるからである。

さて、最後に「平均値との差/平均階高」の標準偏差を検討することによって、隣接建築物に対しては大体どの位の差をもってデザインすればよいのかという定量的目安を得ることを試みる。標準偏差は、68%の信頼度をもって「平均値±標準偏差」間に存在することを示すものである。従って、隣接建築物に対して標準偏差程度の差があるようにすれば、全体として現状の「統一性」と「多様性」とが再現され、その同時実現が実現すると考えられる。

また、グラーベン街の「規模」と「ファサードの分割」に関するデザインエレメントの中で特に「壁面分割長」に関するものを除くと、新築が行われた場合以外は大きな時間的な変化がないことがグラフから読み取れる。従って、1994年の数値をもって、「統一性」と「多様性」との同時実現のための定量的目安を導いてよいといえる。以上より、標準偏差を1994年時点から抽出すると表3-3-2のようになる。

表3-3-2 グラーベン街の1994年の「規模」及び「ファサードの分割」に関するデザインエレメントの「平均値との差/平均階高」の標準偏差

	標準偏差		標準偏差
最高高さ	2.31	基壇部	0.41
軒高さ	0.34	中層部	0.36
平均階高	0.07	屋根部	0.45

これらの標準偏差の平均値は0.6566...である。即ち「規模」及び「ファサードの分割」に関するデザインエレメントの変化は、平均階高の約±0.66倍の範囲（合わせて平均階高1.3階分）の中に68%の信頼度で存在することになる。従って、グラーベン街においては、隣接建築物に対して平均階高の0.66階分の差を目安にすることによって、「統一性」と「多様性」の同時実現を得ることができる。いえる。

図3-3-1a グラーベン街のファサード（規模）の変化[1994]  
—高さの絶対値—

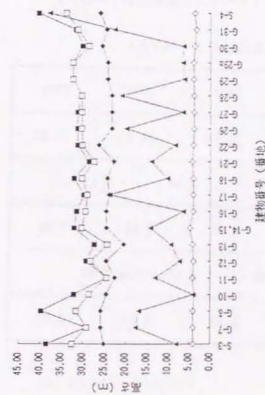


図3-3-2a グラーベン街のファサード（規模）の変化[1995]  
—高さの絶対値—

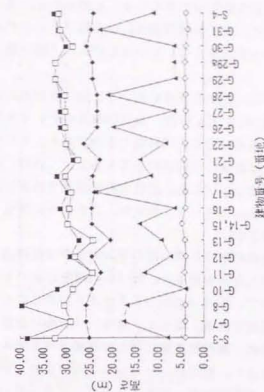


図3-3-3a グラーベン街のファサード（規模）の変化[1955]  
—高さの絶対値—

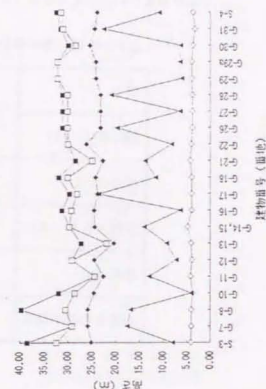
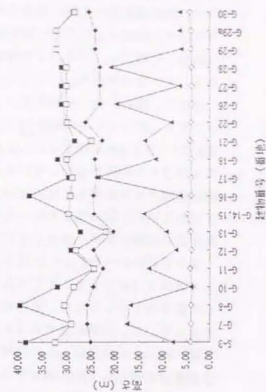


図3-3-4a グラーベン街のファサード（規模）の変化[1914]  
—高さの絶対値—



## 2) 開口部

「開口率」は特に1914年から55年にかけて大きくなり、その後の増分は減ってはいるが、微増である。一方で、「平均大きさ」は1914年から55年にかけて多少大きくなっているが、その後の増分は横ばいからさらにマイナスへと転じている(表3-3-1)。分析項目の定義により「開口率」は基壇部分の窓を含み、「平均大きさ」は基壇部分を含んでいないので、基壇部分において開口部を大きく開けるようになってきていることが分かる。即ち、グラーベン街はウィーンで一番の高級商店街で、その基壇部分には高級ブティックなどがあり、そのショーウィンドウ等が改装によって大きくなっているために、「開口率」は増大しているのである。

さらに、図3-3-1g~4gを見ると、通りの平均に対する割合において、開口率が窓の大きさよりも上回っているのはG-10、G-16、G-28、G-29、G-29a、G-30、及び1994年のS-4であるが、表3-2-1~3-2-4と比較すると、これらの建築様式は全て近代以降のものである。その他のものはその関係が逆転しているが、それらは古典的な様式のものである。これは、古典的な建築では窓の大きさは大きい、窓の数は少ないこと、近代以降の建築では窓の大きさは小さい、窓の数は多いことを示している。グラーベン街には、このように異なる建築様式の建物が数多く存在していることが分かる。

また表3-2-1~表3-2-4を見ると、通り全体における開口部の平均大きさは各時点を通じてほぼ2.9㎡である。そして各建物の平均大きさを見ると、幾つかの建物において突出した数字のものもあるが、多くの建物において、約2.9㎡から2.0~3.0%のところでおさまっている。標準偏差で見るとはほぼ0.85程度である。従って、グラーベン街における「統一性」と「多様性」との同時実現のために、隣接建物に対して考慮すべき窓の大きさの差は目安として約0.85㎡であると考えてよい。最近ではシームレスあるいはカーテンウォール形式を用いることによって大きな開口が可能になってきているが、グラーベン街の特に隣接部分においては、余り大きな窓を設けず、1つの窓で2.9±0.85㎡を目安にすることが望ましいと考えられる(これは、ハース・ハウスで実践されている)。

表3-3-3 開口部の分析項目の経年変化(グラーベン街)

年	1914	1955	1975	1994
開口率<X> (%)	31.09	31.65	31.80	31.81
増分<X <sub>2</sub> -X <sub>1</sub> >		0.56	0.14	0.01
平均大きさ (㎡)	2.87	2.92	2.92	2.90
増分 (㎡)		0.05	0.00	▲ 0.02
大きさの標準偏差	0.86	0.83	0.83	0.82

図3-3-2g グラーベン街の平均開口率(開口部)の変化[1975]

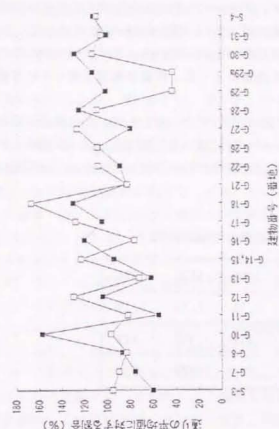


図3-3-1g グラーベン街の平均開口率(開口部)の変化[1994]

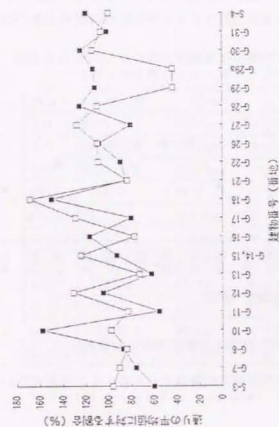


図3-3-4g グラーベン街の平均開口率(開口部)の変化[1914]

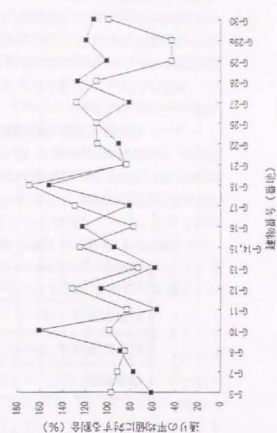
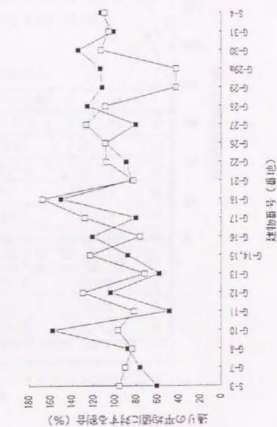


図3-3-3g グラーベン街の平均開口率(開口部)の変化[1955]



### 3) 装飾

「蛇腹」は、1955年において下がっているが、その後は平行線を保っている。これは建替えが戦災復興計画後、ハース・ハウス位しかなかったことに由来しているが、こういった装飾は近代建築では排除される。従って、グラーベン街のように多くの様式が混在している街路においては、その番地に対する変化は大きい(図3-3-1h~4h)。しかし、1994年において、ハース・ハウスの新築で、石割率が上がっているように、現代的なやり方で、蛇腹が出てくる可能性はある。ブロック建築のように、蛇腹は視線を導くのに有効な方法であるからである。

一方で、蛇腹断面量率の標準偏差は、1914年において210であり、その他の時点では239である(表3-3-4)。従って、グラーベン街において「統一性」と「多様性」との同時実現のためには、「蛇腹断面量率」の隣接建築物に対する差を230  $\text{cm}^2/\text{m}$  程度にすることが定量的目安になると考えられる。

表3-3-4 グラーベン街における蛇腹断面量の時間的変化

エレメント \ 年	1914	1955	1975	1994
蛇腹断面量 ( $\text{cm}^2$ )	1.34	1.16	1.16	1.16
蛇腹断面量率 ( $\text{cm}^2/\text{m}$ )	548	473	473	473
標準偏差	210	239	239	239

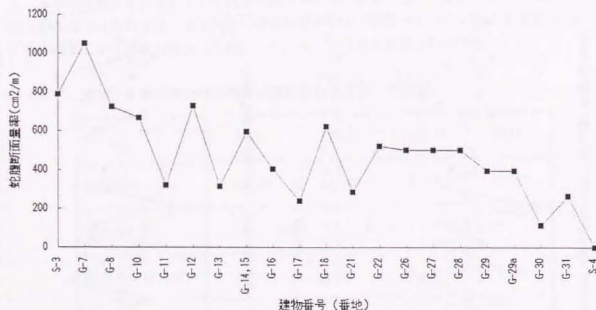


図3-3-1h グラーベン街の建物エレメント (蛇腹) の変化[1994] — 絶対値 —

### 4) 主要仕上げ材料 (材料と色)

材料については定性的な分析に留める。色については、マンセル値と日本カラー研究所のカラー・イメージ・スケールによる分析を行う。

まず、主要材料は定性的に見るとその殆どが大理石またはコンクリート若しくはモルタルの上に各種塗料類の吹き付けである。その材質感は温かで柔らかく、そういう意味では似たようなものが多い。金属等の冷たく固い感じのする材料は主要材料には使われていない。

次に色であるが、表3-3-5 に、表3-2-1 から抜粋したグラーベン街の各建物の主要仕上げ材料のマンセル値とそれをヒュー&トーンに置換した結果を示す。

このマンセル値を見ると以下のことが分かる。色相はYとYRの系統が殆どで、隣接建築物同士の対比度が $0^\circ \sim 36^\circ$ 位の差であるものが多い(最大 $54^\circ$ )。即ち、色相調和については類似調和が殆どで、非常に高いことが分かる。また、明度は7以上の明るいものが多いが、その明度差は概ね1~2程度で類似調和から中間調和である。しかし明度差の最大は4であり、対比調和しているものも見られる。一方、彩度は1~2.5程度のところに分布し、沈んだものが多いものの、彩度差はほぼ1以内で類似調和している。従って、グラーベン街では、色相と彩度とで「統一性」があり、明度で多少の「多様性」があることが分かる。

さらに図3-3-1jに、ヒュー&トーンの頻度をカラー・イメージ・スケール上に落としたものを示す。これを見ると、G-30を除いて、ロマンチック、ナチュラル、及びクリアというソフトなイメージの部分に分布している。しかもそのイメージは、カラー・イメージ・スケール上で隣り合っており、よく調和した色が使用されている。従って、「統一性」と「多様性」との同時実現のための目安は、隣接建築物同士の色がカラー・イメージ・スケール上で隣り合ったゾーンにあることである。これは主要材料の傾向にも一致しており、材料と色との相乗効果がウィーンの雰囲気を形成していると思われる。

表3-3-5 グラーベン街の各建築物の主要材料の色  
(マンセル値のヒュー&トーンへの置換対応表)

No	マンセル値	t1-t2	No	マンセル値	t1-t2
S-3	5Y7/1	5GY/Lgr ナ	G-21	5GY8.5/0.5	5GY/Vp □
G-7	5Y7.5/1.5	5GY/Lgr ナ	G-22	2.5Y9/2	5Y/Vp □
G-8	10YR7.5/2	5YR/Lgr ナ	G-26	10YR9/1	5Y/Vp □
G-10	2.5Y9/4	5Y/P □	G-27	10YR9/1	5Y/Vp □
G-11	5Y7/1	5GY/Lgr ナ	G-28	10YR9/1	5Y/Vp □
G-12	5Y7.5/1.5	5GY/Lgr ナ	G-29	10YR8/2	5YR/Lgr ナ
G-13	2.5YR8.5/2.5	5YR/Vp □	G29a	2.5Y5/2	5GY/Lgr ナ
G-14	2.5YR9/2	5Y/Vp □	G-30	2.5Y4/2	5GY/Gr シ
G-16	2.5Y9/3	5Y/P □	G-31	7.5G8/1.5	5G/Vp ク
G-17	7.5R7.5/2	5R/Lgr ナ	S-4	2.5G8/2	5G/Vp ク
G-18	5Y7.5/1.5	5GY/Lgr ナ			

(注) 表中ヒュー&トーン欄の片仮名は各々のカラー・イメージに対応している。  
ク: 997 シ: 999 ナ: 999a ロ: 999b

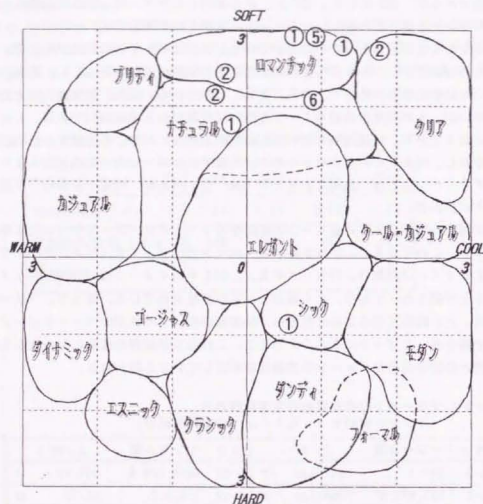


図3-3-1 グラーベンの主要材料の色彩頻度分布 (1994年)

注1) 参考文献#5をもとに、筆者が測定した各建築物の主要材料のマンセル値をヒュー&トーンに置換し、カラー・イメージ・スケールにプロットした。

注2) ○内数字は、各ヒュー&トーンの頻度を表す。

### 3.3.2 ケルトナーリング通りの分析

1993年のケルトナーリング・ホーフの完成に伴い、K-5 とK-7 が一つになったので、1994年のデータは建築番号が一つ少ない。また、1914年のK-2 のデータは、建築警察 (Baupolizei) になかったので、1914年のデータも建築番号が一つ少ない。以上のことを念頭に入れて以下の議論を進める。

#### 1) 規模及びファサードの分割

「最高高さ」「屋根の高さ」「軒高」及び「屋根部分」の各々について、ケルトナーリング通りにおける平均値の時間的変化を表3-3-6 に示す。ここで、「増加量(m)」はある分析年における数値とその前分析年における数値との差であり、「増分(%)」はある増加量の前分析年における数値に対する比である。この「増分」によって、各デザインエレメントの増加の程度を比較することができる。

表3-3-6 ケルトナーリング通りにおける「規模」の時間的変化

	1914	1955	1975	1994
最高高さ	28.62	30.44	30.57	30.86
増加量(m)	1.82	0.13	0.29	
増分(%)	6.36	0.43	0.95	
屋根高さ	27.39	29.50	29.72	30.58
増加量(m)	2.11	0.22	0.86	
増分(%)	7.70	0.75	2.89	
軒高	24.22	25.00	25.00	24.67
増加量(m)	0.78	0.00	▲ 0.33	
増分(%)	3.22	0.00	▲ 0.32	
屋根部分	3.17	4.50	4.73	6.03
増加量(m)	1.33	0.23	1.30	
増分(%)	41.96	5.11	27.48	

これを見ると、「屋根部分」の増加の程度が他のデザインエレメントに比べて大きいのが特徴的である。特に1914年から55年にかけて「屋根部分」の増加が特に大きく、この時期に屋根裏部屋が増築が多く行われたことが分かる。これはグラーベン街と同様に、戦災復興計画における特別立法が大きく関係していることは明らかである。

その他には、「軒高」は殆ど変わらないが、「最高高さ」と「屋根高さ」はグラーベン

街に比べて増加していること、特に「屋根高さ」は最高高さに近づいてきていることが分かる。これは、グラーベン街と異なり、リング道路がグルンデア・ツァイトの時期に街路が形成され、その時に丁度最初の建築線の規定ができたことにより、塔状の建築の部分や屋根上部の飾り等が比較的少なかったこと、戦災で被害を受け近代的な建築に建て替えられたものが比較的多かったことに起因しており、そのためグラーベン街よりも増築・改築・新築が多かったことが分かる。また、図3-3-5a~8aから分かるように、「最高高さ」「軒高」ともケルトナーリング通りの平均階高のほぼ±1階分の範囲で推移している（但し、K-16はその中の特異点である<sup>(9)</sup>）。従って、ケルトナーリング通り全体で見ると、この範囲におさまって変化があるのが望ましいと思われる。

次に、「壁面長/分割数」は、図3-3-5a, b~8a, bを見ると、5m~40mの間を大きく変動している。この変化の仕方は、グラーベン通りほど大小の入れ代わりが交互にはなっていないが、そういう傾向は持っている。その変化の幅はグラーベン街より大きく、標準偏差で9.67mである。「壁面長/分割数」は、大きいほど横線強調、小さいほど縦線強調を表しているので、上記のようにほぼ交互に現れるのがウィーンの街並みに変化を与えていると思われる。

「基壇部」と「中層部」は、図3-3-5d~8dを見ると、だいたい5m位の幅で納まっている。図3-3-5f~8fを見れば、幾つか特異点があるものの、概ね平均階高の±0.5倍の範囲で上下動しているのが分かる。写真3-2-2を見ても、これより大きくずれていると、揃っている感じはしない。

総じて「規模」に関するデザインエレメントは、平均階高のほぼ±1階分に相当する大きさの範囲で変化している。またその範囲にあることによって、「統一性」と「多様性」とが同時に実現し、揃っているようでありながら各々の建物が違う印象を与えることができると思われる。従って、無理に高さを同じにしくても、この範囲に納まっていれば、「周辺の建築物を考慮する」という条件のもとで、街区ファサードの「統一性」を保つこともでき、好ましい「多様性」のある空間にすることができると言えるだろう。

また、戦災復興や新築によって、ケルトナーリング通りの建物も変わりつつあるが、「規模」や「ファサードの分割」に関するデザインエレメントの時間的変化は余り大きくなく、その変化はケルトナーリング通りの景観に対して余り大きな影響を与えないように考慮されていることが表3-3-6 や図3-3-5a~3-3-8aなどから読み取ることができる。従って、グラーベン街と同様に1994年の場所的変化のみで、隣接建築物に対して考慮すべき定量的目安を議論することができる。従って、1994年の「平均値との差/平均階高」の標準偏差をここで検討し、「統一性」と「多様性」との同時実現のために、隣接建築物に対して考慮すべき定量的目安を得ることを試みる。表3-2-5 から標準偏差のみを抽出すると、表3-3-7 のようになる。

これらの標準偏差の平均値は0.5316...であり、即ち「規模」及び「ファサードの分割」に関するデザインエレメントの変化は、平均階高の約±0.53倍の範囲（合わせて平均階高1.06階分）の中に68%の信頼度で存在するということになる。従って、ケルトナーリング通りにおいて「統一性」と「多様性」とを同時に実現するためには、隣接建築物に対して平均階高の0.53階分の差を定量的目安にすることができよう。

表3-3-7 1994年のケルトナーリング通りの「規模」及び「ファサードの分割」に関するデザインエレメントの「平均値との差/平均階高」の標準偏差

	標準偏差		標準偏差
最高高さ	0.91	基壇部	0.55
軒高さ	0.69	中層部	0.44
平均階高	0.12	屋根部	0.48

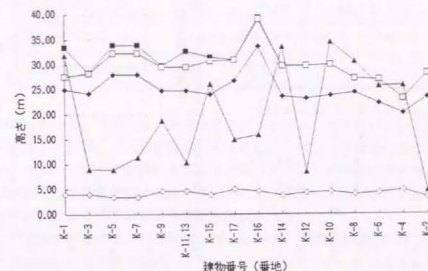


図3-3-6a ケルトナーリング通りのデザインエレメント（規模）の変化[1975] — 高さの絶対値 —

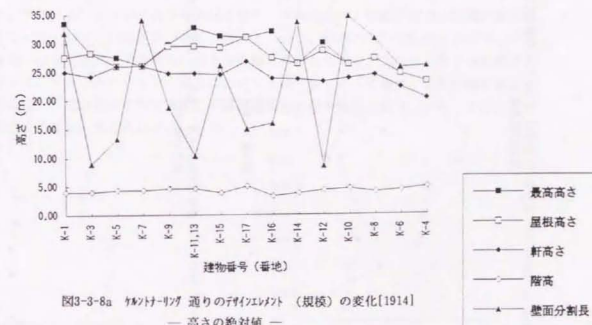


図3-3-8a ケルトナーリング通りのデザインエレメント（規模）の変化[1914]

— 高さの絶対値 —

図3-3-5d ケントナリング 通りの子ガインエレメント (7ヶ-F) の変化[1994]  
一 高さの絶対値一

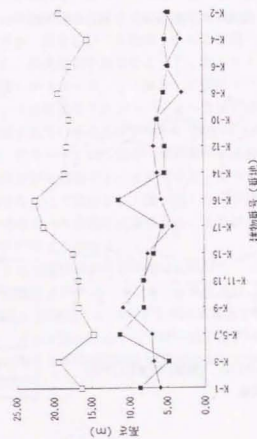
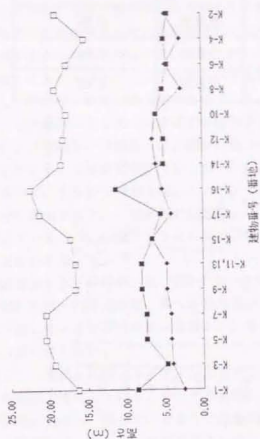


図3-3-6d ケットリング 通りのチャイェメント (74-F) の変化(1975)  
—高さの絶対値—



543-3-7d カントナリング 通りのデザインメント (フォード) の変化(1955)  
—高さの絶対値—

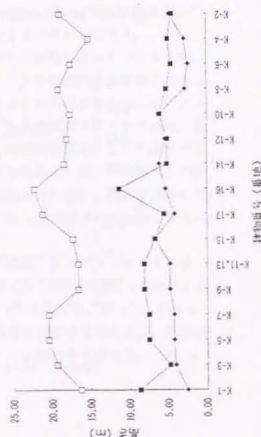
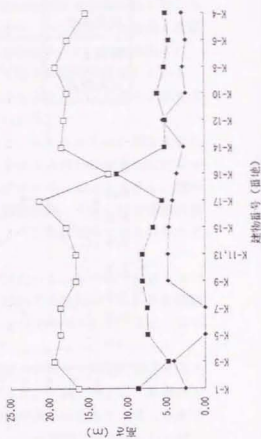


図3-3-8d 7W1ナ-リツ 通りの7W1エバト (7W1-ド) の変化[1914]  
—高さの絶対値—



## 2) 開口部

表3-2-5～8から、「開口率」と「平均大きさ」のケンルトナーリング通り全体における平均値と標準偏差の時間的変化を取り出したのが表3-3-8である。

表3-3-8 開口部の分析項目の時間的变化(ケルトナーリング通り)

	1914	1955	1975	1994
開口率 $\langle X \rangle (\%)$	24.44	30.14	30.37	29.58
増加量 $\langle X_n - X_1 \rangle$		5.70	0.23	▲ 0.79
平均大きさ $\langle m \rangle$	3.32	3.19	3.19	3.30
増加量		▲ 0.13	0.00	0.11
大きさの標準偏差	0.80	0.65	0.65	0.87

1955年において、「開口率」が大幅に上がっている。それに対し、「平均大きさ」は下がっている。これは、二つの原因が考えられる。一つは、基礎部における開口の量が増えたこと、もう一つは、中層部の窓の大きさは小さくなったが窓の数が増えたことである。これらは両方とも近代建築の傾向を現している。実際に、K-2.5, 7には当時のウィーンの戦災復興計画による代表的な近代建築が建設された。

ここで指摘できるのは、1975年から94年にかけてその逆転現象が起こっていることである。これは単に、第2章で触れたケルトナリング・ホフによるものだが、戦前の水準にかなり戻して、特に平均大きさが増しているのは、この建築のファッダーが内部の機能から切り離して設計されているため、一つの窓の大きさを極端に大きくすることができたのである。それによって現代性を表現することができたのは、この建築の大きな特徴といえることができるだろう。

また、ケルトナリーニング通りに於ける窓の「平均大きさ」の標準偏差の時間的変化は、1914において0.80m、1955年及び1975年において0.65m、94年において0.87mである。一方、図3-35e~8gを見ると、平均値の±30%の幅で推移している。これは、約1mに相当する。従って、ケルトナリーニング通りにおいて「統一性」と「多様性」とを同時に実現するためには、「開口部の平均大きさ」の隣接建築物に対する差を約0.8mにすることが定量的目安になると考えられる。

図3-3-5g ケントナーリング通りのデイルメント (開口部) の変化[1994]

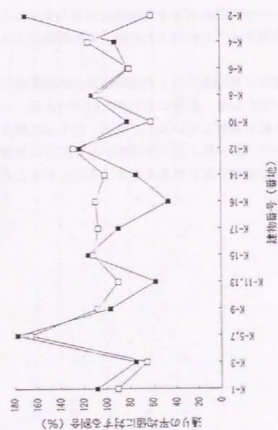


図3-3-5g ケントナーリング通りのデイルメント (開口部) の変化[1975]

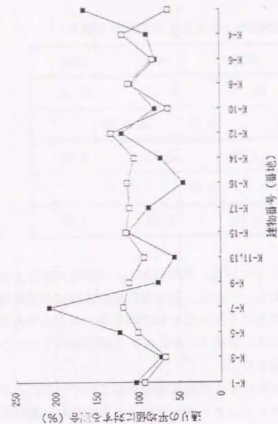


図3-3-4g ケントナーリング通りのデイルメント (開口部) の変化[1955]

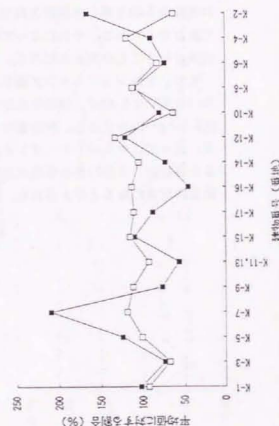
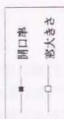
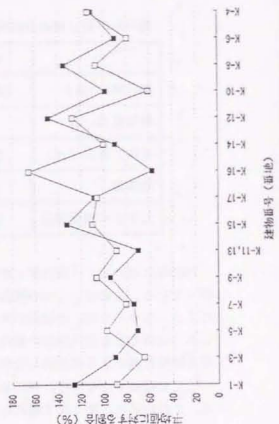


図3-3-4g ケントナーリング通りのデイルメント (開口部) の変化[1914]



## 3) 裝飾

「蛇腹断面量率」は、1955年において大幅に下がっているが、その後は平行線を保っている。1994年に再び上がっているが、これは K-5及びK-7 が一つの建物になったからにすぎない。1994年のこの建物には蛇腹はないので、実質1955年以降は蛇腹は増えても減ってもない。結局、グラーベン街と同じように、このケルトナー・リング通りにも多くの様式が混在しているので、番地に対する変化は大きい(図3-3-5h~8h)。しかし、1994年において、ケルトナーリング・ホーフの新築で、石割り率が上がっているように、現代的なやり方で、蛇腹が出てくる可能性はある。これは、グラーベン街と同様である。

また、「蛇腹断面量率」の標準偏差は、1994年：286、1975年：294、1955年：294、1914年：215である。従って、ケルトナーリング通りにおいて「統一性」と「多様性」とを同時に実現するためには、隣接建築物に対する「蛇腹断面量率」の差を約250 cm/mにすることが定量的目安として考えられる。

表3-3-9 ケルトナーリング通りにおける蛇腹断面量の時間的变化

デイルメント	年	1914	1955	1975	1994
蛇腹断面量 (m <sup>2</sup> )		1.10	0.96	0.96	1.03
蛇腹断面量率 (cm/m)		455	382	382	407
標準偏差		215	294	294	286

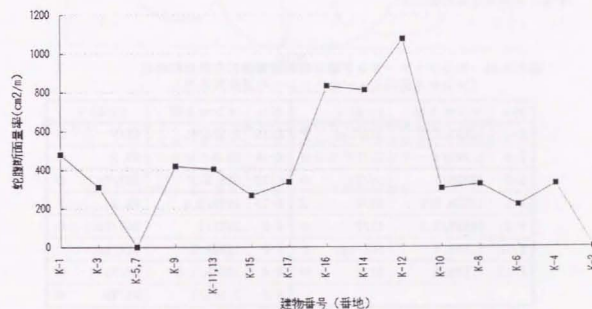


図3-3-5h ケントナーリング通りのデイルメント (蛇腹) の変化[1994] — 絶対値 —

#### 4) 主要材料の色

まず材料は、グラーベン街とほぼ同様に大理石とコンクリート若しくはモルタル補修の上に塗料吹き付けが主流であり、それにさらにライムストーンが付け加わっているが、これは大理石よりさらに柔らかい感じを与えてくれるものである。街の中を見渡すところしたライムストーンを使った建物は比較の少ないが、風合いが柔らかいため、街並みによく調和している。

次に色について、まずマンセル値を見てみると、ケルトナーリング通りの色の調和のぐあいについて以下のことが分かる。色相はY及びYRの系統が殆どで、隣接建築物に対する対比度も0°～3.6°位で類似調和であるものが多い。その最大値はK-8対K-6の7.2°で中間調和である。明度差は0が3、0.5が3、1が2、1.5が1、2が2、4が2である。このことから明度については、類似調和から中間調和が多いが、対比調和もある。また、彩度差は0～2が殆どで、2.5が1、3が1、5が1である。このことから彩度については類似調和しているといえる。従って以上より、グラーベン街と同様に、色相と彩度については「統一性」があり、明度については多少「多様性」がある。全体的には「統一性」が非常に高い。

さらにマンセル値をヒュー&トーンに置換し、その頻度をカラー・イメージ・スケールにプロットしたものを図3-3-5に示す。これを見ると、グラーベン街より分布がWARM-COOL方向に広がっているが、全てSOFTな色である。また、番地K-16を除くと全て、隣接する建物と同じカラー・イメージ若しくは隣のゾーンのカラー・イメージである。隣接する建物を意識した、よく調和する色を使っていることが分かる。従って、ケルトナーリング通りにおいて「統一性」と「多様性」とを同時に実現するためには、隣接建築物同士の色がカラー・イメージ・スケール上において隣り合ったゾーンまでにあるようにすることが考えられる。

表3-3-10 ケルトナーリング通りの各建築物の主要材料の色  
(マンセル値のヒュー&トーンへの置換対応表)

No	マンセル値	ヒュー&トーン	No	マンセル値	ヒュー&トーン
K-1	10YR7.5/2	5YR/Lgr ナ	K-16	2.5Y8/6	5Y/V カ
K-3	2.5Y9/4	5Y/P ロ	K-14	N9.0	N9.0 ロ
K-5	10YR9/1	5Y/Vp	K-12	5Y8.5/1	5GY/Vp ロ
K-9	10YR8.5/6	5Y/B プ	K-10	10Y9/0.5	N9.5 ク
K-11	10YR9/3.5	5Y/P ロ	K-8	5GY9/1	5GY/Vp ロ
K-15	2.5Y5/2	5GY/Lgr ナ	K-6	10YR7/2	5YR/Lgr ナ
K-17	2.5Y9/4	5Y/P ロ	K-4	10YR9/1.5	5Y/Vp ロ
			K-2	2.5Y9/1	5Y/Vp ロ

(注) 表中ヒュー&トーンの欄の片仮名は各々のカラー・イメージに対応している。  
カ: カッシュ ク: クリ ナ: ナッシュ ロ: ロマンチック プ: プリティ

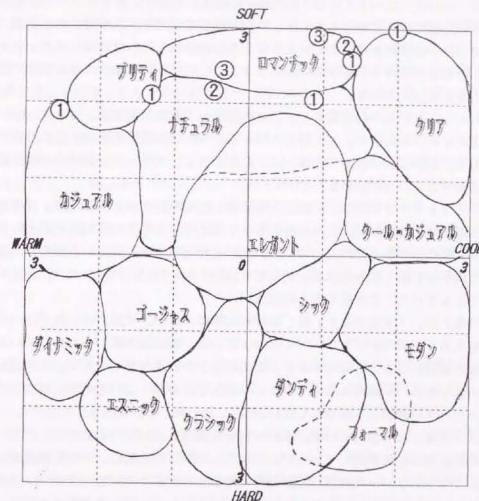


図3-3-5 ケルトナーリング通りの主要材料の色彩頻度分布 (1994年)

注1) 参考文献#5をもとに、筆者が測定した各建築物の主要材料のマンセル値をヒュー&トーンに置換し、カラー・イメージ・スケールにプロットした。  
注2) ○内数字は、各ヒュー&トーンの頻度を表す。

### 3.3.3 対象街路における著名建築家の作品

#### 1) アンカーハウス (O. ワグナー)

アンカーハウス (G-10) は、1893年から95年にかけて、オット・ワグナーによって設計された都市複合建築である。1、2階の基壇部にガラスで被覆された店舗 (ガラスは、後の用途の変更に対応しやすいようにするためである)、中層部にオフィス・住宅、最上階に王冠状のガラスの屋根部分というように、ゾーニングされた複合建築の提案がなされていると言われている。

図3-3-1a~4a及び1c~4cを見ると、「最高高さ」「軒高」「階高」ともアンカー・ハウスは平均的なレベルにある。この項目に関するかぎりは非常に模範的で当たり障りのない建築である。しかし、「壁面分割長」は、最も小さく、グラーベン街の中で最も縦線を強調した建築であることが分かる。

また、「ファサードの分割」では、「中層部」は平均的だが、「基壇部」は平均より大きく、「屋根部」は小さい。これは高さをより高く見せようということと考えられる。オット・ワグナーの多くの作品において、窓が低層部で大きく高く、中層部から高層部に移ると小さく低くなっており、階段でも同じことを行い、パースペクティブな効果を高めようとしていたことを考えると興味深い。

「開口部」は、「平均大きさ」は、平均的な水準にあるが、「開口率」はグラーベン街の中で最も大きく、平均より60%近く上回っている。他の建築物が平均からせいぜい20~30%の範囲にあることを考えると、他の建物との大きな違いである。これだけ「開口率」が大きいても、中層部においてクラシックな手法を使っているため、グラーベン街の街並みから大きく逸脱した感じはしない。

それは「蛇腹」にも現れている。図3-3-4iを見ると、1914年の時点では、グラーベン街の全ての建築物が蛇腹を持っているが、アンカーハウスの蛇腹は、「蛇腹断面量」で見ると平均よりやや大きい。それは、戦後以降の建築物の修復と建て替えの中で、当然ながら平均のレベルより高くなっていくわけであるが、そうした蛇腹に代表される装飾によって、伝統的な街並みから大きく逸脱しないようにしていることが分かる。

こうして見ると、アンカーハウスがグラーベン街の他の建築物から逸脱しているのは、「壁面分割長」が特に縦線強調型であること、「開口率」が特に大きいことである。しかし、グラーベン街の中では縦線強調型と横線強調型が極端に交互に現れていることを考えると、「壁面分割長」も逸脱しているわけではない。むしろ、街区ファサードにリズムを与えているという点では、タウンスケープの「多様性」に貢献しているといえることができる。他の建物と違うのは、その縦線強調を、さらにファサードの分割で強調していることである。従って、アンカー・ハウスはウィーン市都心部のタウンスケープにおいて、模範的かつ個性的な建築物であるといえることができるだろう。

#### 2) ハース・ハウス (H. ホライン)

ハース・ハウスはS-4 (1994年) である。

「規模」に関するデザインエレメントについて見ると、図3-3-1b及び1cより、「軒高」「階高」については、平均的な水準である。しかし、図3-3-1a及び1cを見ると、「最高高

さ」及び「壁面分割長」は、グラーベン街の最高値になっている。「最高高さ」は、S-3のゴシック建築とG-8の背の高い建築が近くにあるので、そこまで気にならないのかもしれないが、データ上はかなり突出した存在である。「壁面分割長」が大きいのは、壁面が曲線を描いているからである。これは第2章で触れたように、ハース・ハウスの最も重要なコンセプトである歴史の解釈から来ている。従って、この数値が他の建築物から突出しているのはハース・ハウスの特徴を示しているといえることができるだろう。

ファサードの分割に関する要素を見ると、「基壇部」及び「中層部」は平均的である。「屋根部」は、平均値よりも40%程度大きい (図3-3-1e)。これは、第2章で触れたように、ハース・ホラインが屋根の造形に力を入れたこととも関係していると思われる。しかし、そういった建築は他にも見られる (S-3, G-29, G-29a) し、それらの建設年次と様式も多様である。従って、「屋根部」はハース・ハウスの特徴的な要素であると同時に、ウィーン都心部のタウンスケープの「多様性」を創り出している。

「開口部」の中では、特に「平均大きさ」は平均的である (図3-3-1g)。「平均大きさ」は、周辺建築物の窓の大きさを意識したと思われる。「開口率」は、平均より20%程度大きく、ガラスがこの建築の特徴であることを示しているが、隣接する建築物を大きく越える程ではない。完全なガラスの建築にはしないようにしたことが分かる。

#### 3) ケルトナーリング・ホーフ (W. ホルツバウアー)

ケルトナーリング・ホーフはK-5, 7 (1994年) である。

「規模」に関するデザイン・エレメントは、図3-3-5bを見ると、「最高高さ」と「軒高」は平均的な水準にある。この二つの要素は、第3章3.3.2で考察したように、ケルトナーリング通りの街路空間の「統一性」を演出している代表的な要素である。ケルトナーリング・ホーフにおいても、建築クラスによる規制があるとはいえ、隣接する建築物及びこの街路空間に対して非常に考慮しているといえる。「階高」は、ケルトナーリング通りの中で下から2番目に小さい。これは、戦後に建て替えられ、火災を受ける前のこの敷地の建物 (K-5, K-7) において、容積率を上げるために階高を抑えたことによる。1993年に完成したこのケルトナーリング・ホーフにおいても同じく容積率を求められたので、「階高」が小さい。しかし、第2章でも触れたように、「階高」が小さいことがタウンスケープの中で目立たないように配慮しており、それが「開口部」に関するデザイン・エレメントに現れている (この点については後述する)。

「壁面分割長」は、第3章3.3.2で考察したケルトナーリング通りの傾向の中では、平均的である。しかしながら、実際には、この分割は非常に微妙であり、「ファサード」を一枚の壁で表現し、その中に目立たないようにシンメトリーと分割を入れ<sup>(19)</sup>ている。本研究においては、分割が入っているとして扱っているが、こうした点を考慮し、写真3-2-2を見ると、縦線強調型でも横線強調型でもない。このことはケルトナーリング・ホーフの大きな特徴のひとつである。

ファサードの分割については、「基壇部」が平均よりかなり大きい。それに従い「中層部」の大きさが平均より小さい (図3-3-5e)。これは蛇腹などの横の強い線がないために、実際はこの明解な区分は難しいのであるが、1階の開口が大きいこととファサードにおける開口部の関係から「基壇部」を判断したものである。「基壇部」が大きいのは、階高が

大きい建物に見せようとした現れであると思われる。しかし、この建物が縦線強調型でも横線強調型でもなく、また「蛇腹」による明解な横線がないことによって、ケルトナー・リング通りのタウンスケープ中で現代的で軽さのあるデザインを感じさせている。

こうして「規模」と「ファサードの分割」について見てみると、あまり個性的な特徴を感じさせない中性的な部分がある建築であるという感じがする。

しかし、この建物を特徴づけているのは「開口部」である。図3-3-5gを見ると、「開口率」も「窓の平均大きさ」も通りの平均よりかなり大きい。「開口率」は平均を80%上回り、「窓の平均大きさ」も60%強上回っている。これによって、軽さとダイナミックさを表現している。また、2階分あるいは3階分ある窓を設けることによって、「階高」が小さいことを感じさせないようにしている。こうした配慮が、このケルトナーリング・ホーフを近代建築と違うものにし、また周辺の古典的な歴史的建築物と調和し、かつ現代性を感じさせるものになっていると考えられる。

さらに「石割り」があるのが、古典的な印象を与えている。近代建築が「チーズ穴のような窓」と変化のない壁面によって無味乾燥なファサードを形成していたのに対して、ポストモダン的ではあるが周囲に調和したタウンスケープを形成するように考慮している。ケルトナーリング・ホーフの場合は、この「開口部」と「石割り」の二つの要素がファサードに特徴を与え、現代性を持たせると同時に、周囲の歴史的空間に調和するようにしているといえる。

以上、本章の対象街路における著名建築家の作品について考察することを行った。こうしてみると、グラーベン街とケルトナーリング通りにおいて、著名建築家たちは「規模」に関するデザインエレメントの中でも特に「軒高」を揃えることに意識を置き、その他のデザインエレメントについても平均的な値を用いることによって周辺の建物に調和するようにしていることが分かった。しかしその一方で、幾つかのデザインエレメントについて独自の考えを展開している。例えば、「規模」と「ファサードの分割」に関するデザインエレメントを縦線が強調されるように構成し、建物を個性的なものに仕立て上げているものもある。また、分割があまり強調されないようにしているものもある。そしてさらに、その考え方が生かされるように「壁面分割長」をデザインし、縦線強調型と横線強調型を選択している。「開口部」についても、基壇部分の開口率を大きくしたり、全体の窓を大きくすることによって軽さと現代性を表現していることが分かった。

最後にここで、主要材料の「材料」及び「色」について見ておくと、ここで扱ったどの著名建築家の作品も、その建築物が存在する街路の特徴と一致しやすく馴染みやすいものを選んでいいる。即ち、大理石やライムストーンのような柔らかく高級感のある材料を用い、色もソフトで街路全体のカラーイメージにマッチしたものを使っていることが分かった。これは、周辺環境に調和するために最も必要なことであると考えられる。

### 第3章のまとめ 「統一性」と「多様性」との同時実現の目安と 隣接部分の分析・評価のための根拠の抽出

本章では、ウィーン市都市心部の保存地区にあり、「統一性」と「多様性」が同時に実現していると思われるグラーベン街とケルトナーリング通りの2街路を対象に、街区ファサードのデザインエレメントの場所及び時間による変化とそれにおける著名建築家の作品について分析と考察を行った。これによって、ウィーン市都市心部のタウンスケープにおいて、街区ファサードのデザインエレメントがどのような特徴を持ち、隣接建築物と同じ街路の他の建築物とどのような関係を持っているのかということ、それがどのように変遷してきたのかということについて理解し、さらにそれらのデザインエレメントが数値的にどの程度のものであれば、「統一感」と「多様性」があり個性的な空間になるのか、その目安となるものを導くことができた。また対象街路の街区ファサードの中で、著名建築家の作品がどのような特徴と役割を持っているかを知ることができた。これらのことをウィーン州建設法の規制内容と比較することにより、ウィーン市都市心部のタウンスケープのコントロールシステムと建築デザインとの微妙な緊張関係についても知ることができる。以上のことを、より総括的かつ具体的にまとめておく。

#### <デザインエレメントの特徴と歴史的変化>

- ①「平均階高」はその他のデザインエレメントに比べると場所的にも時間的にも変化の割合が小さく、「規模」に関するデザインエレメントをお互いに比較考察する上での基準として用いることができる。
- ②「規模」に関するデザインエレメントの時間的変化は、ウィーン州建設法によるタウンスケープの具体的なコントロール内容の変化と密接な関係がある。例えば、戦災復興計画における特別立法による屋根裏部屋増築の条件付き許可や、建築クラスによる高さ規制の変化および保存地区の制定等によって、大きく増加したり平行線を辿ったりしている。その中でも特に、ウィーン市都市心部の建築物の多くが主として修復・改修を施される歴史的建築物や周囲の環境を意識して設計される建築物であるため、ファサードをいじらずに「屋根部」の増築を行うものが多く、「屋根部」の変化が時間的にも場所的にも比較的大きい。
- ③グラーベン街はケルトナーリング通りと比べると古い地区であるので歴史的建築物が多く、そのため歴史的建築エレメントである塔・エルケア・古代ギリシアの屋根による場所の変化が大きい。従って、「最高高さ」「屋根部」の変化が大きかった。時には、戦災によって被害を受けて、それらが法的枠組みの中で改修された例も見られた。
- ④「壁面分割長」は、街区ファサードのリズムの変化について示唆している。すなわち、縦線強調型や横線強調型が交互にあるいはリズムカルに存在することによって、タウンスケープの視覚的特徴が生みだされることが分かった。そのリズムを如何に建築デザインに生かすかということが建築家に課せられる課題になるといえる。

- ⑤「開口部」は、建築デザインの近代化・現代化に伴って特に「基壇部」において大きくなってきていること、中層部における窓の大きさはタウンスケープに大きな影響を与えるであろうということが分かった。
- ⑥「装飾」の中では、特に「蛇腹」に注目したが、これは歴史的モチーフであるために近代建築以降は用いられる例が少なく、本章の分析にも顕著にそれが現れた。すなわち、グラーベン街もケルトナー通りも戦災による被害が少なからずあり、建築様式の多様性があることを示していた。しかしその一方で、「石割り率」は近年増えていて、こうしたデザインエレメントがポストモダン主義的に建築デザインに使われる可能性を示している。
- ⑦「主要仕上げ材料」には、大理石を始めとする石類及びそれを模した材料（例えば、吹き付けやコンクリート小肌等）が好まれるようである。また「色」は、色相と彩度が類似調和していて「統一性」が示されているが、明度が多少対比調和的で「統一性」を示していた。ヒュー・&・トーンによる分析では、ロマンチックやナチュラルなイメージのソフトな色が多用されていることが分かった。

#### <デザインエレメントの「統一性」「多様性」の同時実現のための数値的目標>

- ①本章では、各デザインエレメントの街路における平均値  $a$  と標準偏差  $\sigma$  を計算した。標準偏差  $\sigma$  は、各々の対象街路におけるデザインエレメントの変化が  $a \pm \sigma$  の範囲内に約 68% の信頼度で存在していることを示すものである。つまり、この範囲内に存在していれば統計的に多数派であり、「統一性」をどちらかと言えば好むウィーン市民のことを考えると、この標準偏差  $\sigma$  が「統一性」と「多様性」との境界であるといえる。また、隣接建築物に対して  $\sigma$  の差を目安としてデザインすれば、従前の「統一性」と「多様性」のある空間を再現できると考えられる。従って、標準偏差  $\sigma$  をもって、「統一性」と「多様性」との同時実現のために隣接建築物に対して考慮すべき定量的目安とする。
- ②<デザインエレメントの特徴>の①で述べたように、「平均階高」は街区ファサードの数値的把握の基準として用いることができることが分かった。従って、各デザインエレメントの「平均と差/平均階高」の標準偏差を  $\delta$  とすると、対象街路における「統一性」と「多様性」との同時実現のために隣接建築物に対して考慮すべき定量的目安としては、「平均階高  $\times \delta$  (m)」を採用することができる。他のデザインエレメントについても得られた標準偏差が対象街路における定量的目安となると考えられる。しかし、一般的に適用する場合には、母集団に対してサンプル数をより多く取る必要があるため、グラーベン街とケルトナーリング通りにおける結果の 70%~90% 程度を定量的目安  $\varepsilon$  とするのがよい。また、第4章における隣接部分の分析では、著しく「統一性」が乱れる差を  $2\varepsilon$  とし、 $\varepsilon \sim 2\varepsilon$  を  $\Delta$  とすることにする。
- ③「規模」及び「ファサードの分割」における  $\delta$  は、平均値でグラーベン街が約 0.66 で、ケルトナーリング通りが約 0.53 であった。従って、平均階高の 0.5 階分を定量的目安とする。
- ④「開口部」の「平均大きさ」の標準偏差は、グラーベン街で約 0.82、ケルトナ

ーリング通りで約 0.74 であった。従って、一般的には 0.5 m を目安とする。

- ⑤「装飾」においては「蛇腹断面量率」の標準偏差が、グラーベン街で約 230、ケルトナーリング通りで約 250 であった。従って、一般的には 200 m/m を定量的目安とする。
- ⑥「主要材料の色」については、グラーベン街もケルトナーリング街もカラーイメージ・スケールのソフトな部分に分布しており、その多くは 1 つ隣という関係のイメージ・ゾーン内に存在していた。従って、一般的にも 1 つ隣までのイメージ・ゾーンを目安とし、著しく調和が損なわれるのは 2 つ以上隣のイメージ・ゾーンにあることであるとする。

#### <本章で扱った著名建築家の作品の特徴と街区ファサードにおける役割>

- ①本章で取り上げた 3 つの著名建築家の作品とも、「軒高」については街路全体の平均的なところにある。これはこれらの建築が全て建設法による規制が定められた後のものであり、建築クラスによって軒高が規制されていることによるが、写真を見ても明らかのように、隣接建築物を意識していることは間違いない。
- ②同様に、「ファサードの分割」に関するデザインエレメントも全体的にはほぼ平均的である。しかしながら、アンカー・ハウスはその三層構成をバースベクトに捉えていること、ハース・ハウスは「屋根部」を大きくしていること、ケルトナーリング・ホーフは「基壇部」を大きくしていることが特徴的で、「軒高」を揃えながらそういった構成の仕方の特徴を持たせようとしていることが理解できた。
- ③「壁面分割長」は、アンカー・ハウスは小さくて縦線強調型であり、ハース・ハウスとケルトナーリング・ホーフは大きくて横線強調型である。あまり中途半端にはせず、どちらかを選択して個性を出していることが分かった。
- ④「開口部」に関しては、いずれの建築物も「平均大きさ」は平均的であったが、「開口率」は大きく平均を上回っていた。2 対象街路とも基壇部に高級ブティックなどがある商店街であるが、その基壇部にある店舗のショーウィンドウを大きくしていること、デザイン的にもそれによって軽さや現代性を表現していることが分かった。
- ⑤主要仕上げ材料の「材料」や「色」は、ウィーンにおいて一般的なものを使っていて、周辺の建築物との調和を崩さないようにしている。
- ⑥総じて、何かのデザインエレメントを平均的にして街路の「統一性」に貢献している一方で、他のデザインエレメントを平均と大きく違うようにして「多様性」に貢献し、かつ個性的な建築になるようにしている。

本章における今後の課題としては、以下のことが挙げられる。

- ①色は、連続的に変化するものであるし、場所及び天候によって、また材料とその仕上げの仕方によっても異なってくる。その分析手法を確立する必要がある。
- ②装飾は、建物の質感に影響を及ぼす。どのような装飾があるのか、まずそのデータベースを作成し、整理分類し、分析する手法を確立する必要がある。

③高さは、一つの建物の中でも変化する場合がある。それをどの様に考慮するべきなのかを検討する必要がある。

④開口部の分析については、結局「開口率」と「大きさ」のみしか行ななかった。形などの質に関する要素について検討する必要がある。

⑤立面的な関係だけでなく、平面的な構成についても検討する必要がある。

こうした分析をより多くの街路について行い、さらに歩行者が各デザインエレメントをどう認知し、感じるかということとを分析し、その結果得られた知見を基に個々の要素の重み付けなどを行えば、街路全体から見たタウンスケープの評価手法を確立することができると思われる。そうすれば、第2章で述べたような、建築線等や建築クラスを越える行為あるいは保存地区における「時代に則った様式」に対する客観的な評価ができるようになり、それを用いた建築許可を提案することが現実的になる。

しかし一方で、こうした分析を全ての街路について行うのは、手続き上手数料がかかりすぎであり、もっと簡便な方法が求められる。そこで考えられるのが隣接建築物との関係だけを評価することである。そのためには、隣接建築物との関係だけで街路全体のことを評価できるのかどうかを検証する必要がある。

また、本章で分析した項目のうち、「壁面長」に関する項目を除くと、それらは隣接する建物との関係だけで判断することができる。「壁面長」に関する項目は、街路全体の「変化のリズム」を生み出すものであるため、建築家にある程度任せられる方がよいと考えられる。従って、「壁面長」に関するものを除いたデザインエレメントについて隣接建築物との関係进行分析・評価する客観的な評価手法が一つの方法として提案できるだろう。

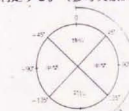
その隣接部分の分析・評価においては、前述した「統一性」と「多様性」との同時実現のための定量的目安が利用できる。ウィーン市都心部の街区ファサードにおいては、この定量的目安をもって隣接する建物同士が一致しているように見えるか見えないかの境界になると考えられるからである。従って、第4章における隣接部分の分析・評価手法の構築においては、この定量的目安を用いることにする。

さらにそこで検討すべきことは、建築家の個性をどのように評価するかということである。本章では、街区ファサード全体におけるデザインエレメントの番地による変化について時間的概念を含めて分析し、その対象街路における著名建築家の作品についても既に考察したが、ウィーン市都心部における著名建築家の作品について客観的な知識を得るには、まだサンプル数が少なく不十分である。しかしながら、著名建築家の作品がウィーン市都心部の街区ファサードに大きな影響を与えていることは本章の対象街区において理解できた通りである。従って、それを明らかにすることによって、街路全体の「統一性」と「多様性」の同時実現のためのシステムとそれに対する「建築の自由」について、より十分に議論することができる。そしてまた、ウィーン市の街づくりを先導してきた建築家の思想についてより深く知ることでもできるだろう。

以上のことを鑑みて、次章では、ウィーン市都心部の街区ファサードにおける建物の隣接部分の分析・評価手法を提案し、それをウィーン市都心部における著名建築家の作品に対して適用し、その隣接部分におけるデザインエレメントの現状を分析する。そして、そこで得られた知見を基に、ウィーン市都心部の街区ファサードにおける建築物の客観的な評価手法へと展開することの可能性について議論することを試みる。

### 【第3章 補註】

- (1) 建築家におけるデータ収集は、1994年11月8～18日において行った。データは、1870年以降から現在までのものを数地毎（住所毎）に保管してある建築許可図面である。内装および外装の改修に関するもので、全ての建築許可に関する全ての図面をこの建築家が保有している。
- (2) ウィーンの殆どの建物は、所謂三層構成になっていて、その基壇部は店舗などの利用になっている場合が多い。本章の対象街路においては、基壇部がまさに商業施設になっており、その色の変化も大きい。材料自身の色だけでなく、看板なども多くある。従って、建物の色を建物全体から抽出するのは非常に難しい。例えば、今までの色の研究と同じようにビデオや写真などによってその全体の色を分析する方法も考えられたが、本研究では街路の色分析よりも建物の連続による変化を考慮することに趣旨を置き、道路から建物を見たときに最も目につき、かつ短期における色の変化の少ない、建築物の中継部における主要材料の色及び材料に注目することにした。
- (3) 参考文献1, pp.13-24
- (4) 本研究では視覚的に知覚される連続面タウンスケープの形態を分析するものであるため、ここで取り扱う最高高さは、建築基準法上の建築物の高さとは当然異なる。
- (5) 色の表示方法には何種類もあり11S・Z・8721が最も一般的に用いられているが、これは表面色を色知覚の三属性（色相、明度、彩度）によって表示するもので、これの基本的になっているのがマンセルの表色法である。ここで、その色相調和は、色相の調和、明度と彩度の調和、色調の調和の三通りが考えられるとされている。そして、そのいずれの場合にも、類似と反対（対比）が考えられ、その間に中間調和の部分を作って処理されるのが一般的である。まず、色相調和であるが、色相調和を用いて2色間の色の距離を角度で表したもので、対比度と言いつつ、その最大は180°で、補色に相当する。また、0°～45°が類似調和、45°～±135°が中間調和、±135°～が対比調和である。次に明度/彩度調和については、明度差が1を類似調和、2を中間調和、彩度差が2を類似調和、4を中間調和とした上で、下の図によって判定する。（参考文献4, pp.26～27参照）



色相調和  
例：赤5R4/13 と 黄5Y8/12 との調和  
色相 …… 対比度72°（目差差 20） 中間調和  
明度/彩度 …… 8-4=4（明度差） } 対比調和  
13-12=1（彩度差）

この他に、オストワルトの表色法や、日本色彩研究所の表色法が我が国では用いられている。（参考文献4, p.9）

- (6) 10色相（Hue）と12トーン（Tone）で120色の秩序ある色体系ができる。これをヒューズ・トーン・システムという。このシステムは、色相・明度/彩度の三次元でとらえられ、色相とトーンという二次元なので、より簡便な処理方法である。参考文献5
- (7) 10色相・12トーンの色と10の無彩色を、カラー・イメージ測定し、因子分析する。その結果から、各色のイメージ・データをスケールにのせたとのがカラー・イメージ・スケールである。カラー・イメージ・スケールにおいて、すべての色は、ウェム・カール・ソフト・カードで、単色のイメージが分けられる。（参考文献45参照）
- (8) 出典：「VIII. Abschnitt, 875 Bauklasseneinteilung, Bauordnung für Wien», landesgesetzblatt für Wien, Jahrgang 1930, Ausgegeben am 3. Februar 1930, 3. Stück, p.35
- (9) この敷地には建築クラスVがかけられているが、建設年が1872年で建設法制定以前であることから可能な建築である。
- (10) 筆者は1994年11月にホルツワウアーへのインタビューを行った。ここに記述したのは、その時のホルツワウアー自身によるファサードに関する説明による。

### 【第3章 参考文献】

- #1 F. Moser, K. Wayerhofer, W-D. Frei: "CHARAKTERISTIK DER STADTGESTALT WIEN. Grundlage für Stadterneuerung und Wohnbau", Forschungsbericht (Gekürzte Fassung), Befördert aus Mitteln des Bundesministeriums für Bauten und Technik (Wohnbauforschung), Wien, 1985
- #2 Werner Müller / Gunther Vogel: "dtv-Atlas zur Baukunst Tafeln und Texte. Band1", Deutscher Taschenbuch Verlag GmbH & Co. KG., München, 1992
- #3 「建築大辞典 第2版」、彰国社、1993
- #4 近藤恒夫:「景観色彩学 ～機彩から美観へ～」、理工図書、1986
- #5 小林重順/朝日本カラーデザイン研究所:「新・カラーイメージ事典」、講談社、1993

## 第4章

### 隣接部分の分析・評価手法の提案と 著名建築家の作品における ケーススタディ

## 第4章

### 隣接部分の分析・評価手法の提案と

### 著名建築家の作品における

### ケース・スタディ

#### 第1節 本章の目的と方法論

##### 4.1.1 目的

第1章及び第2章では、ウィーン州建設法と近年の建築家の作品による建設活動を検討することによって、ウィーンの景観に対する取り組みとその成果及び問題点を理解した。すなわち、ウィーン市都心部には、その空間をコントロールするウィーン州建設法と建築家の活動によって、他の国には例を見ないユニークな建築が作られているが、それらを客観的に評価するシステムがないことや住民への透明性が十分確保されていないなどの問題があること、特に保存地区における新築・増築や改築によるタウンスケープの変化において、より客観的にその妥当性を評価する手法が必要であること、その評価によって現在では確立していない民主性や平等性に到達できるはずであることを議論した。また、ウィーン市民は、空間の「統一性」を、対象とする建築物が周辺建築物と一致しているかどうかということで判断していることが分かった。その一方で、「感情移入能力」すなわち芸術性が求められていることも分かった。

次に第3章では、2つの対象街路における街区ファサードのデザインエレメントの場所と時間による変化を分析し、その中での著名建築家の作品の位置づけを行った。それによって、規模・ファサードの分割・開口部・装飾・主要材料に関するタウンスケープのデザインエレメントによって、タウンスケープの特徴と個々の建築物の特徴を説明することができることを示し、さらに「統一性」と「多様性」との同時実現のための定量的目安を導き出すことができた。また、建築物の隣接部分だけに注目することによって、より簡便な評価ができる可能性があることを述べ、さらにその時「建築の自由」そして建築家の個性について検討することが必要であることを述べた。

本章では、これまでの成果を基に、ウィーン市都心部の街区ファサードにおける建築物の隣接部分の分析及び評価手法を提案し、それを用いてウィーン市都心部の著名建築家の作品を分析・評価することを主たる目的とする。さらにそれによって、ウィーン市都心部において建築家が新たな設計を行うときに参考となる知見を得るとともに、ウィーン州建設法の運用における評価手法の欠如という問題に対して提言を行うことを最終的な目標と

している。具体的には、

- ①街区ファサードにおける隣接関係を分析・評価するための「一対一」によるタウンスケープ分析・評価手法を提案すること
- ②提案した手法を用いて、ウィーン市都心部の著名建築家の作品とその隣接建築物との隣接部分におけるデザインエレメントの関係を定量的に分析すること
- ③その隣接関係を「一対一」によって、デザインエレメント毎、建築物毎、時代毎に評価すること
- ④こうした隣接部分による分析結果が第3章の結果とある程度整合性があることを検証し、この隣接部分の分析・評価手法の有効性について論ずること
- ⑤以上の作業を踏まえて、ウィーン州建設法による建築許可システムにおける景観評価手法への発展の可能性について論ずること

である。

ところで、このようなタウンスケープの物的要素のあり方を分析する研究では、本来、あるサンプリング方法によってサンプルを抽出し、母集団の傾向を説明するに十分なサンプル数を確保し、それを分析することによって一般化された結果を得るのが通常である。しかし本章の分析においては、今まで述べてきたことにより、ウィーン市都心部にある著名建築家の作品を網羅していることが重要と考える。無作為にサンプル数を確保するサンプリングを行うのが重要ではない。少なくとも、ウィーンの著名建築家はタウンスケープの形成と更新において思想と理念を持って取り組んでおり、またウィーンのタウンスケープを大切にしていると思われる。それは、オット・ワグナーの実績やテオフィル・ハンゼンによる集合住宅がグルンデア・ツァイトの住宅開発のプロトタイプとなったことなどから明らかである。従って、著名建築家の作品を通してウィーン市都心部のタウンスケープにおける建築家の役割及び思想を理解することによって、タウンスケープにおける「統一性」と「多様性」との同時実現のためのデザインエレメントのあり方と、それに対する「建築の自由」について議論することができると考えられる。

#### 4.1.2 研究の方法

##### 1) 研究のフローチャート

図4-1-1は、本章のフローチャートである。

まず、対象建築物を抽出し、その概要を整理する。

次に、研究のための基礎的なデータを収集する。第一に、対象建築物とその隣接建物との隣接部分を写真に撮る。これは、対象部分についての定性的な把握と、図面では判断できない部分について理解することに役立つ。第二に、建築警察において、対象建築物の建築許可の図面を収集する<sup>(1)</sup>。これによって得られた建物の数値データをデータベースとして、以下の分析と考察を行う。なお、この章における建物の色の採取は、分析を日本で行ったために、写真データを元としており、写真を撮った時間あるいは天候及び現像技術などの諸条件によって採取した色が変わっている可能性がある。

一方、本章で分析すべき街区ファサードのデザインエレメントとその分析・評価の考

方を第3章までのウィーン市都心部のタウンスケープに関する考察を基に整理し、街区ファサードにおける建築物の隣接部分の分析・評価手法を提案する。

上記のようにして作成したウィーン市都心部のタウンスケープにおける著名建築家の作品に関する隣接部分のデータベースを、構築した分析・評価手法を用いてデザインエレメントごとに分析し、その分析結果を考察することによって、ウィーン市都心部のタウンスケープの形成と更新に関する知見を得ることを試み、その結果を基に建築家が隣接建築物に対して考慮すべき事項を検討し、「統一性」と「多様性」との同時実現に対する「建築の自由」について考察し、最後にウィーン州建設法による建築許可システムにおける景観評価手法への発展の可能性について議論する。

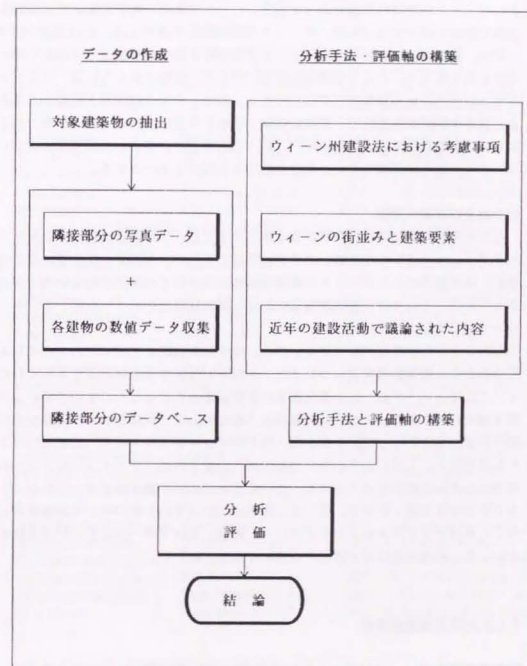


図4-1-1 第4章のフローチャート

## 2) 対象建築物の抽出方法

本論文における対象建築物の抽出については以下のことに留意する。

- ①ウィーン市が成熟していく17世紀から現在までの建築であること
- ②各時代を代表する著名建築家の作品であること
- ③孤立して存在するものではなく、隣の建物と隣接するものであること
- ④教会は、特殊な建築であるので除くこと

上記のことを考慮して、対象建築物はウィーン市の重要建築物を取り扱う建築ガイドブック<sup>(2)</sup>から、隣の建築物と隣接している著名建築家の作品を年代順に抽出した。このガイドブックはオーストリア建築協会 (Österreichische Gesellschaft für Architektur) が、ウィーン市当局の依頼によって編集したものである。オーストリア建築協会は、日本建築家協会に相当するもので、オーストリアの建築家達が所属している公的団体である。

また、論文全体の趣旨から言って、対象建築物が隣接建築物よりも新しいものであることが必要であるが、ここでは隣接建築物が同時代に建設されたものは、ウィーンの建築であることから建築様式が同じであり、隣にどのような建築が建設されるかということが容易に想像できるので、隣接建築物より新しい建築であることと同等であると考えた。但し、抽出された33建築物の中で、No. 8の建築だけが明らかに隣接建築物より古いので、データベース上は掲載するが、実際の議論からは省くものとする。

## 3) 分析及び評価の方法

分析対象と分析項目は基本的に第3章と同様である。即ち、分析対象は街区ファサードのデザインエレメントである。この分析項目に対して、本章では第3章で得られた知見を基に、隣接部分のみにおいて2の隣接建築物が相互にどの程度ずれているのかということを分析することにより、著名建築家の作品と隣接建築物との「一致性」と「不一致性」について考察することを行った。

しかしながら、既存の研究においては、こうした街区ファサードのデザインエレメントを中心とした景観構成要素について同一平面上で分析する手法は確立されていない。従って、ここでは、「ずれ」による分析手法を提案することにした。その「ずれ」の定義は、第3章で行ったタウンスケープにおける「統一性」と「多様性」との同時実現のための数量的目安をもとに行っているが、個々のデザインエレメントとその分析項目によってその尺度が異なる。しかし、それを一つの尺度に変換すれば、デザインエレメントを全体で分析することが可能になるようにし、さらにそれによって個々のデザインエレメントを論ずることもできるようになる。従って、定義された「ずれ」にポイント制を導入し、隣接部分ごと及びデザインエレメントごとに「一致度」及び「不一致度」という点数をつけることにより、総合的な分析及び評価が可能になるようにした。

### 4.1.3 対象建築物の概要

#### 1) 対象建築物

4.1.2 2) で述べた抽出方法によって建築ガイドブックから抽出した著名建築家の作品は

33建築物である。しかし、例えば事例番号17、25、27のように同一建築家が2建築物を連続して設計した事例もある。これについては、記号a、bを附して表記したために上記のサンプル数と事例番号とは一致していない。また、事例番号13は、オット・ワーグナーによって設計された2つの同一名称の建築物であるが、別々の街区に建設されていて隣接してはいない。これは、厳密に言えば別に分けて扱うべきであるが、引用した建築ガイドブックとの対応のため、同じ事例番号として扱い、同様にa、bと便宜上記している。つまり、図表中の事例番号数は29になる。さらに事例番号8は上述の理由により分析対象からは省く。従って、最終的な分析数は32である(表4-2-1)。

表4-1-1 対象建築物リスト

No.	建築物名称	建築家	着工年	住所
1.	Palais Lobkowitz	Giovanni Pietro Tencala	1685	1., Lobkowitzplatz 2
2.	Palais Harrach	Domenico Martinellis	1690	1., Freyung 3
3.	Palais Liechtenstein	Domenico Martinellis	1694	1., Bankg. 9
4.	SP. d. Prinzen Eugen	J.B.Fischer v. Erlach	1695	1., Himmelpfortg. 8
5.	P. Batthyany Schönborn	J.B.Fischer v. Erlach	1698	1., Renng. 4
6.	Palais Kinsky	Joh. Luc. v. Hildebrandt	1713	1., Freyung 4
7.	Palais Ferstel	Heinrich v. Ferstel	1856	1., Herreng. 14
8.	Palais Todesco	L. Förster, T.v. Hansen	1861	1., Kärntnerstr. 51
9.	Palais Epstein	Theophil v. Hansen	1868	1., Dr.-Karl-Renner-Ring 1
10.	Rudolfshof	Theophil v. Hansen	1871	9., Hürlg. 15
11.	Kulissen-u.Dek.Hoftheater	Gottfried Semper	1875	6., Lehar. 6-8
12.	Mietthaus Schottenring	Otto Wagner	1877	1., Schottenring 23
13. a	Mietthaus Stadiongasse	Otto Wagner	1880	1., Stadiongasse 6-8
13. b	Mietthaus Stadiongasse	Otto Wagner	1880	1., Stadiongasse 10
14.	Länderbank	Otto Wagner	1882	1., Hohenstaufeng. 3
15.	Mietthäuser Rennweg	Otto Wagner	1890	3., Rennweg 3
16.	Ankerhaus	Otto Wagner	1893	1., Graben 10
17. a	Wienzeilchäuser	Otto Wagner	1898	6., Linke Wienzeile 38
17. b	Wienzeilchäuser	Otto Wagner	1898	6., Linke Wienzeile 38
18.	Mietthaus Steggasse	Josef Plecnik	1901	5., Hamburgerstr. 20
19.	Zacherlhaus	Josef Plecnik	1903	1., Brandstätte 6
20.	Looshaus	Adolf Loos	1909	1., Michaelerplatz 3
21.	Mietthäuser Döblerg.	Otto Wagner	1909	7., Neustiftg. 40, Döblerg. 4
22.	ZSK Mariahilf-Neubau	Adolf Loos	1914	7., Mariahilfer Straße 70
23.	Apartment Neulinggasse	Siegfried C. Drach	1931	3., Neulinggasse 50
24.	Zentralsparkasse Favoriten	Günther Domenig	1975	10., Favoritenstraße 118
25. a	Wohnhaus Einsiedlergasse	Heinz Tesar	1976	5., Einsiedlerg. 13
25. b	Wohnhaus Einsiedlergasse	Heinz Tesar	1976	5., Einsiedlerg. 15-17
26.	Hundertwasser Haus	F. Hundertwasser	1983	3., Löweg. 41-43
27. a	Wh. Schrankenbergg.	Rob Krier	1983	10., Schrankenbergg. 18
27. b	Wh. Schrankenbergg.	Rob Krier	1983	10., Schrankenbergg. 20
28.	Wh. Gumpendorferstr.	Timo Penttilä	1984	6., Gumpendorferstr. 40-44
29.	Haas Haus	Hans Hollein	1985	1., Stock-im-Eisen Platz 1

## 2)対象建築物の位置

図4-1-2 及び図4-1-3 に対象建築物の位置を示しておく。第一区に存在する建築物は、図4-1-2 にプロットし、それ以外の対象建築物は図4-1-3 にプロットしている。これらの多くは保存地区内に位置しているが、近年の建築物については都市型住宅もあり、必ずしも保存地区内にあるわけではない。

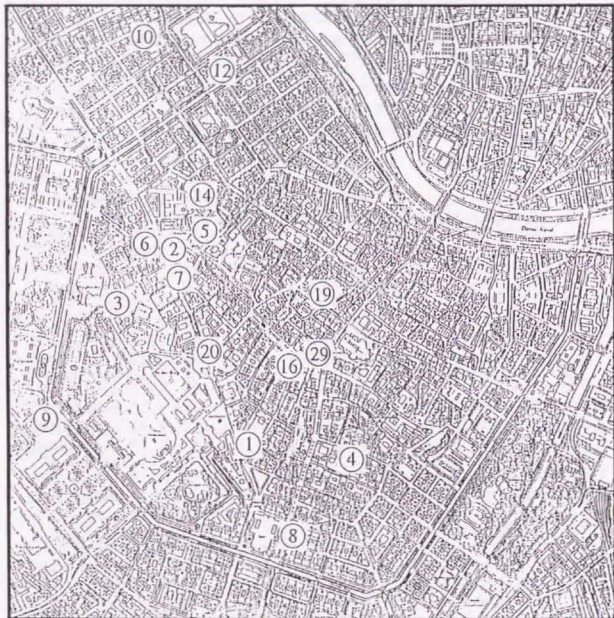


図4-1-2 第一区に存在する対象建築物



図4-1-3 第一区以外の対象建築物

### 3)対象建築物のデータシート

附章2に写真を中心とした建物データシートを掲載する(図4-1-6a~38a)。ここにはその代表的なものだけ4建築物を掲載しておく。このデータシートは、1建物につき2葉のデータシートからなっている。1枚目には、建物の一般的データを記録している。

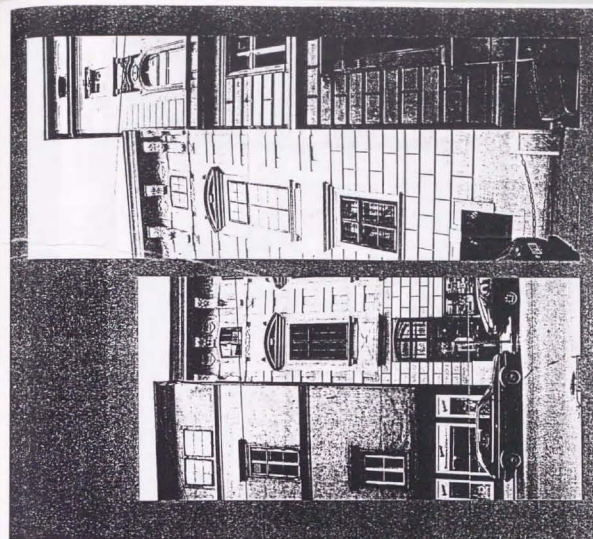
建 物 名 称	建物全体写真	
建物名称 及び 建物データ		
位置図 ★：対象建築	周辺図	
タイトル	隣接部写真の方向 A及びB	

図4-1-4 建物データシートの内容

2枚目は隣接部分の写真データである。写真の方向は1枚目の周辺図に示している通りであり、A、Bの順番に掲載している。基本的に、街区ファサードに向かって左側をA、右側をBとしている。

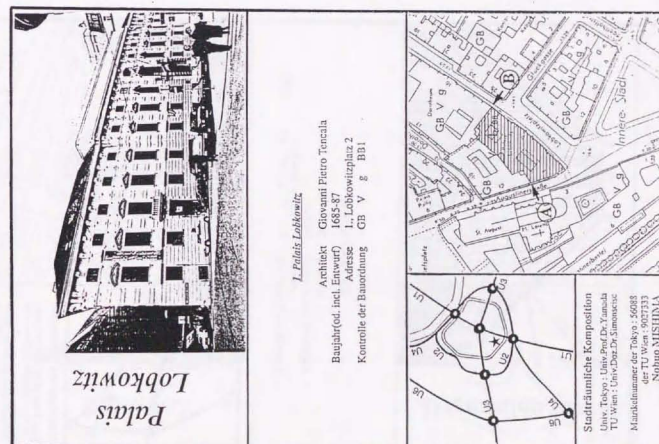
A		B	
事例番号+建物名称			
タイトル			

図4-1-5 隣接部分の写真データシートの内容



Stadtträumliche Komposition  
Uwe, Tokyo : Uwe-Peter Dr. Yamada  
TU Wien : Uwe-Peter Dr. Yamada  
Marktnummer der Tokyo : 5608  
Marktnummer der Wien : 5608  
Nobuo MISHIMA

I. Palais Lobkowitz



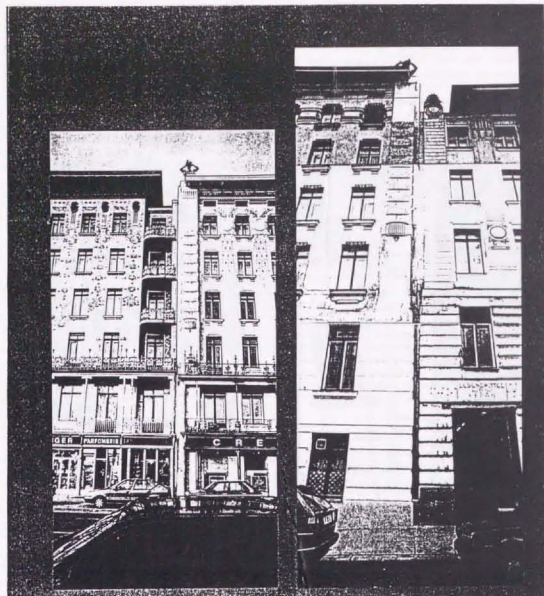
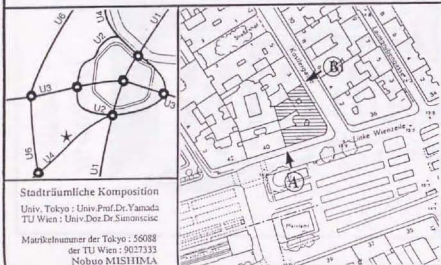
デザイナ I Palais Lobkowitz

# Wienzeilehäuser



17a. Wienzeilehäuser

Architekt Otto Wagner  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1898-99  
Adresse 6., Linke Wienzeile 38  
Kontrolle der Bauordnung GB V g (W III g 75%)



17a. Wienzeilehäuser



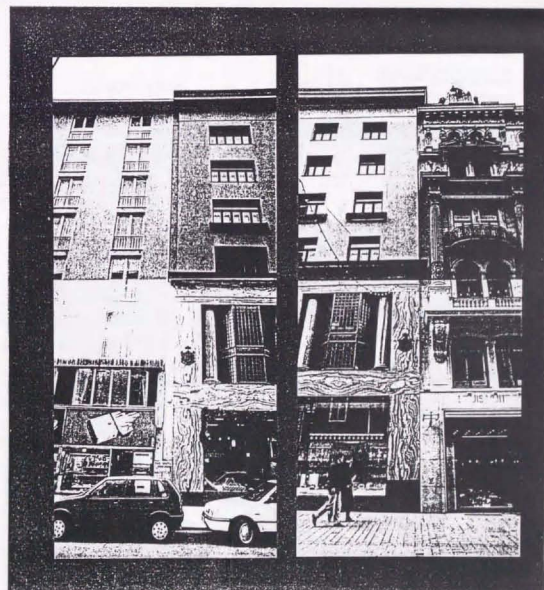
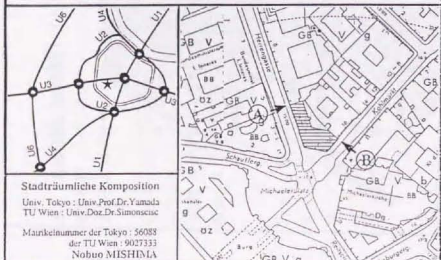
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Marktbezugsnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA

# Looshaus



20. Looshaus

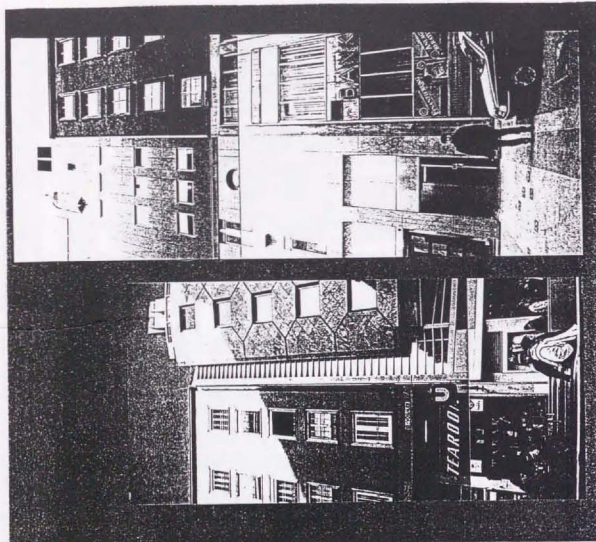
Architekt Adolf Loos  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1909-11  
Adresse 1., Michaelerplatz 3  
Kontrolle der Bauordnung GB V g



20. Looshaus

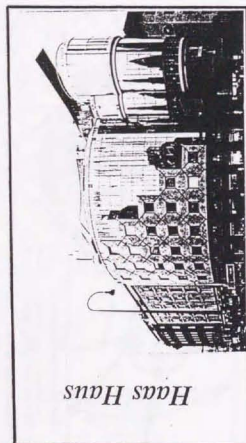


Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Marktbezugsnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



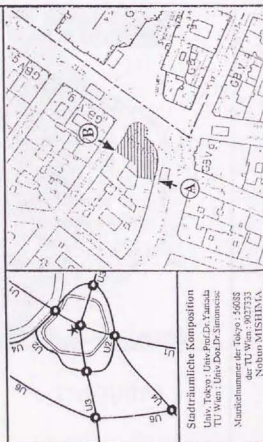
29. Haas Haus

Stadtträumliche Komposition  
Ulrich, Tokyo; Ulrich Prof. Dr. Y. Yamada  
TU Wien; Ulrich Doc. Dr. Z. Smolenski  
Marktstrasse der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9027333  
Nobuo MISHIMA



29. Haas Haus

Architekt: Hans Hollein  
1985-89  
Bauplatz (od. impl. Entwurf): I. Stock-im-Eisen-Platz, 4  
Adresse: GB V g BB6  
Konzepte der Bauordnung



Stadtträumliche Komposition  
Ulrich, Tokyo; Ulrich Prof. Dr. Y. Yamada  
TU Wien; Ulrich Doc. Dr. Z. Smolenski  
Marktstrasse der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9027333  
Nobuo MISHIMA

デザイン29 Haas Haus

## 第2節 分析手法の構築

### 4.2.1 分析の考え方

#### 1) 分析項目

分析項目については、第3章において定義を行った。これは、ウィーンのタウンスケープに関する既存研究、ウィーン州建築法においての考慮事項、第2章において導かれた項目および建築家が設計をするときの一連の作業のなかで検討する事項（設計者のスタイルによって多少異なることはありうる）に基づいて行った。しかし、本章では建築物の隣接部分のみを扱うので、隣接部分で分析・評価できる項目のみに絞られてくる。従って、ここに、その分析項目を記しておく。

- |            |  |
|------------|--|
| ①規模:       | 最高高さ、軒高、階高、階数                            |
| ②ファサードの分割: | 基壇部、中層部、高層部（屋根）                          |
| ③開口部:      | 大きさ（平均）、形状（長方形、アーチなど）<br>サッシュパターン、意回りの装飾 |
| ④装飾:       | 蛇腹密度、蛇腹形状、付け柱の様式、<br>彫刻の様式、石割りの密度        |
| ⑤主要材料:     | 仕上げ、色                                    |

#### 2) 分析の考え方

街区ファサードのデザインエレメントについて、対象建築物の隣接建築物との関係を整理し、分析・評価基準を構築する。そのための考え方は、第3章で導かれた成果を基にする。それは、「統一性」と「多様性」との同時実現のための定量的目安を $\epsilon$ とすると、あるデザインエレメントの隣接建築物との差が $2\epsilon$ 以上であると、そのデザインエレメントに関しては「統一性」が損なわれるというものである。以下に各デザインエレメントについて、具体的な考え方とその数値を記しておく。

- ①規模: 第2章における「規模」に関する分析結果より、「統一性」と「多様性」との同時実現のためには、隣接建築物に対して平均階高0.5階分に相当する高さの差が目安になることが導かれた。従って、隣接建築物に対して建築物の平均階高以上の差がある場合には、「統一性」が損なわれると考えることにする。
- ②ファサードの分割: 「基壇部」及び「中層部」の高さは、「軒高」によって支配される。従って、「規模」に関するデザインエレメントと同様に考えることができる。従って、平均階高以上の差がある場合には、「統

一性」が損なわれると考えることにする。

③開口部：隣接部分の縦一列を比較する。「大きさ」は、その縦一列の部分の平均大きさを比較する。第3章の結果より、差が0.5mである時に「統一性」と「多様性」とが同時に実現するので、隣接建築物に対しての差が1m以上である場合には、「統一性」が損なわれると考えることにする。「形状」及び「サッシ・パターン」は、その種類がどのように異なるかで分析する。

④装飾：装飾があるかどうか、あるならその装飾様式の違いがどの程度であるのかを比較分析する。「蛇腹」については、「統一性」と「多様性」との同時実現のためには「蛇腹断面量率」が200cm/mであることが目安になることが導かれた。従って、それが400cm/m以上であると、「統一性」が損なわれると考えることにする。

⑤主要材料：「色」は、御日本カラーデザイン研究所のカラー・イメージ・スケールを利用してその調和を分析する。第3章の結果より、隣接建築物との色の関係がイメージ・ゾーンが隣同士までであることが「統一性」と「多様性」との同時実現することの目安であるので、イメージ・ゾーンが2つ以上隣である時に「統一性」が損なわれると考えることにする。また、「材料」は、色に関する分析結果を考慮にいれながら、同じものあるいは似たものであるか、そうでないかを比較する。

#### 4.2.2 分析手法の提案

以上の考え方より、各デザインエレメントについて以下の如く分析基準を構築した。これによって、隣接建築物との関係において、街区ファサードのデザインエレメントが隣接建築物相互でどの程度に「ずれ」ているかを分析でき、街区ファサードの「統一性」（「一致性」と「不一致性」）について考察することが可能である。

また、ここで建物X、Yは、比較する隣接部分（データ中のA及びB）の両側の建物のことである。

##### 1) 規模

①最高高さ：平均階高分の高さ以上ずれると「統一性」が損なわれる。

$$a_1 = \frac{| \text{建物Xの最高高さ} [H_x] - \text{建物Yの最高高さ} [H_y] |}{(\text{建物Xの平均階高} [\bar{h}_x] + \text{建物Yの平均階高} [\bar{h}_y]) \div 2}$$

◎：  $a_1 = 0 \sim 0.2$   
 ○：  $a_1 = 0.2 \sim 0.5$   
 △：  $a_1 = 0.5 \sim 1$   
 ×：  $a_1 = 1$  以上

②軒高：平均階高分の高さ以上ずれると「統一性」が損なわれる。

$$a_2 = \frac{| \text{建物Xの軒高高さ} [H_x] - \text{建物Yの軒高高さ} [H_y] |}{(\text{建物Xの平均階高} [\bar{h}_x] + \text{建物Yの平均階高} [\bar{h}_y]) \div 2}$$

◎：  $a_2 = 0 \sim 0.2$   
 ○：  $a_2 = 0.2 \sim 0.5$   
 △：  $a_2 = 0.5 \sim 1$   
 ×：  $a_2 = 1$  以上

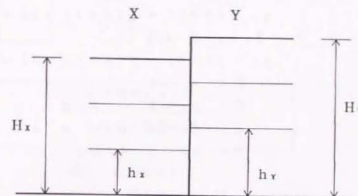


図4-2-1 「規模」に関する分析の考え方

③階高：階高の差が大きくなっても、

階高が高くなれば、その差は意識されなくなる。

$$a_3 = \frac{| \text{建物Xの平均階高} [H_x] - \text{建物Yの平均階高} [H_y] |}{(\text{建物Xの平均階高} [\bar{h}_x] + \text{建物Yの平均階高} [\bar{h}_y]) \div 2}$$

(例)  $H_x = 6\text{m}$ 、 $H_y = 4\text{m}$  の時

$$a_3 = (6 - 4) \div [(6 + 4) \div 2] = 0.4$$

$H_x = 6\text{m}$ 、 $H_y = 4.5\text{m}$  の時

$$a_3 = (6 - 4.5) \div [(6 + 4.5) \div 2] = 0.29$$

$H_x = 6\text{m}$ 、 $H_y = 5\text{m}$  の時

$$a_3 = (6 - 5) \div [(6 + 5) \div 2] = 0.182$$

$H_x = 6\text{m}$ 、 $H_y = 5.5\text{m}$  の時

$$a_3 = (6 - 5.5) \div [(6 + 5.5) \div 2] = 0.09$$

◎：  $a_3 = 0 \sim 0.05$   
 ○：  $a_3 = 0.05 \sim 0.1$   
 △：  $a_3 = 0.1 \sim 0.3$   
 ×：  $a_3 = 0.3$  以上

④階数：階高と同じことが言える

$$a_4 = \frac{| \text{建物Xの階数} [n_x] - \text{建物Yの階数} [n_y] |}{(\text{建物Xの階数} + \text{建物Yの階数}) \div 2}$$

(例)  $n_x = 8$ 、 $n_y = 4$  の時

$$a_4 = (8 - 4) \div [(8 + 4) \div 2] = 0.667$$

$n_x = 8$ 、 $n_y = 5$  の時

$$a_4 = (8 - 5) \div [(8 + 5) \div 2] = 0.462$$

$n_x = 8$ 、 $n_y = 6$  の時

$$a_4 = (8 - 6) \div [(8 + 6) \div 2] = 0.285$$

$n_x = 8$ 、 $n_y = 7$  の時

$$a_4 = (8 - 7) \div [(8 + 7) \div 2] = 0.133$$

$$\odot: a_4 = 0$$

$$\circ: a_4 = 0 \sim 0.2$$

$$\triangle: a_4 = 0.2 \sim 0.4$$

$$\times: a_4 = 0.4 \text{ 以上}$$

2)ファサードの分割 (3層構成：基壇部、中層部、高層部)

各々の層について以下の考えに基づいて分析する：

ある層の高さの差が平均階高以上の大ききがあると調和が著しく乱れる

$$b = \frac{| \text{建物Xのある層} [H_x] - \text{建物Yのある層} [H_y] |}{(\text{建物Xの平均階高} [\bar{h}_x] + \text{建物Yの平均階高} [\bar{h}_y]) \div 2}$$

$$\odot: b = 0 \sim 0.2$$

$$\circ: b = 0.2 \sim 0.5$$

$$\triangle: b = 0.5 \sim 1$$

$$\times: b = 1 \text{ 以上}$$

3)開口部：隣接部分の縦1列を対象として評価する

①大きさ：各窓の大きさの平均の差

$$\odot: 0 \sim 0.2 \text{ m}^2$$

$$\circ: 0.2 \sim 0.5 \text{ m}^2$$

$$\triangle: 0.5 \sim 1 \text{ m}^2$$

$$\times: 1 \text{ m}^2 \text{ 以上}$$

②形状

正方形



長方形



円形



アーチ型



$$c_1 = \frac{\sum (\text{図形のものの比})}{\text{異形の種類の数}}$$

$$\odot: 0.75 \leq c_1 \leq 1$$

$$\circ: 0.50 \leq c_1 < 0.75$$

$$\triangle: 0.25 \leq c_1 < 0.50$$

$$\times: 0 \leq c_1 < 0.25$$

③サッシュパターン (形状と同じ評価)



$$c_2 = \frac{\sum (\text{図形のものの比})}{\text{異形の種類の数}}$$

$$\odot: 0.75 \leq c_2 \leq 1$$

$$\circ: 0.50 \leq c_2 < 0.75$$

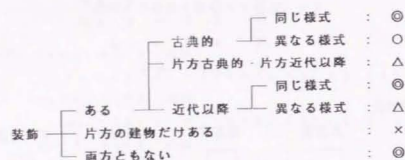
$$\triangle: 0.25 \leq c_2 < 0.50$$

$$\times: 0 \leq c_2 < 0.25$$

#### ④窓まわりの装飾（窓頂冠など）

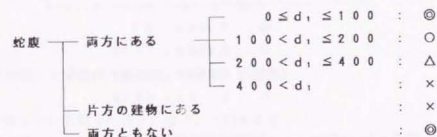
古典的 : ゴシック、バロック、ロココ、新古典

近代以降 : アール・ヌーボー、アール・デコ、ポスト・モダン



#### 4) 装飾

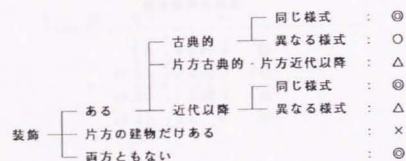
①蛇腹の密度 : 「蛇腹断面量率 (cm/m) の差の絶対値 (=  $d_1$ )」によって比較する。



②蛇腹の形状 : これは蛇腹のプロフィールから判断される蛇腹の様式である。従って、装飾と同じように定義づける。

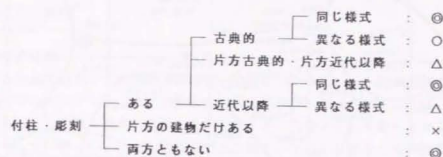
古典的 : ゴシック、バロック、ロココ、新古典

近代以降 : アール・ヌーボー、アール・デコ、ポスト・モダン

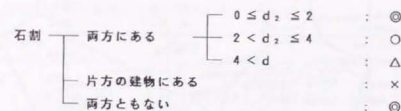


古典的 : ゴシック、バロック、ロココ、新古典

近代以降 : アール・ヌーボー、アール・デコ、ポスト・モダン



④石割り : 「石割り率の差の絶対値 (=  $d_2$ )」によって比較する。



#### 5) 主要材料

①仕上げ : 仕上げ材の系統を次のように分類する<sup>(1)</sup>。

石材 (天然石、凝石)、吹き付け、外装用塗料、金属、タイル

各々の系統には、例えば石材には大理石と花崗岩さらに石種及び仕上げ方があり、金属にもアルミや銅板さらにその仕上げ方などがある。ここでは仕上げ方までは問わない。仕上げ材の種類までを材質として扱う。

㊟ : 同じ系統で同じ材質の材料

○ : 同じ系統の材料

△ : 違う系統だが、色が㊟○である材料

× : 違う系統で、色が△×である材料

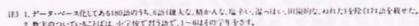
②色 : ㈱日本カラーデザイン研究所のカラー・イメージ・スケールを利用する。これに建物A及びBの色をプロットし、それぞれの色がカラー・イメージ・スケールのどのイメージ・ゾーンにあるかで、次のように評価する。

㊟ : A、Bが同じイメージ・ゾーンにある

○ : " 隣同士のイメージ・ゾーン "

△ : " 1つ離れたイメージ・ゾーン "

× : " 2つ以上離れたイメージ・ゾーン "



【出典：小林重順／㈱日本カラーデザイン研究所（編・著）  
「新・カラーイメージ事典」、講談社、1993】

- 175 -

表4-3-1 対象建築物と隣接建築物との隣接部分の分析結果

注1) ◎: +3, ○: +2, △: +1, ×: -2

注2) 一致度 = 3 × (◎の数) + 2 × (○の数) + 1 × (△の数)

注3) 不一致度 = 1 × (×の数)

対象部分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13a	13b	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366	1367	1368	1369	1370	1371	1372	1373	1374	1375	1376	1377	1378	1379	1380	1381	1382	1383	1384	1385	1386	1387	1388	1389	1390	1391	1392	1393	1394	1395	1396	1397	1398	1399	1400	1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410	1411	1412	1413	1414	1415	1416	1417	1418	1419	1420	1421	1422	1423	1424	1425	1426	1427	1428	1429	1430	1431	1432	1433	1434	1435	1436	1437	1438	1439	1440	1441	1442	1443	1444	1445	1446	1447	1448	1449	1450	1451	1452	1453	1454	1455	1456	1457	1458	1459	1460	1461	1462	1463	1464	1465	1466	1467	1468	1469	1470	1471
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

#### 4.3.2 分析と作品評価

##### 1)各デザインエレメントについて

まず表4-3-1を見ると、デザインエレメント毎では、「軒高」「基壇部」「色」「仕上げ」「開口部形状」「階数」「階高」「屋根部」「最高高さ」「蛇腹の形状」「蛇腹の密度」「開口部大きさ」「中層部」「石割り」「窓周りの装飾」「サッシュパターン」「付け柱」「彫刻」の順に高くなっている。これは上位の分類で見ると、「規模」「主要材料」「ファサードの分類」「開口部」「装飾」の順で高いことになる。第3章で行った街路における分析においても、「軒高」「階高」「基壇部」「中層部」などのデザインエレメントはあまり変動がなく、周辺との「統一性」を形成する要因となっている一方で、装飾的な色合いを持ち、空間に変化と個性を出すようなデザインエレメントの項目は大きく変動していたことと基本的に同じ分析結果である。即ち、著名建築家の作品にも、多かれ少なかれウィーン州建設法による規制が影響を与えていること、この「一尺度」による分析によって、「統一性」及び「多様性」に関するある程度の分析が可能であり、街区ファサード全体の分析とはほぼ同じ結果を得ることができることを示唆している。

「装飾」に関するデザインエレメントは法的な規制もあまり受けず、建築家のデザイン力が発揮されるものである。従って、一般的に「一尺度」は低い。またこのことは一方で、第3章におけるグラーベン街の街区ファサードの分析と同様に、色々な様式がウィーンに溢れていることを示している。

「色」と「材料」に関しては、規制がないにも関わらず「一尺度」が高い。これは、建築家が周辺に調和するものを選んでいいのか、若しくはそのような材料しかないかであるが、近年は「一尺度」が下がってきていることから考えると、かつては限られた材料の中から選んでおり、かつ建築家の好みもあり範囲が広がらなかったこと、20世紀以降は材料の多様化に伴って、建築家の好みも多様化していることが想像できる。

次にデザインエレメントを時代ごと或いは建物ごとに見てみる。

「規模」及び「ファサードの分割」に関しては、時代別では事例番号 7~17 (19c.後半) にかけてピークがある。これは、この時にウィーン州建設法の前身である低地オーストリア法が定められ、建築線や高さ規制が定められたこと、オット・ワグナーとその弟子たち(ワグナー・シュレの出身者)が活躍した時期であり、街区ファサードにおける建築においては隣接建築物と高さなどの「規模」に関するデザインエレメントは揃えようとした美意識と関係があると思われる。実際、後で述べるようにオット・ワグナーの作品の「一尺度」は高い。

そのピーク以前は、「基壇部」を除いて「一尺度」は平均的に低い。これは、19世紀前半までは建築の密度をコントロールする法制度がなかったことと、建築家においても高さを揃えようという意識があまりなかったことによっていると思われる。

また、事例番号18以降は対象建築物の左右の隣接部分における差がほとんどなく、両方とも同じくらい「一尺度」であり、また事例番号 7~17のはば半分位である。その中で1900~75年にかけての落ち込みが大きく、1975年以降に再び「一尺度」が高くなってきている。20世紀に入って「規模」に関する一尺度が下がっているのは、20世紀初頭の対象建築がJosef Plecnik (事例番号18、19)やAdolf Loos (20)の世紀末建築であり、

装飾は罪悪であるということと同様に周囲の古典建築に合わせるという意識がなくなっていることが考えられる。

1955年からさらに落ち込むのは、特に事例番号24のGunther Domenikの作品による所が大きい。この頃から個性派が再び登場するようになる。1975年以降再び「軒高」等の「一尺度」が上がっているのは歴史的景観の保全に対する意識の向上と関係づけられるかもしれないが、事例数が少ないので明言できない。

「開口部」というのは、建築家が力を入れてデザインするところの一つである。古典的様式においてはその種類はアーチ、尖塔アーチとか黄金比による窓などが試みられたが、近代以降はカーテン・ウォールや円、楕円、長細い長方形など数多くのものが試みられている。しかし、ウィーン自身が古典的な構成の街であるからか、今回対象とした建物の中にはそれ程多くの種類は現れなかった。従って、開口部の「形状」の「一尺度」は高く、「不一致度」が低い。また、「大きさ」も「一尺度」が高い。しかしながら表4-3-1を建物ごとに見直すと、◎は比較的少ないし、また◎の多くは同一建築家による建物が2棟連続して建てられているものである。「一尺度」が高いのは○が比較的多いからであるが分けてみる。すなわち、開口部を合わせないで、勝手にデザインするのは街並みの統一という点では好ましくないが、ある程度の自由は認めるようにする方がよいということができそうである。これは第3章での結論と同じである。

「開口部」について時代ごとに見ると、だいたい平均しているものの、「窓周りの装飾」が20世紀初頭から下がっている。その「一尺度」は、他の時期の半分から三分の一位である。これはやはり、戦争前後及び戦後復興期からの近代建築の合頭で装飾がなくなってきたことによるものと思われる。また、特に「サッシュパターン」と「装飾」に関しては、1975年以降にも「一尺度」が低い。これは現代建築において開口部のデザインを個性的に行うようになったこと、周辺の建築物が古典的なデザインあるいは近代建築の無味乾燥なデザインによるものがあって、それに合わせることを拒んでいることといった可能性が考えられる。

「装飾」は、20世紀から「一尺度」が低くなってきている。これは近代化による影響である。しかし、その中では「蛇腹」に関するものが比較的高い。これは特に19世紀後半に最も高く、次に19世紀前半以前が次いでいる。これは周辺の環境を考えてみても当然のことと言えるだろう。というのは、19世紀以前の建築の多くは第一区から周辺にかけての建築が多く、そこには古典的な建築が多いからである。一方、「付け柱」や「彫刻」は、全体を通じて一尺度が非常に低い。これは建築家自身も個性の表現をそこに委ねているからである。これを制御することは逆に「建築の自由」を束縛するものであり、意味がないことである。ただ、19世紀前半以前の古典においては、古典という範囲で一致する場合がある。これは街路空間における装飾のアンサンブルを作りだすことができる。それは歴史的な空間においては望ましいことであると言える。

「色」は個性的なものよりも周辺に調和するもの、特にウィーンではイメージである「ロマンチック」「エレガント」「ナチュラ」が特に望まれて使われている(図4-3-1)。こうした色を建築の主要な色として選択するのは無難であり、タウンスケープとの調和を考えると好ましいといえる。しかしながら、時には建築家は全く関係ない色、個性を出せる色を使うことを望む場合もある。特に20世紀からはその傾向が見られる。しか

し、その場合にはその色がその地域に調和するかの検討した方がよいと思われる。特に保存地区であつたら必要である。それはまず、建築家及び施主、さらに地区周辺住民の中で意見を交わし、議論される必要がある。さらに、都市計画及び都市形態委員会のような専門的なグループあるいは公的な機関によつても議論され、結論を下されるべきである。そのような二重三重の検討システムが必要と考える。

「主要材料」に関しては、合計では「一致度」が高い。しかし、時代ごとに見ると、必ずしもそうではないことが分かる。まず、20世紀以前は他の構成要素の他の時代のものと比較しても「一致度」が非常に高いが、20世紀以降になるとそれに変化がある。「仕上げ」も「色」も「一致度」が下がっている。これは、材料の多様化とそれに伴う建築家個人レベルでの「色」及び「素材」感覚の個性化及び多様化に要因があると思われる。しかし、現在は保存地区の制定やタウンスケープの配慮など、歴史的環境の中に如何に新しい建築を挿入すべきかを考えられる時代に入っており、その中でも「一致度」が低いのは多くの選択肢の中から慎重にそうした材料を選んだ結果である可能性もあり、もしそうであれば決して批判されるべきものではない。

## 2) 建築家の作品分析

F. v. エアラハの作品(事例番号4、5)やヒルデブラントの作品(事例番号6)のような古典的なものは、「一致度」が分散的である。これは前述した通りである。

テオフィル・ハンゼン(事例番号9、10)は葉友協会の設計及びグルンデア・ツァイト期の集合住宅のプロト・タイプの設計で有名であるが、これらの作品が低地オーストリア州法制定の10年以上前のものであるにも関わらず、「一致度」が高いことが注目される。しかも、それは全てのデザインエレメントについて「一致度」が高い。これは後述するオット・ワグナーの作品と対比的である。これは彼の作品が新古典主義的で、グルンデア・ツァイト初期に建設された周辺の作品も押し並べて新古典的であったことから来ていると思われる。しかし、「装飾」の「一致度」が高いことが彼の作品が様式的であることを物語っている。

オット・ワグナーの作品は12-17と21である。表4-3-1を見ると、「規模」に関するデザインエレメントの「一致度」が非常に高いのが分かる。また、「ファサードの分割」に関するものも比較的高い。この背景には低地オーストリア州法における全体建築線調整計画があり、その制定にオット・ワグナーが関与したこと<sup>13)</sup>にも寄っていると思われる。これらの作品が1877年から1898年のものであり、低地オーストリア州法の制定が1883年であることから伺える。しかし、当時のウィーン建築界は世紀末建築である。オット・ワグナーの弟子たちがゼツウシヨウ館(1897)を建設し、分離派を創設した時期である。オット・ワグナーの代表作品「カールス・プラッツ駅(1894)、郵便局(1904)」等も世紀末装飾に満ちている。それらの傾向は「彫刻」や「付け柱」に多少現れているものの、オット・ワグナー自身は優れた古典建築家でもあったので、全く周辺の古典建築と異なるものばかりではない。総じてオット・ワグナーの作品は「一致度」が高い傾向にある(合計が全て20以上であり、しかも30以上の高いものも多い)。事例番号21の作品は、オット・ワグナーの作品の中では機能主義を全面に押し出したものである。しかし、その右側の隣接建築物は古典的であるにも関わらず、「一致度」は高い。オット・ワグナ

ーが周辺環境に対して非常に配慮していたことが分かる。

世紀末建築の傾向は本研究における対象建築物においては、20世紀に入ってから現れる。それは、事例番号18、19のヨゼフ・プレツニクの作品と事例番号20のアドルフ・ロースのロースハウスである。事例番号18はウィーンの中心から少し離れた所に立地する建築であるので、特に「一致度」が低い。しかし、事例番号19のザッヒャールハウスとロースハウス(20)は「最高高さ」と「軒高」については高い。これは都市内建築であり、法制度の影響もあったものと思われる。

第1章で触れたギュンター・ドメニクのZバンク・ファボリッテン(事例番号24)は、全体的に「一致度」が非常に低い。しかし、その中では「基壇部」が揃っているのが特徴的である。写真でも分かるように、商業地区におけるルールだけは守ったようである。また、建築承認の図面では隣接建築物の軒線と当該建築物の途中階の窓の線を揃えているが、「一致度」には関係なかった。この作品は主観的に見てもあまり周辺市街地を意識していないと思った。

事例番号27はロブ・クリエのシュランケンベルグガッセの集合住宅である。彼は世界で代表的なポスト・モダニストであるが、この作品はウィーン郊外にあり、隣接建築物はあまり質の高くない建物である。従って、ロブ・クリエはこれらの隣接建築物をあまり意識していないようである。「一致度」が合計15と18であることから分かる。しかし、この建築は2つの建築からなっており<sup>14)</sup>、その接合部分は「一致度」が高くなっている。これはオット・ワグナーのマジョリカ・ハウス(事例番号17)やハインツ・テザーのアイジンドラウガッセの集合住宅(事例番号25)もそうである。同一建築家が2棟連続して建設する場合は「一致度」が高くなることが分かる。

ハース・ハウス(事例番号29)は、「一致度」によると、「統一性」と「多様性」との同時実現が「多様性」側で実現していると評価できる。隣接する建築物が戦災復興計画時の無味乾燥な建築物であることから、この建築が現代的な作品であることから、「装飾」に関しては、全く「一致」していない。しかし、「規模」や「ファサードの分割」によって、周辺の建築物を意識して設計していることが分かる。これは、第2章で考察したことも一致している。

## 3) 「一致度」による隣接部分の評価に関する可能性

以上のように、「一致度」によって、街区ファサードのデザインエレメントごとに、建築物の隣接部分の分析を行い、さらに個々の建築家の作品について語れる特徴について考察を行った。この結果は、第3章で行った街区ファサードのデザインエレメントの時間と場所による分析結果と概ね一致している。それは即ち、隣接部分について「一致度」による分析を行うことは、街路全体の分析によって当該建築物を評価するよりも簡便な方法でありかつ同じ結果を得ることができ、さらにウィーン市都心部における街区ファサードの「統一性」と「多様性」を議論することができることを示している。これを発展させることによって、ウィーン市都心部のタウンスケープにおける建築物の評価を行うことができ、一般規制を越える行為や特別規制の適用における運用上の問題に貢献することが可能になると期待できる。そのために、まずこの「一致度」の合計がどのような結果になっているかを見てみたいと思う。

表4-3-2の時代毎の「一致度」の平均を見てみる。これによると、時代ごとの「一致度」の平均は、19世紀後半において特に高く、20世紀前半に低い。この高い時期は、1850～1890年の都市改造時(Gründerzeit)にあたり、城壁の撤廃・リンク道路の建設が行われ、現在の建設法のおおもとである低地オーストリア州法のもとでの建設法(1883)により建築線が規制される等の近代的思想の下に建築家たちが活躍した時である。この時期に活躍したオット・ワグナー(12～17b)は周辺との調和に特に留意している。20世紀前半は建築史的にも機能主義の時期で、装飾が排除され、箱型の建物が多い。また、二度の世界大戦で、オーストリアは社会情勢が乱れた。

これらの「一致度」が特に高い又は低い時期は特殊であるので除くと、残りの時期の「一致度」は平均で2.0～2.5である。また、第3章で導かれた定量的目安は、第4章では○と△の中間であり、その目安はポイントでいうと+1.5である。デザインエレメントの項目は全部で18あるので、1建築物当たりでは2.5ということになる。以上より特に歴史的市街地においては、「1」つの隣接部分における「一致度」の合計が2.5前後(2.0～3.0)であることが、街区ファサードにおける「統一性」と「多様性」が同時に実現し、ある程度心地よい望ましい空間を実現するための一つの目安になる」と提案することができらう。そういう点からハース・ハウスについて考えると、「統一性」と「多様性」とがどちらかというと「多様性」側で実現した事例であるということができる。

一方で、「一致度」が2.5を遙に越える建築であっても、ウィーン市都心部のタウンスケープにおいてはそのデザインの価値は認められると思われる。ウィーン市都心部の建築物の多くは、装飾やディテールデザインが特に優れて古典的であり、タウンスケープに調和しているからである。そしてさらに、本章における「一致度」が高い著名建築家の作品は、タウンスケープとの「統一性」が高いと主観的に感じた一方で、芸術性があり、設計した建築家自身のデザイン能力が非常に高いと感じた。特にオット・ワグナーの作品は、「一致度」が非常に高く、周辺のタウンスケープに調和しており、かつ他の建築にはない個性があり、芸術的にも価値の高い建築である。

このことから、表4-3-1の中で「一致度」の合計が2.0以上の建築を見てみると、19世紀前半までのものは、デザインエレメントの「一致度」は全体的に平均的であり、かつ、それ以降の建築作品よりも「装飾」「素材」「色」についての「一致度」が高い傾向にある。それに対して1975年以降の建築作品は、「装飾」「素材」「色」は多少考慮されている程度で「一致度」は低いが、「規模」及び「ファサードの分割」に関する「一致度」は高い。以上からすると、「規模」に関するデザインエレメントも「装飾」や「素材」に関するデザインエレメントもある程度同じ位に考慮される方が望ましいが、「一致度」の合計点が適度であれば、建築家に任せて個性的なデザインを期待してもよいと思われる。

以上の結果より、「一致度」による隣接部分の分析・評価手法は、ウィーン市都心部の街区ファサードに対して新しいデザインを施す時に、そのデザインが「統一性」と「多様性」とをどの程度実現させているかを客観的に見ることができた。また、その結果は筆者の持つ印象とはほぼ一致している。従って、「一致度」がウィーン市都心部のタウンスケープにおける建築デザインを評価にある程度有用な手法であるということができた。ただし、ここでは全てのデザインエレメントを同一レベルで評価した。その重み付けについて検討することが今後の課題である。

#### 第4章のまとめ

本章では、第1章及び第2章によって導かれたウィーン市都心部のタウンスケープの形成と更新における建築家の活動とウィーン州建設法の狭間にある所々の問題点の指摘と課題の抽出を踏まえ、第3章で得られた街区ファサードのデザインエレメントに関する知見を基に、ウィーン市の街区ファサードにおける建築物を簡便に分析し評価する手法である「一致度」を提案し、それを用いてウィーン市を代表する建築家が設計した建物とそれに隣接する建築物の関係の分析を行った。そして、ウィーン市の著名建築家の作品が、街区ファサードにおいて隣接建物とどういった関係にあるか、その歴史的傾向及び建築家による違いについて考察し、評価することを試みた。その結果、この隣接部分の分析・評価手法によって、個性ある著名建築家の作品が街路全体においてどのような特徴を持っているか、各時代ごとにどのような傾向を持っているかということについて考察することができた。またこの手法がウィーン市都心部のタウンスケープの状態を十分に説明しうるものであることを示すことができた。そしてさらに、この「一致度」による隣接部分の評価によって、特にウィーン市都心部の歴史的市街地における建築計画に対して、現在の建築許可システムでは欠けている客観性と公平性を補えることを示すことができた。

具体的には、以下のようである。

- ①全体的には「規模」「ファサードの分割」及び「主要材料」に関するデザインエレメントの「一致度」が高く、ついで「開口部」「装飾」となっている。
- ②しかし19世紀半ば以前は、デザインエレメント全般に渡って「一致度」が中くらいの水準になっていて、必ずしも高さや基壇部の位置などが揃っているわけではなく、「装飾」に関するデザインエレメントの「一致度」が他の時代より高い。
- ③オット・ワグナーがウィーン市都心部のタウンスケープにおいて多くの作品を残したグルンデア・ツァイト前期(1850～1900)においては、建築線の施行など法制度の整備が行われたことを時代背景に、「規模」に関する「一致度」が比較的高い。しかし一方で、「装飾」の方は若干低い。オット・ワグナーは「装飾」等で自己のデザインを展開し、世紀末を表現しているといえる。
- ④20世紀に入ると近代化による影響で「一致度」が下がってくるが、近年再び上がってきている。
- ⑤ウィーン市都心部のタウンスケープにおける「統一性」と「多様性」とが同時に実現する空間を誘導するための隣接部分全体の「一致度」の目安を導くことができた。すなわちそれは、「一致度」の合計が2.5前後であるように、各デザインエレメントの「一致度」を分布させることである。
- ⑥「規模」及び「ファサードの分割」に関する「一致度」が非常に高くなったとしても、「装飾」や「主要材料」などを工夫することによって「多様性」を確保することは可能と思われる。なぜなら、オット・ワグナーの作品は「一致度」が高いながらも、周辺の建物に対して非常に個性的であるからである。
- ⑦この「一致度」による分析によって、前章の街路における分析とはほぼ同様の結果を得ることができ、さらに建築家の作品についても時代背景などを含めて論

ずることができたこと、及びその結果が筆者の持つウィーン市都心部の印象と非常に近いことから、ウィーン市都心部のタウンスケープ（特に歴史的市街地）における簡便な評価手法としての有効性を示すことができた。

このように、「一致度」という分析手法が、ウィーン市都心部のタウンスケープの状況を把握・整理し、さらに評価していくことの可能性を持つものであることが示すことができたが、この手法自体がまだ多くの課題を有している。それは以下のである。

- ①色は、計測段階で色見本と写真により離散的に計測したが、それでは微妙な色の違いとそれによる印象の違いを表現することができない。
- ②材質感と色との関係をより明解に処理する手法を考案する必要がある。
- ③カラー・イメージ・スケールはその処理のしやすさでは便利ではあるが、色相とトーンの二次元に変換する段階で無理が生じる。
- ④「一致度」のポイント評価は、各項目が同じ重要度で換算しているが、それぞれの項目でタウンスケープへの貢献度が異なり、また人の認知も異なると思われるので、重み付けの検討などが必要である<sup>(4)</sup>。
- ⑤本論文では特に最高高さ、屋根高さ、軒高によって高さ関係を議論したが、実際のスカイラインはより複雑に変化している。それをどのように分析し、評価するかを検討する必要がある。<sup>(5)</sup>
- ⑥タウンスケープは著名建築家だけでなくいろいろな設計者による建物の集積によって形成されている。従って、著名建築家だけでない一般的な建物が、この「一致度」で分析した場合どういう結果が得られるのか試みる必要がある。それによって、著名建築家の作品との乖離が指摘でき、あまり好ましくない建築物と隣接する場合の評価手法について検討することが出来る。
- ⑦ウィーン市都心部には、必ずしもグラーベン街やケルトナーリング通りのように高級な街路ばかりであるわけではない。その街路のレベルによって、重み付けを行う必要がある。それには、無作為に抽出された街路を対象に「一致度」による分析を試み、街路の「一致度」による類型化を行い、その類型に従った評価レベルを検討することが考えられる。

最後に、第3章と第4章で議論したタウンスケープにおける「統一性」と「多様性」との同時実現と、それに対する「建築の自由」について整理しておく。

第3章においては、ウィーン市都心部のタウンスケープにおける「統一性」と「多様性」との同時実現のための定量的目安を各デザインエレメントごとに導き出した。その第3章においての定量的目安は、その目安を境界として「統一性」と「多様性」とが微妙に保たれるというものだった。即ち、第三章で導いた定量的目安は、グラーベン街とケルトナーリング通りにおける標準偏差を基に導いたものであり、68%の信頼度で±標準偏差の区間にサンプルが存在するという意味で多数派であるというものだった。

一方、第4章において、隣接建築物との関係の分析と評価に用いた考え方は、その定量的目安の倍以上の差がある場合には「統一性」が損なわれ、評価は×であるというものだった。そして、「一致度」の合計は、第3章で導かれた定量的目安以上を◎(+3)○

(+2)、定量的目安以下を△(+1)として単純に計算した。従って、この結果は「統一性」がある方を多少重く見ている。

しかし、第2章で導かれた住民のウィーン市都心部のタウンスケープに対する意見は、「揃っていること」「統一的であること」であり、そういう意味では、これらのやり方は妥当であったと考えてよいだろう。そのことは、第4章で扱った著名建築家の作品の多くは、特に代表的ウィーン建築家であるオット・ワグナーを始めとして、「一致度」の合計が高く、かつ各デザインエレメントにおいて◎が多かったこと、ウィーンではどちらかというと「統一性」の方が好まれているような印象を感じる（それは第2章でのハース・ハウスの議論でも感じられた）からも裏付けられる。

一方で、近年は多様化が進みつつある。20世紀以降の「一致度」の結果は、建築物によって様々だった。また、ハース・ハウス、ケルトナーリング・ホーフ、ルーフトップ・リモデリング、Zバンク・ファボリッテンのような現代的な建築物も増えている。つまり、ウィーンにおける一般社会のタウンスケープへの意識よりも、「建築の自由」の範囲が広がっていると言える。それは序章で挙げた(1)容積規制等に代表される「公権」対「私権」、(2)日照権に代表される「私権」対「私権」、(3)建築デザインに代表される「私権」の全ての次元においてである。例えば(1)についてはハース・ハウスのような道路上の建築があり、そのハース・ハウスの場合には(2)も問題にはなかったが許可された。また(3)については、現代的なデザインの建築が数多く建設されていることから自明である。

問題はその「多様性」をどの様にコントロールするかである。「多様性」は悪いことではない。むしろいいことである。しかしながら、それは合法的であるばかりでなく、コンセンサスの得られたものであることが望ましい。また、見た目にも醜いものであってはならない（そういう意味では多数派に所属するのは無難である）。そのためには、各次元においてその「多様性」をどの様に扱うべきかを整理しておく必要がある。

まず、(3)だけに関係する問題は、特にその法的範囲内で行うのであれば、当事者の良心に任しておいてよいと思われる。ウィーン市においては特に保存地区内で現代的なデザインの建築計画を行う時のみ、例えば都市計画及び都市形態専門委員会が監査を行い、その結果を公表すればよい。

(1)(2)に係わる場合が問題である。この時には、第3章や第4章で議論されたような分析・評価手法を活用して、当該建築物の評価を行わなければならない。そしてその評価は、都市や地域社会によって価値観が異なるので、その価値観に合わせた手法を検討する必要がある。時には幾つもの異なるレベルの評価を行う必要もあるだろう。しかし、ウィーンにおいては第1章及び第2章における考察によって、タウンスケープに関する評価のみでかなりのコンセンサスが得られるものと思われる。つまりそれで評価自身は十分であるといえる。こうした客観的評価を行い、さらに都市計画及び都市専門委員会のような専門家集団による鑑定とそれらに対する住民の合意形成があって、初めて民主的かつ平等な解決が図られるのである。こうして確立された「建築の自由」は、建築的・都市計画的・社会的・法的などのあらゆる面から見ても、非常にレベルの高いものであると確信する。

結言では、そうした真の「建築の自由」の確立を具体的にどのように図るのかということ、ウィーン州の都市計画のシステムと建築許可のプロセスに照らし合わせて検討し、提案したいと思う。

#### 【第4章 補註】

- (1) 建築警察におけるデータ収集は、1992年1月9日から2月22日にかけて行ったが、毎週火、木曜日はVehrkersparteiといって、午前8時から12時まで、建築を行いたい業主などの相談時間となっているために、それを避けることを余儀なくされる。さらに朝8時から午後3時までは彼らの労働時間である。また、データが居住者のプライバシーに関するものであるので、通常は当該建築物の居住者か居住者の許可を得たもののみが有料でコピーすることを許可されるが、大学における研究活動であることを記した大学教授の紹介状と、所属大学の学生証、及び必要とする建物の住所リストがあれば、無料で閲覧でき、かつ写真を撮ることは許される。
- (2) 本章で利用したウィーンの建築ガイドブックは、参考文献1である。この文献は、ウィーン市MA19(都市形態及び保存地区に関する市の担当部局)の依頼によってオーストリア建築協会(Osterreichische Gesellschaft für Architektur)が作成したウィーンの建築ガイドブックで、3年に1回の割合でドイツ語版と英語版とが出版される。本文献編集に携わった人とその役割は以下の通りである。  
協力者 : MA19, Mag. arch. Hermann Stieghofer; MA19, Dr. Eva Oltwa  
建築選出 : オーストリア建築協会 : Friedrich Achleitner, Johann Georg Gsteu, Otto Kapfinger, Adolf Krischanitz, Felix Orsini-Rosenberg, Anton Schweighofer, Dietmar Steiner, Gunther Wawrik  
編集者 : Johann Georg Gsteu, Otto Kapfinger, Ernst Mteovics, Wilfried Richter, Dietmar Steiner  
文/図 : Dietmar Steiner  
写真編集 : Margherita Krischanitz
- (3) この点については参考文献3, pp.356-359に詳述してある。
- (4) 厳密にはこの2つの建物は内部でつながっており、外部だけ2棟に見えた建築である。
- (5) 重み付けを行うためには、個々の景観要素について人間がどのように認識するかということを含めて検討する必要がある。このためには、例えば山崎律子・浅見泰司の研究(1994)\*\*が参考になると考えられる。
- (6) スカイラインの複雑さをどのように検討するかについては、奥俊信(1990)\*\*によるスカイラインの視覚形態的な複雑さの分析を行った研究が参考になると思われる。

#### 【第4章 参考文献】

- #1 Österreichische Gesellschaft für Architektur im Auftrag des Magistrats der Stadt Wien, Geschäftsgruppe Stadtentwicklung und Stadterneuerung, MA 19: "ARCHITEKTUR IN WIEN", Magistrat der Stadt Wien, 1984
- #2 小林重昭/朝日本カラーデザイン研究所(編・著)、「新・カラーイメージ事典」、講談社、1993
- #3 Kurt Mollik, Helmann Reining, Rudolf Wurzer: "PLANUNG UND VERWIRKLICHUNG DER WIENER RINGSTRASSENZONE", Textband, Franz Steiner Verlag GmbH, Wiesbaden, 1980
- #4 山崎律子・浅見泰司:「スケッチを用いた住宅地における景観認知特性に関する研究」、日本建築学会計画系論文報告集、第466号、pp.23-28、1994年12月
- #5 奥俊信:「都市スカイラインの視覚形態的な複雑さについて」、日本建築学会計画系論文報告集、412号、pp.61-71、1990

#### 結章

#### 新しい建築許可プロセスの提案へ

## 結 章

### 新しい建築許可プロセスの提案へ

本論文では、ウィーン市都心部のタウンスケープの形成と更新の実態を、まず法制度とそれによって形成された空間について定性的に考察し、次にそこから導かれたウィーン州建設法の問題点と課題に対して、街区ファサードについて定量的な分析を行うことによって、「統一性」と「多様性」との同時実現が可能となる数量的な目安を導き出し、さらに著名建築家の作品を対象にその隣接部分について「一致度」を用いた分析を行い、それらの著名建築家の作品を評価するとともに、「建築の自由」と「機会の平等性」が担保されるためのタウンスケープ評価手法の可能性について議論をおこなった。

ここでは、本論文の最後にあたって、改めてこれまでに得られた知見を整理するとともに、それをもとに新しい建築許可プロセスの提案を行い、今後に残された研究課題をあげることにする。

#### 第1節 前章までのまとめ

第1章は、ウィーン市の都市発展の歴史、ウィーン州建設法による都市計画システムとそれによってコントロールされる建築家の活動、及びその結果形成されてきたウィーン市のタウンスケープについて定性的に考察した。

まず、ウィーン市都心部の発展の歴史については、特にグルンデア・ツァイトに焦点をあて、その時期に形成された都市構造と空間構成が、現在のウィーン市都心部のタウンスケープの基盤になっていること、旧城壁の内側と外側とでの空間の違い、などを第一区の発展の歴史、街区構成の歴史、建物の建設年代を通して理解した。

つぎに、ウィーン州建設法に関しては、ウィーン州建設法における都市計画制度、即ちDプラン（土地利用計画）とBプラン（土地詳細計画）の位置づけ、計画策定のシステムと建築許可のプロセスを概観し、さらに建設法による一般規制とそれを越えることが許される範囲とその事例、保存地区制定の経緯とその内容の変化、その中での特例規制の仕組みと内容、及び保存地区の成果を、特に市役所で得ることが出来た資料と、ヒアリングによって得ることが出来た知識を基に整理した。この結果、ウィーン州建設法は行政法でありながら、1929年の制定当時からタウンスケープのコントロールに意識をおいた「景観法」でもあること、その中で建築家の活動をコントロールするのは一般規制と特別規制の枠組みがあり、一般規制では「建築線など」「建築クラス」「外観規定」、特別規制は特に「保存地区」において各種の手法が弾力的に用いられていることが分かった。また、保存地区の制定は、戦災復興期における近代建築による景観破壊からの視的空間の保護を

目的としたものであったこと、度重なる改正によりその効果を上げるためのシステムを徐々に構築していったこと、さらにこうした歴史的環境を保ちながら、新たな建築・都市の可能性を求めていくことができるようにその枠組みが移行していること、全体的なシステムが州でありながら都市であるウィーンのために構築されたものであり、自治体としての組織体制の中できめ細かい規制と誘導が可能であること、が分かった。一方で、その運用において客観的かつ民主的な判断を行うためのシステムが欠けていることが指摘できた。

第2章では、具体的な建築プロジェクトを対象に、その建設経緯とそこでの景観論争を通じて、景観がどのように議論されているかを考察した。まず、戦後から保存地区制定の頃までの近代建築をいくつか取り上げ、景観問題が近代化の中で持ち上がってきたものであることを確認した。また、その問題は建築家をどうやって選ぶのかということにまで及んでいることが分かった。次に、ハース・ハウスと同様にウィーンの著名建築家が設計し、どちらかというと反対されずに迎え入れられたケルトナーリング・ホーフについて考察した。ここでは、雑誌と新聞記事から評価の変化を考察した。

さらに、保存地区制定後約15年後に計画され、ウィーン市民を巻き込んで激しい景観論争が繰り広げられたハース・ハウスを取り上げ、その建設経緯、ハース・ハウス実現のためになされた法改正と特別規制の内容、それに対して起こった市民の容認意見と反対意見について整理した。これは、建設前と建設後における各種の意見について、関わった主体が明解になるように注意しながら、建築許可における公文書と、雑誌及び新聞の記事とを分類し、分析した。このハース・ハウスにおける景観論争は特にウィーンの景観に対する象徴的な意見が含まれており、これを整理することによって第3・4章で行う分析における考え方として、「揃える」と「個性（芸術性）」がキーワードであることが理解され、さらに次のようなウィーン州建設法の問題点などが具体的に指摘できた。

すなわちハース・ハウスの場合、ただでさえ4週間の縦覧だけでは十分に住民とのコンセンサスを得られるものではないにも係らず、Fプラン・Bプランの変更も、そして法88(5)（保存地区における外観に関する規定）における現代的様式を可能にする改正も十分な議論もないまま行われてしまった。それに対して住民の反対運動があり、結局MA 3.5による調停案によって一段落したが、これもホラインや市当局にとって有利な方向で行われた。つまり、ウィーン市第一区の真ん中という市民にとっては最も重要な場所の決定に対して、市民の意思が十分に反映されなかった。しかし、こういう新しい開発はウィーンのタウンスケープにとっても必要なものであり、またこの経験を生かすことができれば全ての建築家に平等なチャンスと「建築の自由」を与えることができ、さらに民主的な市民社会の形成に役立てることが可能である。以上より、特にウィーン市都心部のタウンスケープの形成と更新に関わる建築計画の場合には、当該建築に対する客観的評価と住民参加<sup>(11)(12)</sup>が建築許可の時点でも行われ、都市計画の変更もできること、建築家のビルも認めることが、民主的な都市計画制度の構築のために必要であることが指摘できた。

第3章では、以上の知見に基づき、ウィーン市都心部のタウンスケープにおける客観的評価のための基礎的知識を得ることを行った。即ち、ウィーン市都心部の「統一性」と「多様性」を把握し、そこにおける建築家の活動とその役割を位置づけるために、「統一

性」と「多様性」のある2つの街路（アーノ街、ノットン・ガッセ通り）を対象に、その街区ファサードのデザインエレメントの場所と時間による変化について分析を行い、さらにその空間における幾つかの著名建築家の作品について考察を行った。これによって、街区ファサードのデザインエレメントが街路空間においてどのような特長を持ち、隣接建築物や同じ街路の他の建築物とどのような関係を持っているのか、それがどの様に変遷してきたのかということについて、知見を得ることができた。さらにそこから、各デザインエレメントにおける「統一性」と「多様性」との同時実現のための定量的目安を得ることができ、また第4章で行う隣接部分の分析手法を構築するための考え方を導くこともできた。

具体的には、まず「規模」や「ファサードの分割」に関する分析は、「平均階高」との比によって行うことが有効であり、それによって全体の関係を把握することが可能になることが示された。次に、ウィーン州建設法による規制の影響が強いものの、「軒高」や「基壇部」のようなデザインエレメントによって「統一性」が得られること、「壁面分割長」や「屋根部」の変化によって空間的な「多様性」が得られること、そして「統一性」と「多様性」との同時実現の定量的目安としては、隣接建築物との差が「規模」と「ファサードの分割」に関するデザインエレメントについては「平均階高」の0.5倍分、「開口部」の「平均大きさ」については約0.5㎡であることが導かれた。

また、個々の著名建築家の作品について見てみると、その街区ファサードのデザインエレメントのほとんどは街路空間全体の標準的な水準にあるが、いくつかの項目について大幅に突出したものが、それによって個性的なものを達成していることが分かった。

第4章では、第3章までの結果を踏まえた上で、建築物の隣接部分を客観的に分析・評価する手法を構築し、それをウィーンの著名建築家の作品に適用することによって、その隣接建築物との隣接関係がどうなっているのかということを街区ファサードのデザインエレメントごとに定量的に分析し、考察を行った。ここでは、特に「一致度」によって各建築物の評価を試みたが、それによって、ウィーン市都心部の街区ファサードの特徴を十分に理解することができ、景観評価手法への発展の可能性があることを検証した。

具体的には、全体的に「規模」に関するデザインエレメントの「一致度」が高く、「装飾」「素材」などの「一致度」が低いものの、年代別ではばらつきがあり、特にグルンデア・ヴァイト以前の建築においては「装飾」「主要材料」等の「一致度」の方が高く「規模」に関するものの方が低いことが分かった。そのことから、全体的なバランスの中である程度の「一致度」に達していれば、空間的な調和が保たれて、「統一性」と「多様性」との同時実現が可能となることが考察された。また、第3章で得られた考察と同様な結果を、各著名建築家の作品について得ることができた。このように、隣接部分による分析と評価によって、街区ファサードに関する理解とその評価が十分にできることが検証された。一方で、現時点でのこの評価方法は一律にポイントの合計を行うものであり、各デザインエレメント毎の重み付けを行う必要があるなどの問題点もあるが、このような方法がウィーン市都心部のタウンスケープを理解し、また評価していく上では有効な手法であり、さらに第2章で述べたような、民主的かつ平等で、なおかつ「建築の自由」が増すようなタウンスケープのコントロール手法の確立における景観評価手法として十分検討に値することが分かった。

## 第2節 現行建築許可プロセスの問題点

### 5.2.1 タウンスケープの客観的評価と住民参加

ウィーン州建設法に基づいたFプラン・Bプランの策定プロセス及び現行建築許可のプロセスについては、第1章第1節 1.1.3 (pp.15～18)で扱った。そのフローは図1-1-6及び図1-1-7に示すとおりである。ここで分かるように、Fプラン・Bプランの策定プロセスばかりでなく、現行の建築許可プロセスにおいても、計画案に対する特に確固たる客観的評価がある訳ではない。住民参加も、Fプラン・Bプランの策定において、4週間の縦覧が認められているに過ぎない。これは、私有地における必要以上の制限と手続きはマイナス効果が大きく、仕方のないことかもしれない。また、Fプラン・Bプランという公共的視野に立脚した都市計画的制限に関しては客観的評価と住民参加が必要であるが、それ以後の建築許可においては法の許す範囲内での「建築の自由」と裁量権が認められる必要もあり、現システムで十分機能していると言えることができるだろう。

しかしながら、既に何度も述べてきているように、建築線等を越える建築行為が行われる場合やハースハウスの事例のように特別規制を用いることによって新しいタウンスケープを創出するような場合には、隣隣住民や道路管理者などの第三者の権利を侵害することになる場合があり、十分に慎重な対応を行うことが望ましく、従来のシステムでは不十分であると思われる。つまり、こうした建築行為の妥当性の検討は「都市計画及び都市形態委員会」に委ねてあるだけであり、周辺環境に大きな影響を及ぼすものであるにもかかわらず、それを客観的に評価したり、周辺住民等の意見を十分に考慮するシステムにはなっていない。従って、政治力のある特殊な建築家がそうでない建築家よりはるかに有利になり、平等で民主的な都市計画・建築計画が行われない可能性がある。

ハース・ハウスの場合はそのような問題が吹き出した。第一に、ウィーン第一区の中心という重要な場所にあり、特別規制が適用されながら、住民参加と客観的評価が十分に行われなかった。つまり第一次案発表後、住民の反対があったにもかかわらず、十分な議論がなされないままFプラン・Bプランの議決が行われてしまった。第二に、具体的計画案の提示とその十分な検討がない状態でFプラン・Bプランの決定が行われると、その妥当性を住民は判断できない。にも関わらず、現法では住民参加はFプラン・Bプランの策定時の4週間のみであり、既に都市計画決定されているということで調停案でも不利になった。以上より、タウンスケープにおける重要な決定の場合には、建築許可プロセスにおいて住民の監視の下で見直しを図れるシステムが必要であることが理解できる。

### 5.2.2 「建築の自由」における平等性と民主性

前述したような問題点を見だし、さらにタウンスケープを客観的に評価し住民の判断を仰ぐシステムを構築する必要性を述べるのは、「建築の自由」とそれに対する建築の平等性と民主性がそこに存在するからである。即ち、建築許可プロセスにおける客観的評価と住民参加のシステムが確立することによって、建築線等を越えたり特別規制を適用する

ことに対して平等性と民主性が得られ、客観的にかつ多くの人々の認知を得てそうした建築行為を行うことが可能になり、「建築の自由」が豊かになるからである。

また、近年政界で取り沙汰されている「地方分権」<sup>(3)</sup>をこうした客観的評価と住民参加のあり方に加えることによって、各自治体独自の客観的評価手法と住民参加を確立することができ、全国共通で画一的な現在の用途地域制度よりも遙に個性ある街づくりも可能になるだろう。そのためには、景観の客観的評価と住民参加が法的に担保されることも必要である。我が国においてはタウンスケープに関する意識が薄く、「建築の自由」の捉え方が西欧諸国とは異なるので単純にはいかないが、例えば、ウィーンの場合にはウィーン州建設法によって法的に担保することが可能である。

こうした個々の法制度的あり方については、各国・各自治体の社会事情・文化そして法的仕組み等に寄って変わるのでケースバイケースであり、今後の更なる検討が必要であるが、次の第3節ではウィーン市を題材として、新しい建築許可プロセスの提案を行う。

## 第3節 景観評価と住民参加を含む建築許可プロセスの提案

### 5.3.1 「一致度」と建築許可プロセスにおける景観評価

第4章より、「一致度」という隣接部分の分析・評価手法を用いてウィーン市都心部の歴史的な街区ファサードについて十分に記述できることが示された。即ち、ウィーン市都心部という環境においては、隣接部分の一致関係を検討することによって、そのタウンスケープの空間特性を十分に把握できることが分かった。従って、今後の研究の積み重ねによって、「一致度」を建築許可プロセスにおける景観評価の一手法として確立させることができると思われる。しかし、景観評価の手法として利用するには、まだ幾つかの課題がある。例えば、個々の景観要素についても単に一律に扱うのではなく、山崎律子・浅見泰司<sup>(4)</sup>による各景観要素の認知強度の研究<sup>(4)</sup>などを基にして、重み付けを行っていく必要がある。また、より多くの事例について検討を重ねる必要もある。

さて、こうした景観評価を建築許可プロセスの中にどのように位置づけていくかということが次の課題である。このプロセスは次のように考えられる。

まず、建築許可申請された建築計画が合法的であるかどうかをチェックする。即ち、既存のFプラン・Bプランと合致しているかどうか、そして建築構造・建築計画・建築設備・消防設備などの各法規定に合致しているかどうかである。こうしたことが建築警察を始めとする各部署で検討されなければならない。その上で、特別な行為を行っていない建物については速やかに建築許可が下される。しかし、建築線等を越える建築行為がある建物や特別規制を適用する建物については、景観評価と住民参加が必要である。建設法は、第1章結論でも述べたように景観を重視した一種の景観法でもあるので、特に景観評価を行う必要があるが、さらにその他の環境影響評価を行ってもよい。これをクリアした上で住民の意見を聞き、問題があるならば調停案を作成し、F・Bプランの修正を行い、さらに都市計画及び都市形態委員会のような第三機関にチェックを受けた後に、建築許可が下るようにすべきである。また、各時点で建築家のアピールを認めることも必要である。

### 5.3.2 建築許可プロセスにおける住民参加の位置づけ

本論文第2章で述べたように、ハース・ハウスの場合は周辺住民による反対運動が大きくなり、MA35（一般建築行政）による介入があり、調停案が難められ、最終的な建築許可が下ろされるに至った。これは、ハース・ハウスの計画が単なる民間による開発ではなく、シュテファン教会の前という特殊な場所に立地し、さらに特別規制(Besondere Bestimmung)が適用された建物であり、周辺環境に対する影響が大きかったからである。今後、このように特別規制が適用されたり、あるいは建築線等を越える建築行為が許可される場合には、周辺環境に対する影響があり、第三者の権利を侵したりあるいは公共的な空間への影響があると考えられるので、住民を含めた合意形成が必要になるだろう。そしてまた、ハース・ハウスは行政と住民との話し合いが計画案の提出と建築許可との間に持たれていったことによって最終的な合意にたどりついたことを考えると、住民参加は建築警察による許可手続きの中で位置づけられ、住民の意見も取り入れた形で建築許可を出すべきであると思われる。

この住民参加の形態にも多くのヴァリエーションが考えられる。第一には公開展示あるいは縦覧である。しかし、この場合には住民の意見が反映されることは保証されていない。単に閲覧し、どういう計画案で、それに対してどういう処置が取られたかを確認することができるだけである。また、ハース・ハウスの場合のように、調停後に縦覧が行われる場合もある。第二には住民説明会あるいは公聴会といった住民に対する口頭説明と意見交換の場の設定である。この場合には討論された内容が整理され、議事録あるいは意見書として行政側に提出される必要がある。第三に住民投票(Volksstimmung)がある。しかし、これは公共建築物とは別として、民間建築物に対しては大変難しい<sup>(5)</sup>。従って、せいぜい第一の公開展示あるいは縦覧と第二の住民説明会あるいは公聴会といった程度で留めておいてよい。その上で問題があるならば、MA35のような機関によって調停案を作成し、都市計画及び都市形態専門委員会のような第三機関によるチェックを受けた後に、建築許可が下りるようにすべきである。その委員会も透明性を保っておくことが必要である。また、これらは「建築の自由」を豊かにすることが基本的狙いであり、決して建築家による発想や都市計画的意図を排除するものではないことを考慮することが必要である。

### 5.3.3 新しい建築許可プロセス

ここでは、今までに述べてきた建築許可プロセスにおける客観的景観評価と住民参加の位置づけを、第1章で整理した現行ウィーン州建築法に基づいた建築許可プロセス(図1-1-7)の中にあはめることを試みる。

それは、現行の建築許可プロセスの中における合法性の審査(建築計画・意匠、構造、設備等に関する審査)の後に、建築警察による審査の一貫として、例えば「一致度」による隣接部分の評価のような景観評価を行い、さらに公開展示や公聴会のような住民参加による民主的な合意形成を行うことを主として提案するものである(図5-3-1)。以下、その特徴を述べる。

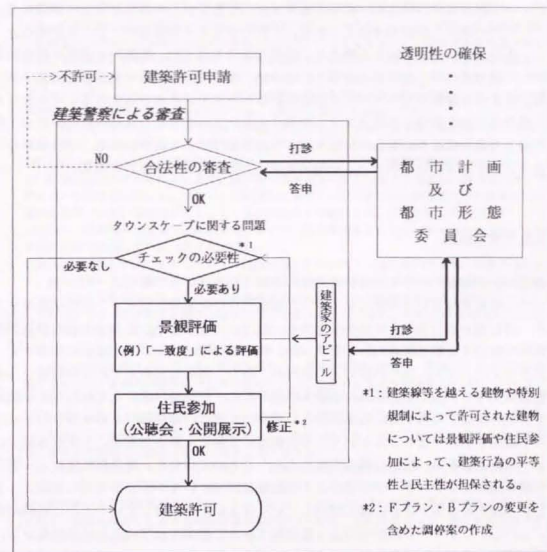


図5-3-1 景観評価と住民参加を含む建築許可プロセスの提案

- ①建築許可申請に基づき、まず合法性の審査を行う。もしその審査のみで十分な建築で、審査がOKであれば、建築許可を与える。一方、その建築が「建築線」を越えていたり、特別規制の適用を必要としている等の公共性に関する問題があり、タウンスケープへの多くの影響が予想され、それが特に歴史的保存地区である場合には、景観評価(例えば「一一致度」のようなもの)を行う。その市街地特性に応じて、定性的評価のみであったり必要な場合もありうる。
- ②景観評価を行った後には、必ず都市計画及び都市形態委員会のチェックを受ける。これによって、もし景観評価によっては問題なくとも他に何らかの問題がある場合に対処できる。もし問題がある時には、不許可となり建築家に戻される。また、そうした修正や不許可に対する建築家のアピールを制度的に認める。
- ③さらに、ある一定期間の公開及びその期間における公聴会を行う。もし、反対意

見が多数を占めるようであれば、市当局（例えばMA35のような部署）によって調停案が作成され、都市計画及び都市形態委員会のような第三の機関のチェックの後、計画案は修正される。これに対しても建築家のアピールがある。

④以上のような手続きを踏まえ、住民の合意も得られ、客観的に建築の妥当性を確認できた後、建築許可に至る。さらに、これらの手続きの公開性を確保する。

以上のような建築許可のプロセスが都市計画のシステムに取り込まれることによって、民主的かつ自由な街づくりのシステムが確立され、さらにタウンスケープにおける「建築の自由」も豊かになり、新しいデザインの可能性も見出せるようになる。これが即ち、「タウンスケープのコントロールと建築デザインとの均衡的共存」である。

### 5.3.4 今後の課題

最後に、本研究において残された今後の課題は以下のようである。

まず、本研究において対象として扱った建築物及び街路は、ウィーン市都心部のタウンスケープにおいて特殊なものばかりである。すなわち、ウィーンにおいて美的評価が高く個性豊かな街路と著名建築家の作品を扱った。これは、第一にそうした空間に最もウィーンの人々のタウンスケープへの思い入れが現れており、他の建築物もそれらの建築から多くの影響を受けていること、第二に本論文が最終的に「建築の自由」とそれに対する建築許可システムに関して論ずることを目的としていたために、建築的なものを取り扱うことによって議論を明確でることという二つの観点に立脚したからである。つまり本論文は、ウィーンの街並みの一般的な傾向を探ろうとしたものではなく、著名建築家によって作られた建築物がタウンスケープとどのような関係を持っているかを分析することによって、新しい「建築の自由」をどの様に獲得していけばよいかを検討していくことに目的があった。しかし、ウィーンの街がそのような建築ばかりで形成されているわけではない、著名建築家の作品でない建築物の水準を如何に高めるかも問題である。従って、凡そ建築家とは無縁の建築物も含めて、より多くの事例についても分析する必要がある。それによって、一般的なウィーン市都心部のタウンスケープの問題点を把握し、その空間をいかにコントロールすべきかという点について知見を得ることも可能になるだろう。

また、本研究で分析したデザインエレメントは全て単に「立面に関するもの」ばかりであり、平面（機能）と立面との関係は究明されなかった。しかし、住まい方を含む平面構成が、立面にどの様に現れてくるのかは興味深い問題である。それは即ち、平面的な構成を含めた総合的な空間構成のタイポロジーについて検討することであると考えられる。

さらに、我が国のタウンスケープと比較検討することが考えられる。これによって、相対的にそれぞれのタウンスケープの持つ長所と短所、及びその整備課題などが議論できるだろう。また、我が国において確立していないタウンスケープの誘導システムを検討することもできる。ウィーン市都心部のタウンスケープは特殊であるという排他的な考えはすべきではない。ウィーンから見れば、日本のタウンスケープが異常で特殊であるかもしれないからである。相互の理解と正しい見解を示すことによってお互いの発展につながる事が可能になるであろう。

### 【結章 補註】

- (1) 日笠端(1993)は住民参加について、「都市計画の決定手続きに住民参加を欠くことが出来ないことは、民主主義の社会体制のもとでは、もはや自明のことである。（中略）計画への住民参加は、計画決定にかなりの時間と労力がかかるというデメリットもあるが、一般住民の意見を取り入れることにより、計画内容の客観性、公益性を高めることができ、市政に対する関心を深めるよい機会でもあり、また、計画の実施段階での協力が得られやすいなどのメリットがはるかに上回ると考えられる。」とし、さらに、公聴会の開催、都市計画案の縦覧だけでなく、住民の直接参加の制度化が必要であることも述べている。（参考文献#1, p.224）
- 一方、内田廣(1981)は、アメリカの政治学者スチュアート・ラングトンによる市民参加の分類（参考文献#2, p.21）を引用し、市民参加には①市民活動(citizen action)、②市民参与(citizen involvement)、③選挙参加(electoral participation)、④義務的参加(obligatory participation)とあるとした上で、我が国で取り上げられている「市民参加」は①②のタイプであることを指摘している。そして、市民参加におけるボランティアの復活と市民参加の公共志向化のためには、③の方式によって「市民委員会」が結成され、市と住民との対立のクッションとなり、自発的市民活動の触媒となることが今日の意義であることを、アメリカのデイトン市を例に挙げて説明している（参考文献#3）。

この内田廣(1981)が述べているところの「市民委員会」がウィーン建築許可プロセスに組み込まれて、特別規制の適用や建築線を超える行為に対する公益性や客観性の確保の監視が行われるのは、ウィーン市都心部のタウンスケープの形成と更新においても有効であると考えられる。

- (2) 都市計画における住民参加に関する研究は以下のものがある。中村昌広(1986)は、行政意による住民参加が改善まちづくりの計画形成に与えた影響を、東京都内の事例について、①行政による当初の方向性、②住民参加による計画案、③オーソライズされた計画案に分けて整理し、地区相互の比較を行っている（参考文献#4）。原科幸彦他(1986)は、修復型まちづくりを推進するための、計画実行段階における住民のまちづくり学習のモデルの構築とそのケース・スタディを行っている（参考文献#5）。さらに吉村輝彦・原科幸彦(1994)は、都市マスタープラン策定プロセスに関する現状分析を行い、その問題点として行政と市民との双方間の情報交流が不十分であることを指摘している（参考文献#6）。これらの研究は、ラングトンによる市民参加の分類における市民参与に関するものであると考えられる。
- (3) 「地方分権」の必要性などについては、五十嵐俊将(1995)が参考文献#7に詳しく述べている。この文獻における「地方分権」は、地方の実態を理解した福祉政策の実現の為に官僚主導の政治から風通しすることが必要であるというものである。そのためには、議会が国及び地方において真に民主主義的に機能し、より積極的に議員立法が行われることが必要であり、都市計画もまさにその必要性が問われているということを中心として主張している。
- (4) 山崎・浅見(1994)は結論として、建物を構成する主要な線素（外形線）は認知しやすいが、建物の付属物（窓・バルコニーなど）の線素（内部の線）は認知されにくいことが明らかにしたとしている（参考文献#8）。このような分析を本研究で扱った景観要素について行っていくことによって、各景観要素の重み付けが可能になると思われる。
- (5) ウィーンでは、1995年開催を目標にプラダストとの共催で国際連合の建物（UNO CITY）の周辺に万博が計画された。そのための国際コンペも企画され、実施された。しかしながら、その是非を巡って国民の反対運動が起こり、国民投票が行われ、僅かの差で反対派が勝利を収め、万博の計画は終わってしまった。このような国民投票が行われる機会が設けられているのは、民主的かつ消費者のレベルにたつた政治が行われているものとして評価できる。しかし、このような国民投票や住民投票は、それだけ公共的な意味合いをもつものに対して行われるべきものであるので、法制度に関する決定に対しては必要であると思われるが、民間の建築行為に対して国民投票を行うのは適切ではない。

### 【結章 参考文献】

- #1 日笠端：「都市計画 第3版」、共立出版、1993年  
#2 Stuart Langton, ed., "Citizen Participation in America", p.21, 1978

- #3 内田 満：「市民参加と市民意識」、都市問題研究、第33巻、第5号、pp.14-26、都市問題研究会、1981年
- #4 中村昌広：「東京都九部における行政発意による改善型まちづくりの計画形成過程」、日本都市計画学会学術研究論文集、21号、pp.313-318、1986年
- #5 坂科幸彦・広木雅史・小野宏哉：「修復型まちづくり推進のための学習の場のあり方に関する研究」、日本都市計画学会学術研究論文集、23号、pp.157-162、1988年
- #6 吉村輝彦・坂科幸彦：「都市マスタープラン策定プロセスへの市民参加の現状分析」、日本都市計画学会学術研究論文集、29号、pp.13-18、1994年
- #7 五十嵐敬喜・小川明雄：「議会——官僚支配を越えて——」、岩波新書、1995年
- #8 山崎律子・浅見泰司：「スケッチを用いた住宅地における景観認知特性に関する研究」、日本建築学会計画系論文報告集、第466号、pp.23-28、1994年12月

## 附 章 /

## 第 3 章 の グ ラ フ

(図3-3-1a～図3-3-8i)

図3-3-1a グラーベン街のデイルムント（旧設）の変化[1994]  
— 高さの絶対値 —

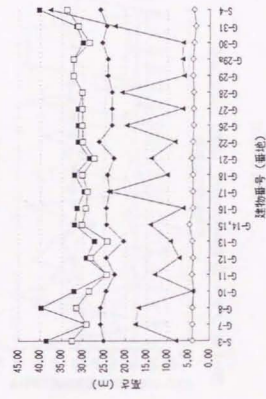


図3-3-3a グラーベン街のデイルムント（旧設）の変化[1995]  
— 高さの絶対値 —

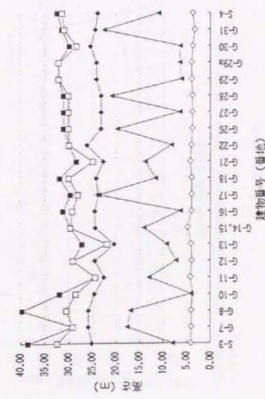


図3-3-2a グラーベン街のデイルムント（旧設）の変化[1975]  
— 高さの絶対値 —

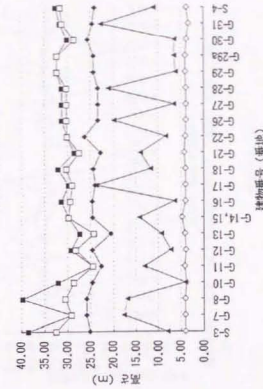


図3-3-4a グラーベン街のデイルムント（旧設）の変化[1914]  
— 高さの絶対値 —

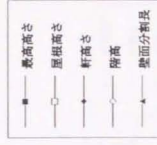
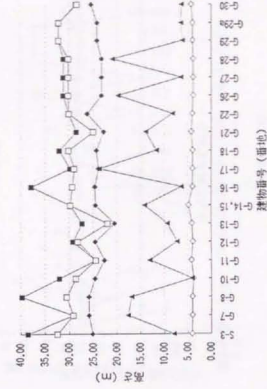


図3-3-1b グラベン街のテナビリティ（現価）の変化[1941]  
— 平均に対する割合 —

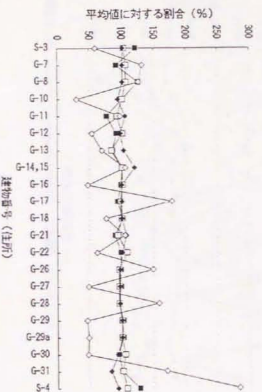


図3-3-2b グラベン街のテナビリティ（現価）の変化[1975]  
— 平均に対する割合 —

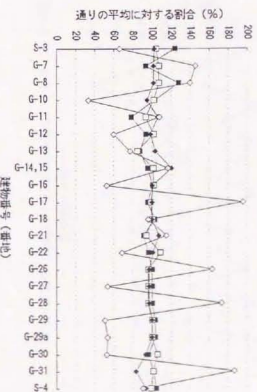


図3-3-3b グラベン街のテナビリティ（現価）の変化[1955]  
— 平均に対する割合 —

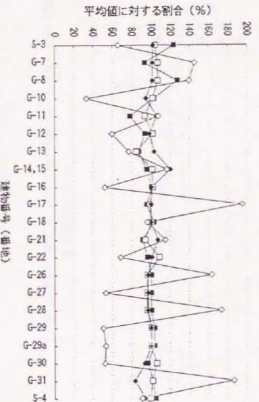


図3-3-4b グラベン街のテナビリティ（現価）の変化[1914]  
— 平均に対する割合 —

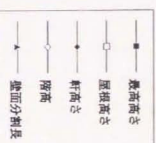
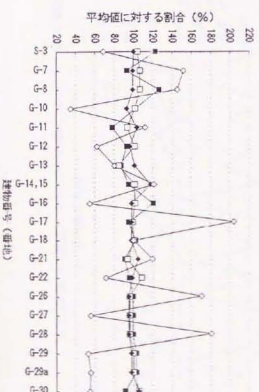


図3-3-1c グラベン街のテナビリティ（現価）の変化[1941]  
— 平均との差/平均階高 —

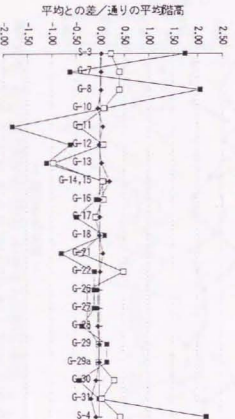


図3-3-2c グラベン街のテナビリティ（現価）の変化[1975]  
— 平均との差/平均階高 —

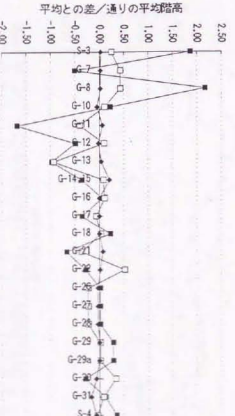


図3-3-3c グラベン街のテナビリティ（現価）の変化[1955]  
— 平均との差/平均階高 —

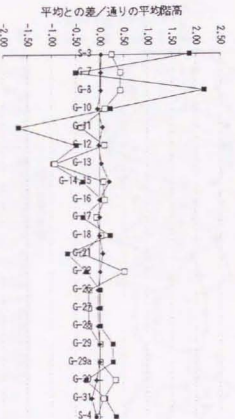


図3-3-4c グラベン街のテナビリティ（現価）の変化[1914]  
— 平均との差/平均階高 —

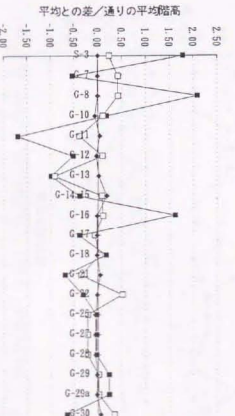


図3-3-1d グラベン街の7422121 (744-F) の変化[1994]  
— 高さの絶対値 —

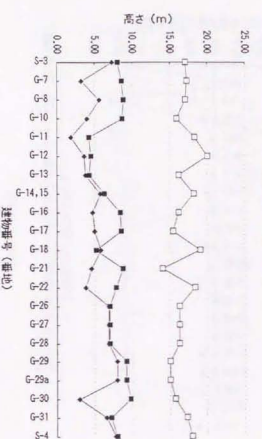


図3-3-3d グラベン街の7422121 (744-F) の変化[1995]  
— 高さの絶対値 —

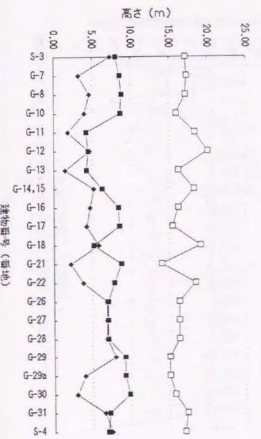


図3-3-2d グラベン街の7422121 (744-F) の変化[1976]  
— 高さの絶対値 —

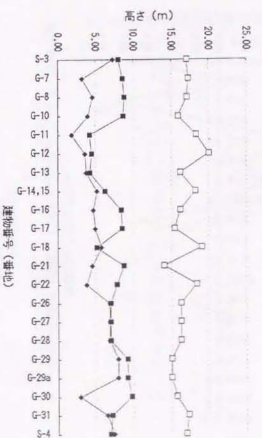


図3-3-4d グラベン街の7422121 (744-F) の変化[1914]  
— 高さの絶対値 —

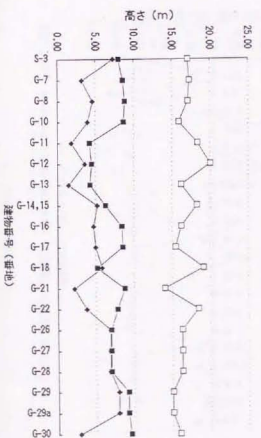


図3-3-1e グラベン街の7422121 (744-F) の変化[1994]  
— 平均に対する割合 —

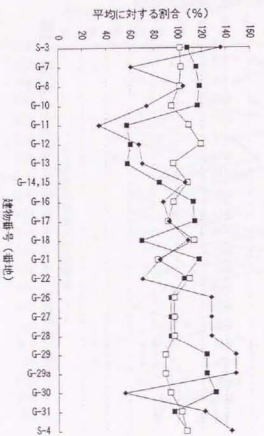


図3-3-2e グラベン街の7422121 (744-F) の変化[1976]  
— 平均に対する割合 —

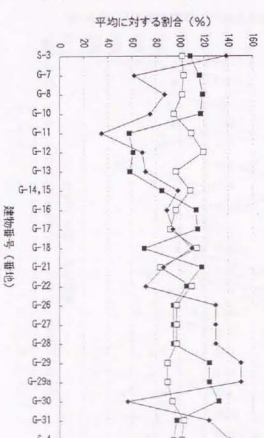


図3-3-3e グラベン街の7422121 (744-F) の変化[1995]  
— 平均に対する割合 —

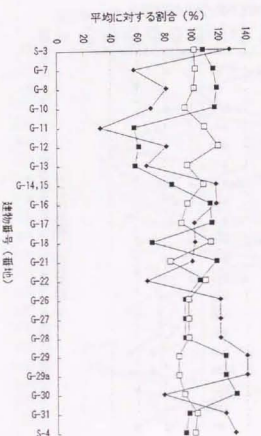
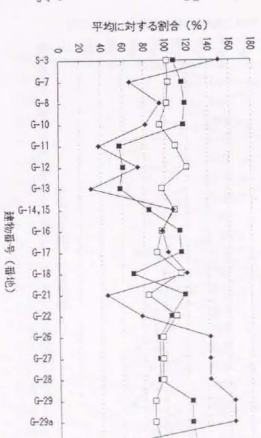


図3-3-4e グラベン街の7422121 (744-F) の変化[1914]  
— 平均に対する割合 —



— 高層部  
— 中層部  
— 屋根部

図3-3-1f グラバーン街のマイレージ (744-F) の変化[1994]

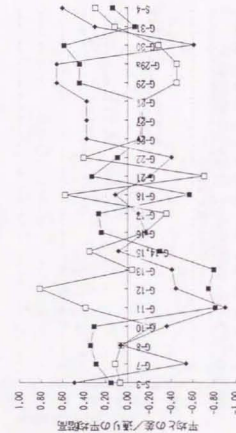


図3-3-2f グラバーン街のマイレージ (744-F) の変化[1975]

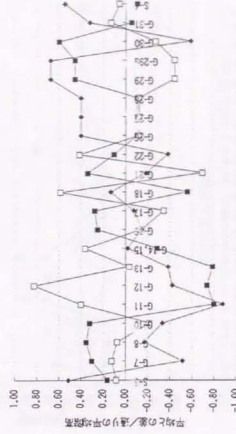


図3-3-3f グラバーン街のマイレージ (744-F) の変化[1955]

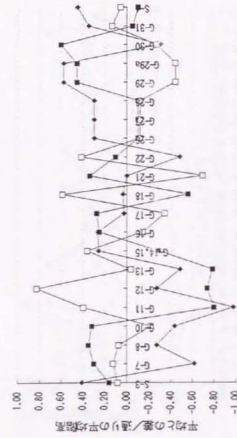


図3-3-4f グラバーン街のマイレージ (744-F) の変化[1914]

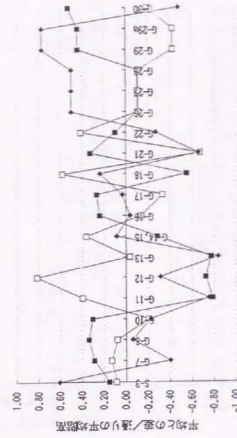


図3-3-1g グラバーン街のマイレージ (744-F) の変化[1994]

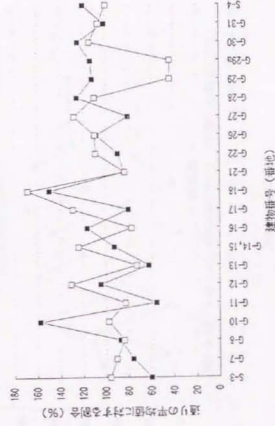


図3-3-2g グラバーン街のマイレージ (744-F) の変化[1975]

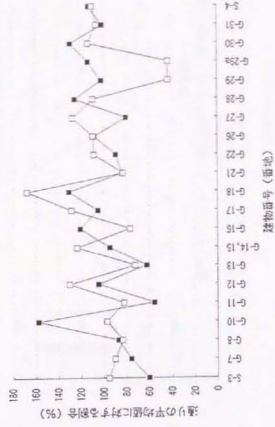


図3-3-3g グラバーン街のマイレージ (744-F) の変化[1955]

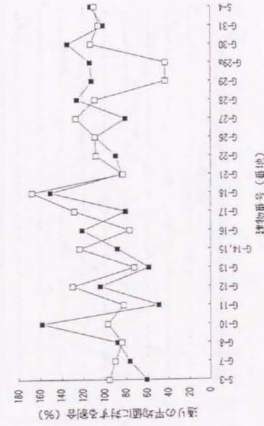
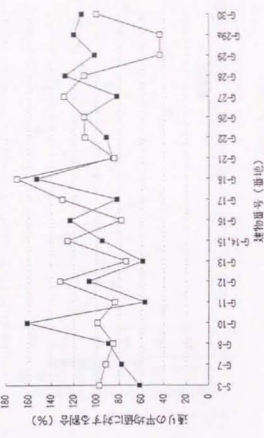


図3-3-4g グラバーン街のマイレージ (744-F) の変化[1914]



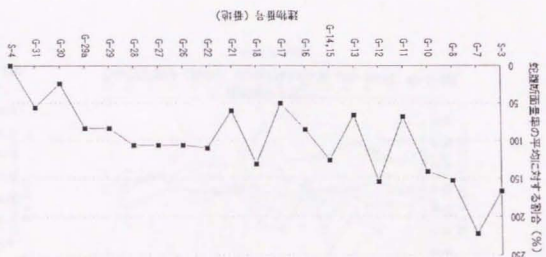


図3-3-31 グラーベン街の降雨量 (蛇腹) の変化[1965]

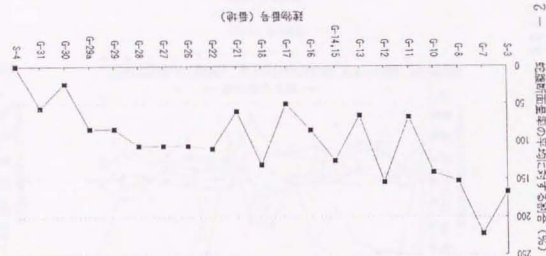


図3-3-11 グラーベン街の降雨量 (蛇腹) の変化[1994]

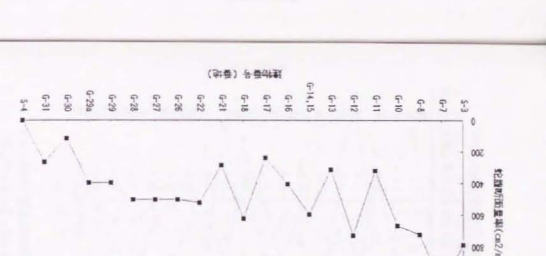


図3-3-3b グラーベン街の降雨量 (蛇腹) の変化[1955]

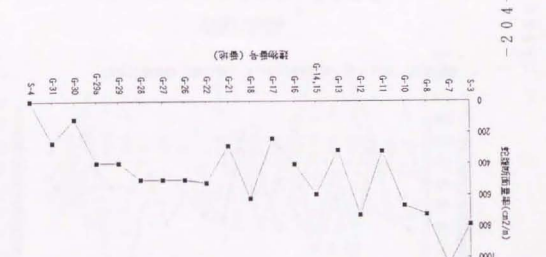


図3-3-1b グラーベン街の降雨量 (蛇腹) の変化[1994]

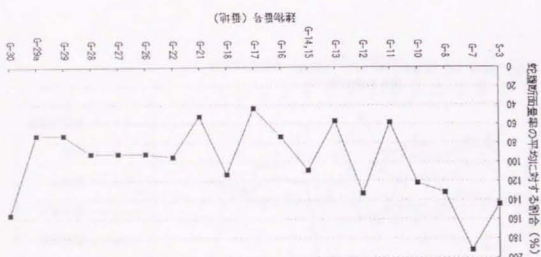


図3-3-41 グラーベン街の降雨量 (蛇腹) の変化[1914]

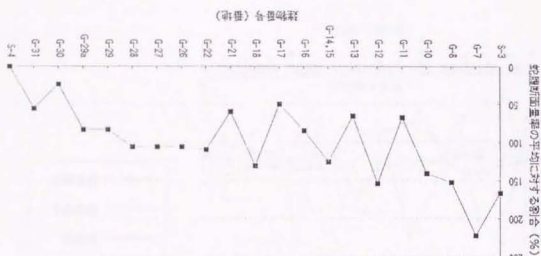


図3-3-21 グラーベン街の降雨量 (蛇腹) の変化[1975]

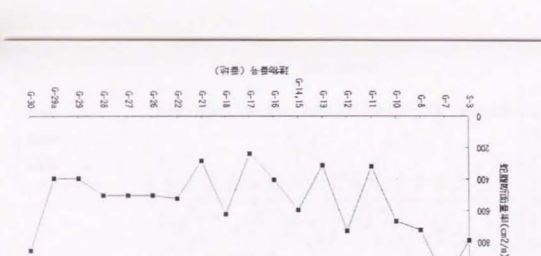


図3-3-4b グラーベン街の降雨量 (蛇腹) の変化[1914]

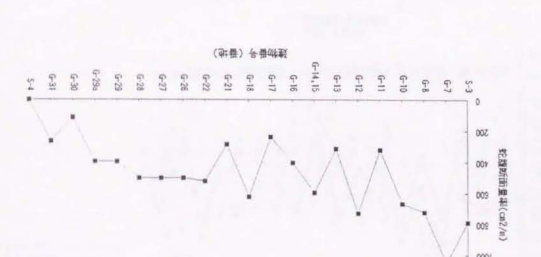


図3-3-2b グラーベン街の降雨量 (蛇腹) の変化[1975]

図3-3-5a 4x7x11-47x7 通りのマイレージ (現状) の変化 [1994]

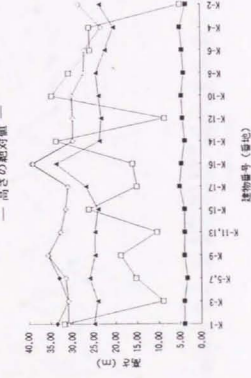


図3-3-6a 4x7x11-47x7 通りのマイレージ (現状) の変化 [1975]

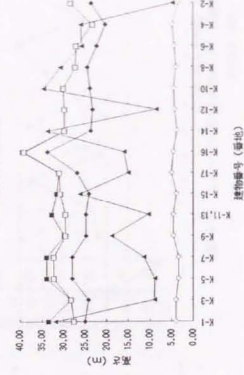


図3-3-7a 4x7x11-47x7 通りのマイレージ (現状) の変化 [1955]

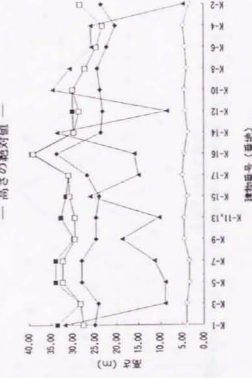


図3-3-8a 4x7x11-47x7 通りのマイレージ (現状) の変化 [1914]

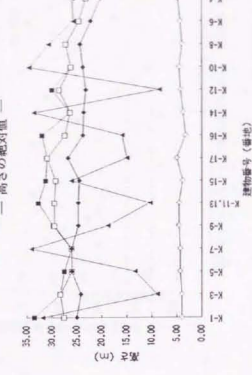


図3-3-5b 4x7x11-47x7 通りのマイレージ (現状) の変化 [1994]

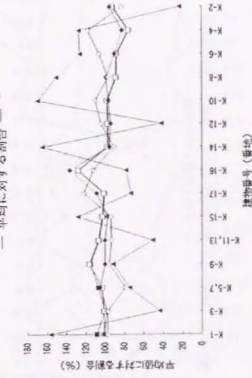


図3-3-6b 4x7x11-47x7 通りのマイレージ (現状) の変化 [1975]

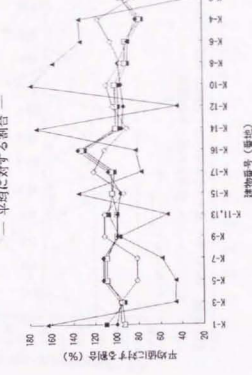


図3-3-7b 4x7x11-47x7 通りのマイレージ (現状) の変化 [1955]

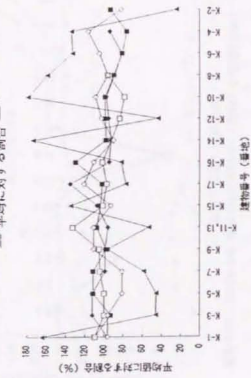


図3-3-8b 4x7x11-47x7 通りのマイレージ (現状) の変化 [1914]

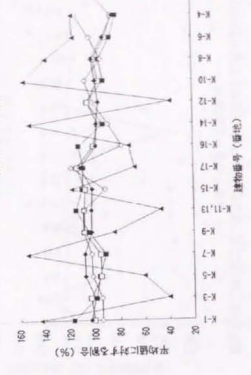


図3-3-5c ヲノトナ-リツ 通りのデイレメント (規模) の変化[1994]  
— 平均との差/平均階高 —

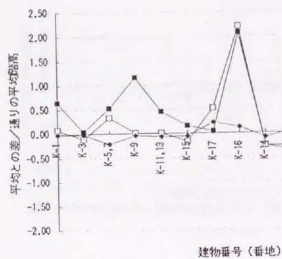


図3-3-5c ヲノトナ-リツ 通りのデイレメント (規模) の変化[1975]  
— 平均との差/平均階高 —

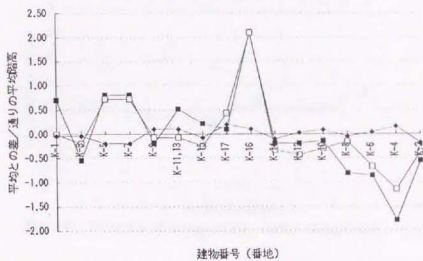


図3-3-7c ヲノトナ-リツ 通りのデイレメント (規模) の変化[1955]  
— 平均との差/平均階高 —

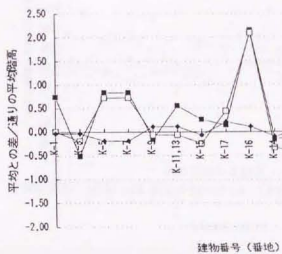


図3-3-8c ヲノトナ-リツ 通りのデイレメント (規模) の変化[1914]  
— 平均との差/平均階高 —

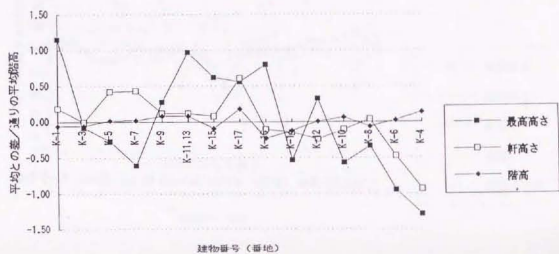


図3-3-5d ヲノトナ-リツ 通りのデイレメント (ファ-ド) の変化[1994]  
— 高さの絶対値 —

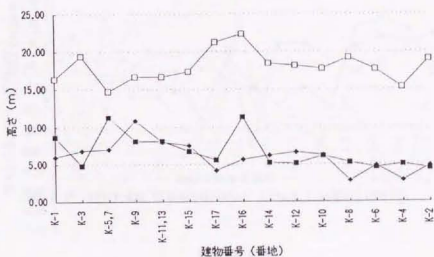


図3-3-6d ヲノトナ-リツ 通りのデイレメント (ファ-ド) の変化[1975]  
— 高さの絶対値 —

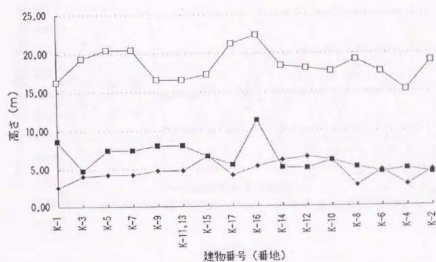


図3-3-7d ヲノトナ-リツ 通りのデイレメント (ファ-ド) の変化[1955]  
— 高さの絶対値 —

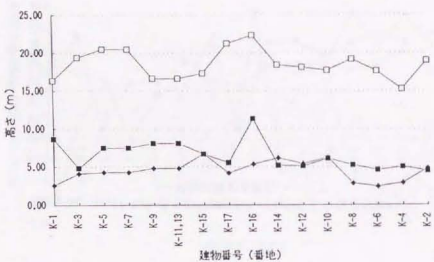


図3-3-8d ヲノトナ-リツ 通りのデイレメント (ファ-ド) の変化[1914]  
— 高さの絶対値 —

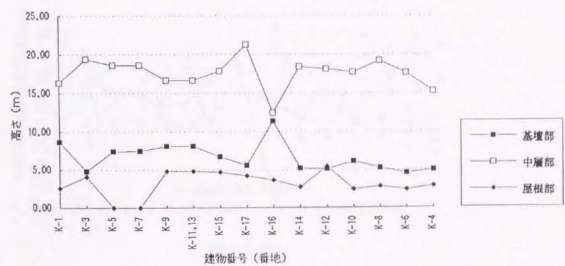




図3-3-5g ヲコトナリツグ 通りのデザイレント (開口部) の変化[1994]

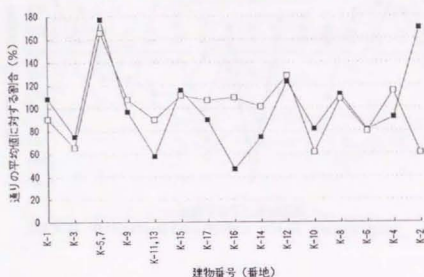


図3-3-51 かわけが通りの利便性（蛇腹）の変化[1994]

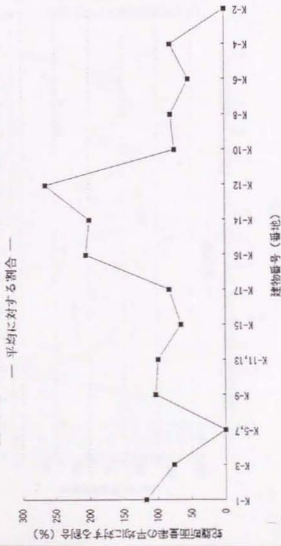


図3-3-51 かわけが通りの利便性（蛇腹）の変化[1975]

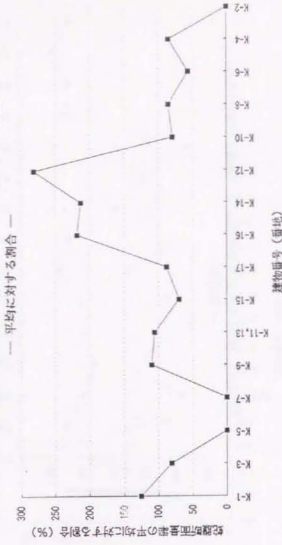


図3-3-71 かわけが通りの利便性（蛇腹）の変化[1955]

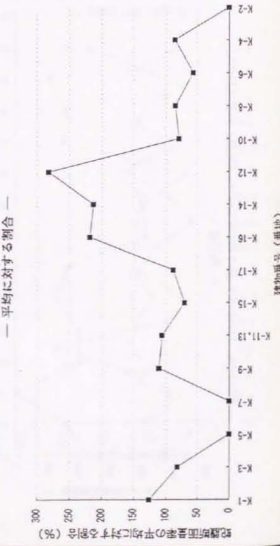
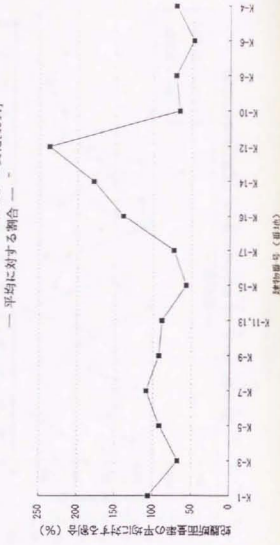


図3-3-81 かわけが通りの利便性（蛇腹）の変化[1914]

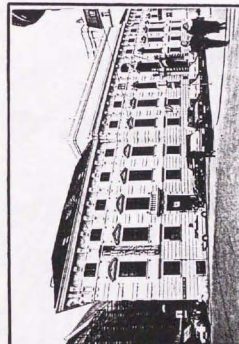


## 附 章 2

### 第 4 章 の 建 築 デ ー タ シ ー ト

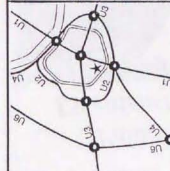
( 1 ~ 2 9 )

# Palais Lobkowitz

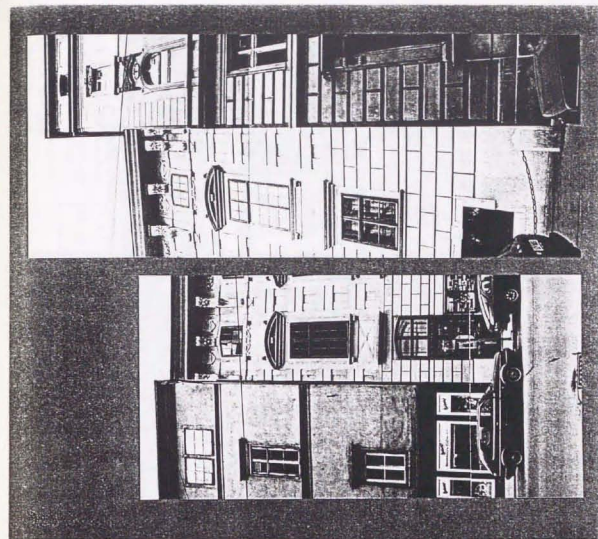


## *L. Palais Lobkowitz*

Architekt Giovanni Pietro Tonello  
 Baujahr (od. incl. Entwurf) 1885-87  
 Adresse Lobkowitzplatz 2  
 Katastr. der Baugemeins. GB V 2 8831



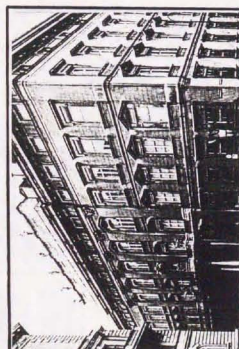
Studienräumliche Komposition  
 Univ. Tokyo : Univ. Prof. Dr. Y. Yamashita  
 TU Wien : Univ. Doz. Dr. Dr. Sc. Sc. Sc.  
 Marktkammer der Tokyo : 56088  
 der TU Wien : 9027333  
 Nobuo MISHIMA



## 1. Palais Lobkowitz



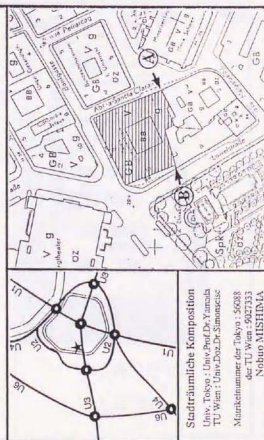
Studienräumliche Komposition  
 Univ. Tokyo : Univ. Prof. Dr. Y. Yamashita  
 TU Wien : Univ. Doz. Dr. Dr. Sc. Sc. Sc.  
 Marktkammer der Tokyo : 56088  
 der TU Wien : 9027333  
 Nobuo MISHIMA



Palais  
Liechtenstein

### 3. Palais Liechtenstein

Architekt Domenico Martinelli  
Bauphase (od. Insel, Entwurf) 1. Baugesch. 9  
Adresse GB V 8 BB  
Kontrolle der Baugründung



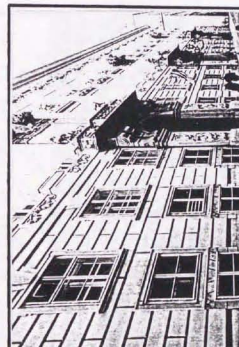
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo: Univ.-Prof. Dr. Yamada  
TU Wien: Univ.-Doz. Dr. Zimmermann  
Marktnummer der Tokyo: 56888  
der TU Wien: 9023733  
Nobuo MISHIMA

7-77-73 Palais Liechtenstein

### 3. Palais Liechtenstein



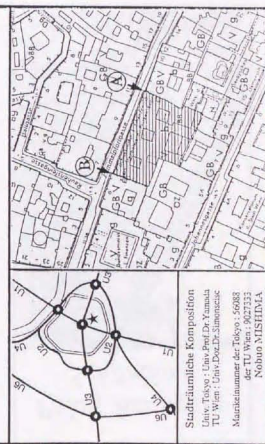
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo: Univ.-Prof. Dr. Yamada  
TU Wien: Univ.-Doz. Dr. Zimmermann  
Marktnummer der Tokyo: 56888  
der TU Wien: 9023733  
Nobuo MISHIMA



Stadtpalais des  
Prinzen Eugen

### 4. Stadtpalais des Prinzen Eugen

Architekt J. B. Fischer von Erlach  
Bauphase (od. Insel, Entwurf) 1694-1724  
Adresse I., Himmelpfortgasse 8  
Kontrolle der Baugründung GB V 8



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo: Univ.-Prof. Dr. Yamada  
TU Wien: Univ.-Doz. Dr. Zimmermann  
Marktnummer der Tokyo: 56888  
der TU Wien: 9023733  
Nobuo MISHIMA

7-77-74 Stadtpalais des Prinzen Eugen

### 4. Stadtpalais des Prinzen Eugen



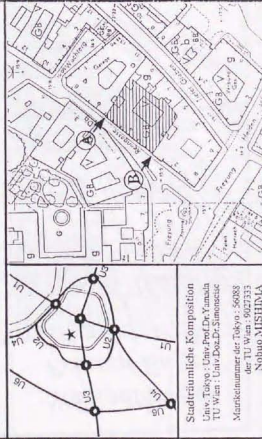
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo: Univ.-Prof. Dr. Yamada  
TU Wien: Univ.-Doz. Dr. Zimmermann  
Marktnummer der Tokyo: 56888  
der TU Wien: 9023733  
Nobuo MISHIMA



Palais Bathany  
Schönborn

#### 5. Palais Bathany Schönborn

Architekt: I. B. Fischer von Erlach  
Bauphase: 1698-1706  
Adresse: I., Ringgasse 4  
Kontrolle der Baueinheit: GB V 5 3B1

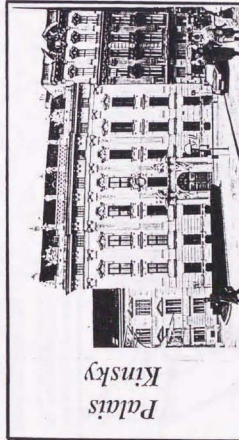


Stadtteilliche Komposition  
Univ.-Tokyo: Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien: Univ.Doz.Dr.Silwanine  
Marktkammer der Tokyo: 56038  
der TU Wien: 9027333  
Nobuo MISHIMA

#### 5. Palais Bathany Schönborn



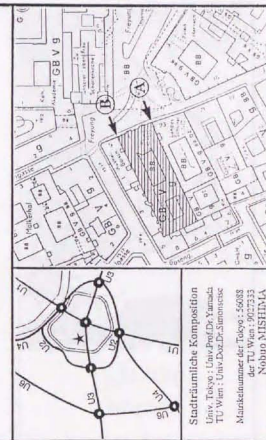
Stadtteilliche Komposition  
Univ.-Tokyo: Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien: Univ.Doz.Dr.Silwanine  
Marktkammer der Tokyo: 56038  
der TU Wien: 9027333  
Nobuo MISHIMA



Palais  
Kinsky

#### 6. Palais Kinsky

Architekt: Johann Lucas von Hildebrandt  
Bauphase: 1713-16  
Adresse: I., Freyung 4  
Kontrolle der Baueinheit: GB V 5 BB



Stadtteilliche Komposition  
Univ.-Tokyo: Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien: Univ.Doz.Dr.Silwanine  
Marktkammer der Tokyo: 56038  
der TU Wien: 9027333  
Nobuo MISHIMA

#### 6. Palais Kinsky



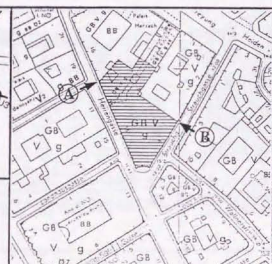
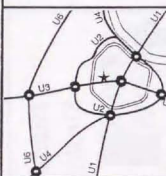
Stadtteilliche Komposition  
Univ.-Tokyo: Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien: Univ.Doz.Dr.Silwanine  
Marktkammer der Tokyo: 56038  
der TU Wien: 9027333  
Nobuo MISHIMA

palais  
Ferstel

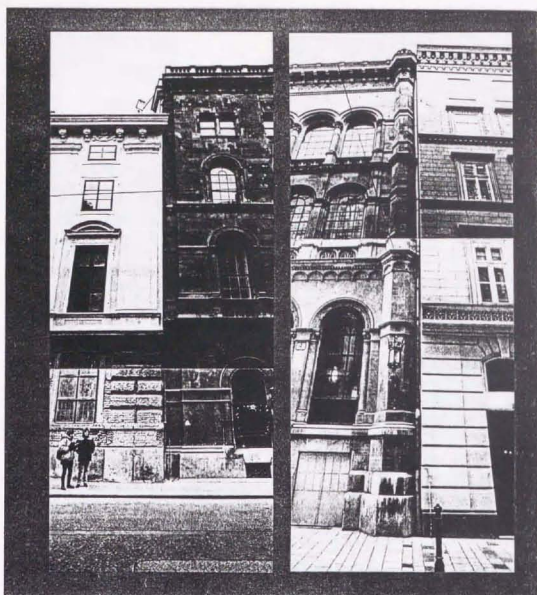


7. palais Ferstel

Architekt Heinrich v. Ferstel  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1856-60  
Adresse 1., Herreng. 14  
Kontrolle der Bauordnung GB V g Dg



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonische  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 902733  
Nobuo MISHIMA



7. Palais Ferstel



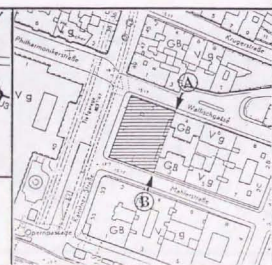
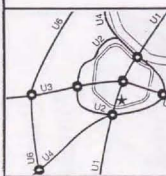
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonische  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 902733  
Nobuo MISHIMA

Palais  
Todesco

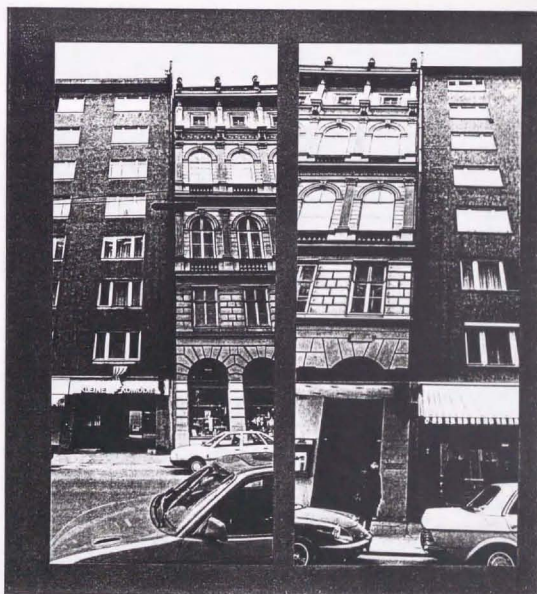


8. Palais Todesco

Architekt L. Förster, T. v. Hansen  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1861-69  
Adresse 1., Kärntnerstraße 51  
Kontrolle der Bauordnung GB V g



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonische  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 902733  
Nobuo MISHIMA



8. Palais Todesco



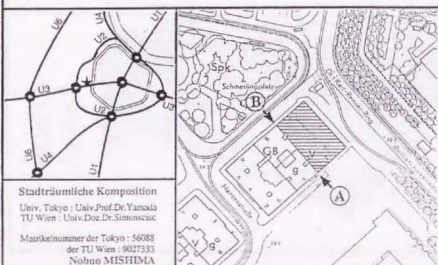
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonische  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 902733  
Nobuo MISHIMA

# Palais Epstein

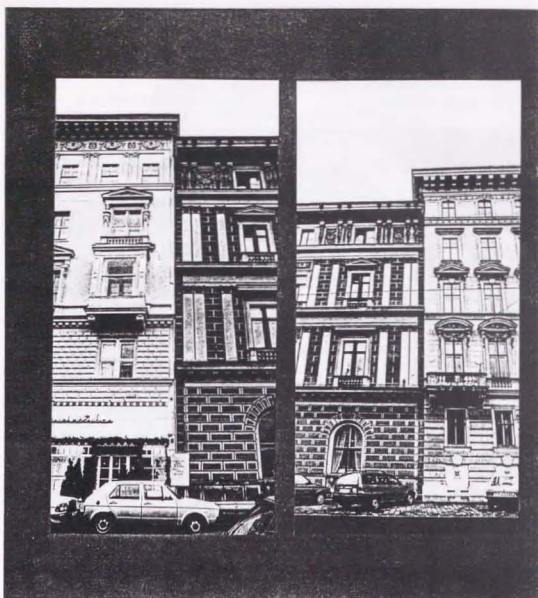


## 9. Palais Epstein

Architekt Theophil v. Hansen  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1868-72  
Adresse 1., Dr.-Karl-Renner-Ring 1  
Kontrolle der Bauordnung GB V g



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Marktnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



## 9. Palais Epstein



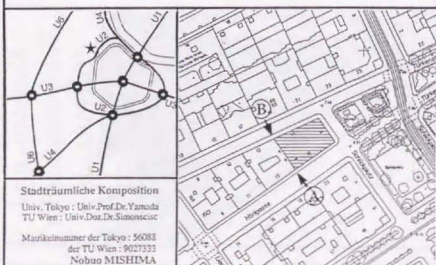
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Marktnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA

# Rudolfshof



## 10. Rudolfshof

Architekt Theophil v. Hansen  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1871-76  
Adresse 9., Hörtgasse 15  
Kontrolle der Bauordnung W IV g



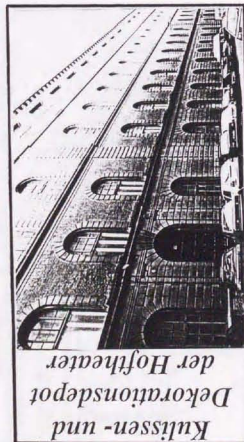
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Marktnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



## 10. Rudolfshof



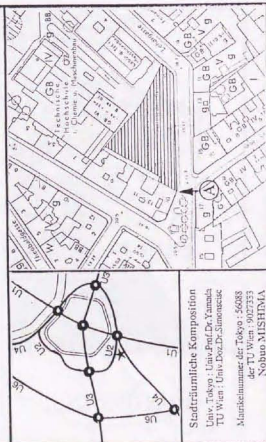
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Marktnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



Kulissen- und  
Dekorationsdepot  
der Hoftheater

11. Kulissen- und Dekorationsdepot der Hoftheater

Architekt  
Gottfried Semper  
Bauplan (od. incl. Entwurf)  
1872-77  
Adresse  
6, Lehargasse 2-8  
Kontrolle der Baurechnung  
GB IV 5 AB

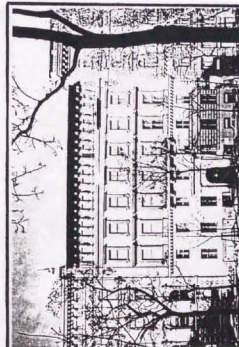


Stadtteilnützliche Komposition  
Univ. Tokyo - Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Univ. Doc. Dr. Simonovic  
Marktnummer der Tokyo - 56088  
der TU Wien - 9027333  
Nobuo MISHIMA

11. Kulissen- und  
Dekorationsdepot  
der Hoftheater



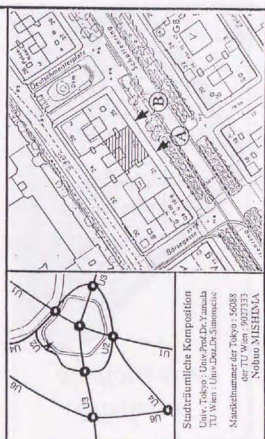
Stadtteilnützliche Komposition  
Univ. Tokyo - Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Univ. Doc. Dr. Simonovic  
Marktnummer der Tokyo - 56088  
der TU Wien - 9027333  
Nobuo MISHIMA



Miethaus  
Schottenring

12. Miethaus Schottenring

Architekt  
Otto Wagner  
Bauplan (od. incl. Entwurf)  
1878  
Kontrolle der Baurechnung  
GB V 5 E

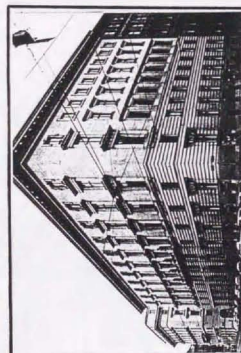


Stadtteilnützliche Komposition  
Univ. Tokyo - Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Univ. Doc. Dr. Simonovic  
Marktnummer der Tokyo - 56088  
der TU Wien - 9027333  
Nobuo MISHIMA

12. Miethaus Schottenring



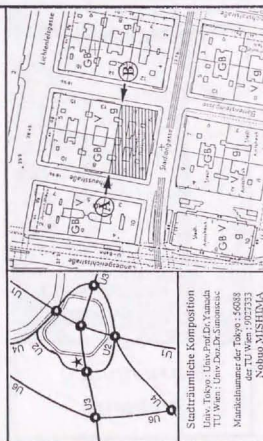
Stadtteilnützliche Komposition  
Univ. Tokyo - Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Univ. Doc. Dr. Simonovic  
Marktnummer der Tokyo - 56088  
der TU Wien - 9027333  
Nobuo MISHIMA



Miethaus  
Stadiongasse

13a. Miethaus Stadiongasse

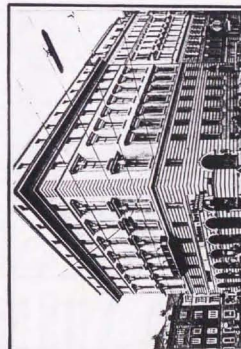
Architekt  
Oto Wagner  
1880-81  
Bauplan (od. incl. Entwurf)  
1. Stadiongasse 6-8  
Adresse  
GB V 8  
Kontrolle der Baueintragung



Stadtträumliche Komposition  
Utsu, Tokyo - Utsu Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Utsu Doct. Dr. Sinomochi  
Mandatsnummer der Tokyo - 56088  
der TU Wien - 9027333  
Nobuo MISHIMA

13a. Miethaus Stadiongasse

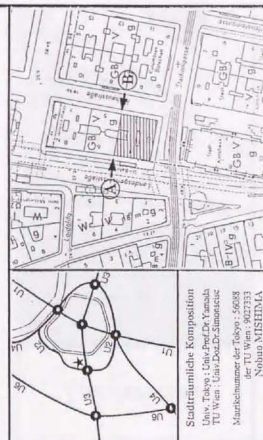
Stadtträumliche Komposition  
Utsu, Tokyo - Utsu Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Utsu Doct. Dr. Sinomochi  
Mandatsnummer der Tokyo - 56088  
der TU Wien - 9027333  
Nobuo MISHIMA



Miethaus  
Stadiongasse

13b. Miethaus Stadiongasse

Architekt  
Oto Wagner  
1880-81  
Bauplan (od. incl. Entwurf)  
1. Stadiongasse 10  
Adresse  
GB V 8  
Kontrolle der Baueintragung



Stadtträumliche Komposition  
Utsu, Tokyo - Utsu Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Utsu Doct. Dr. Sinomochi  
Mandatsnummer der Tokyo - 56088  
der TU Wien - 9027333  
Nobuo MISHIMA

13b. Miethaus Stadiongasse

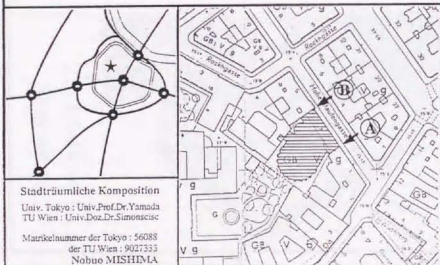
Stadtträumliche Komposition  
Utsu, Tokyo - Utsu Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Utsu Doct. Dr. Sinomochi  
Mandatsnummer der Tokyo - 56088  
der TU Wien - 9027333  
Nobuo MISHIMA

# Länderbank

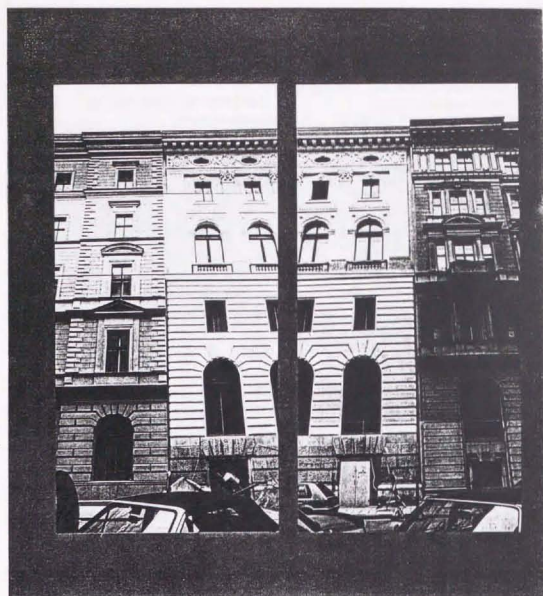


## 14. Länderbank

Architekt Otto Wagner  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1882-84  
Adresse 1., Hohenstaufengasse 3  
Kontrolle der Bauordnung GB V g



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



## 14. Länderbank



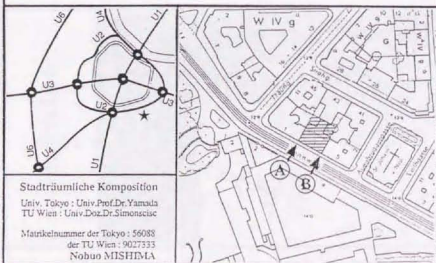
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA

# Miethäuser Rennweg

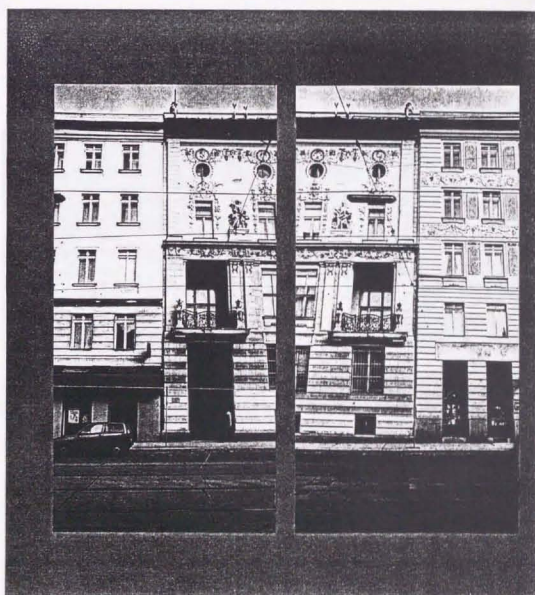


## 15. Miethäuser Rennweg

Architekt Otto Wagner  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1890-91  
Adresse 3., Rennweg 3  
Kontrolle der Bauordnung W IV g



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



## 15. Miethäuser Rennweg



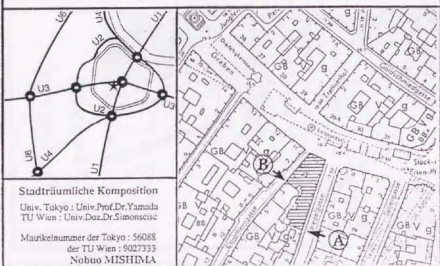
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA

# Ankerhaus



16. Ankerhaus

Architekt Otto Wagner  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1893-95  
Adresse L., Graben 10  
Kontrolle der Bauordnung GB V §



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



16. Ankerhaus



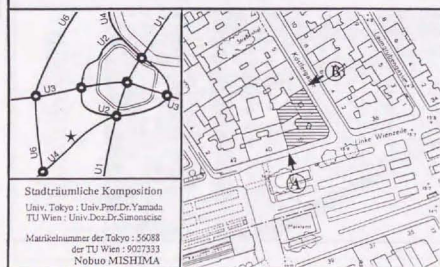
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA

# Wienzeilehäuser

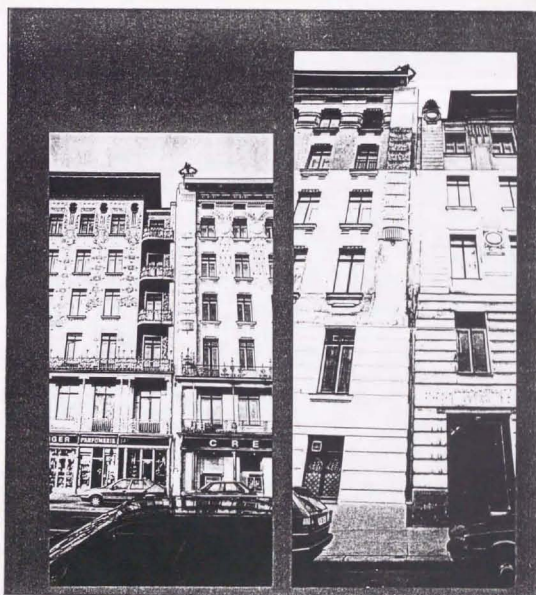


17a. Wienzeilehäuser

Architekt Otto Wagner  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1898-99  
Adresse 6., Linke Wienzeile 38  
Kontrolle der Bauordnung GB V § (W III § 75%)



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



17a. Wienzeilehäuser



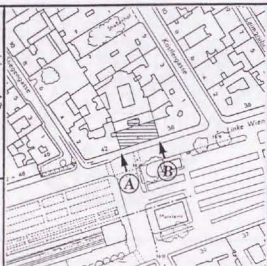
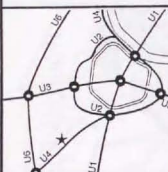
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA

# Wienzeilehäuser



## 17b. Wienzeilehäuser

Architekt Otto Wagner  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1898-99  
Adresse 6., Linke Wienzeile 40  
Kontrolle der Bauordnung GB V g (W III g 75%)



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027133  
Nobuo MISHIMA



## 17b. Wienzeilehäuser



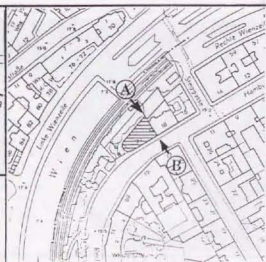
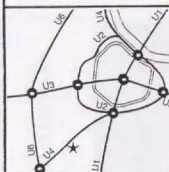
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027133  
Nobuo MISHIMA

# Miethaus Steggasse

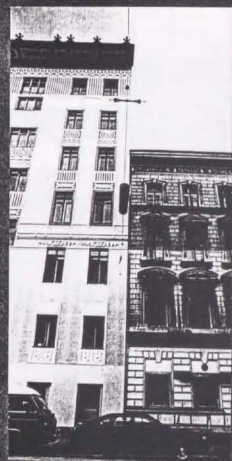


## 18. Miethaus Steggasse

Architekt Josef Plecnik  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1901-03  
Adresse 5., Hamburgerstr. 20  
Kontrolle der Bauordnung GB IV g



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027133  
Nobuo MISHIMA



## 18. Miethaus Steggasse



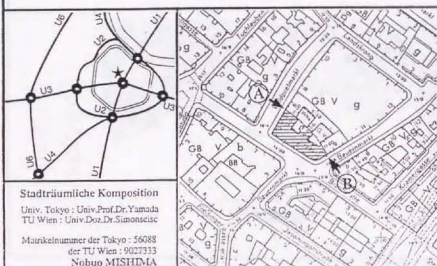
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027133  
Nobuo MISHIMA

# Zacherhaus



## 19. Zacherhaus

Architekt Josef Plecnik  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1903-05  
Adresse 1., Brandstätte 6  
Kontrolle der Bauordnung GB V g



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



## 19. Zacherhaus



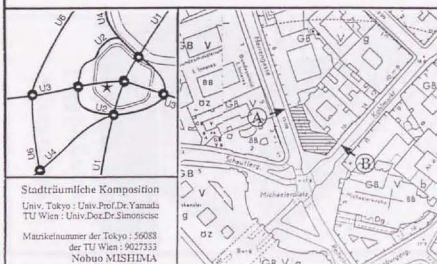
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA

# Looshaus



## 20. Looshaus

Architekt Adolf Loos  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1909-11  
Adresse 1., Michaelerplatz 3  
Kontrolle der Bauordnung GB V g



Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



## 20. Looshaus



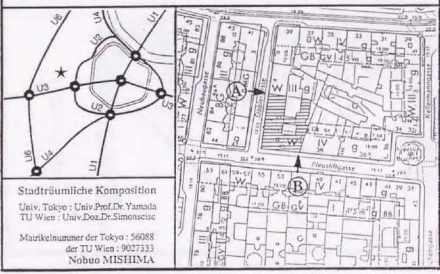
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovic  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA

Miethäuser  
Döblergasse



21. Miethäuser Döblergasse

Architekt Otto Wagner  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1909-12  
Adresse 7, Neustiftg. 40, Döblerg. 4  
Kontrolle der Bauordnung W III u. IV g



21. Miethäuser Döblergasse



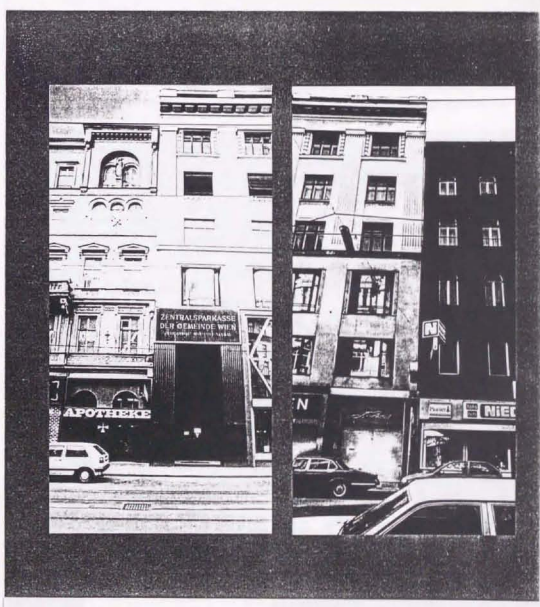
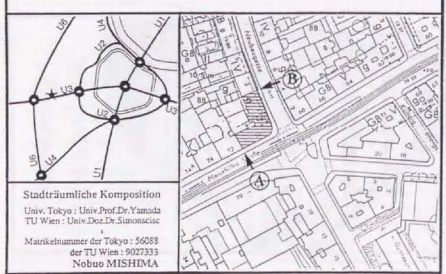
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovics  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA

ZSK  
Mariahilf-  
Neubau



22. ZSK Mariahilf-Neubau

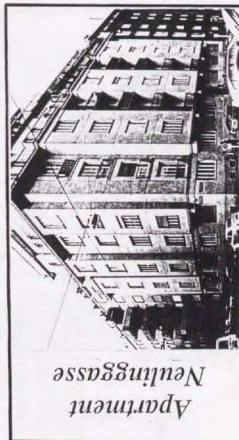
Architekt Adolf Loos  
Baujahr(od. incl. Entwurf) 1914  
Adresse 7, Mariahilfer Straße 70  
Kontrolle der Bauordnung GB V u. IV g



22. ZSK Mariahilf-Neubau



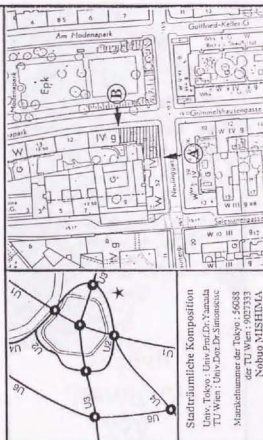
Stadträumliche Komposition  
Univ. Tokyo : Univ.Prof.Dr.Yamada  
TU Wien : Univ.Doz.Dr.Simonovics  
Matrikelnummer der Tokyo : 56088  
der TU Wien : 9027333  
Nobuo MISHIMA



Apartment  
Neulingasse

23. Apartment Neulingasse

Architekt Siegfried C. Dorch  
Bauplatz (od. incl. Entwurf) 1951  
Adresse 3., Neulingasse 50  
Kontrolle der Bauordnung W IV §

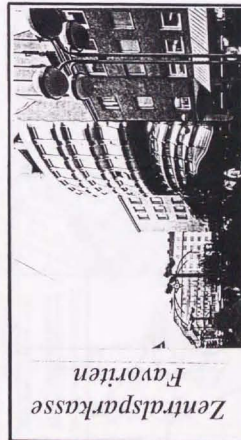


Stadtträumliche Komposition  
Ueno, Tokyo; Ueno-Pod Dr. Yamada  
TU Wien; Ueno-Dach-Zimmersee  
Markt-Kammer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9023133  
Nobuo MISHIMA

23. Apartment Neulingasse



Stadtträumliche Komposition  
Ueno, Tokyo; Ueno-Pod Dr. Yamada  
TU Wien; Ueno-Dach-Zimmersee  
Markt-Kammer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9023133  
Nobuo MISHIMA



Zentralsparkasse  
Favoriten

24. Zentralsparkasse Favoriten

Architekt Günther Domenig  
Bauplatz (od. incl. Entwurf) 1975-79  
Adresse 10., Favoritenstrasse 118  
Kontrolle der Bauordnung W IV § (GB GV I 5m §)

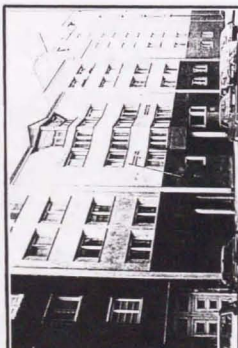


Stadtträumliche Komposition  
Ueno, Tokyo; Ueno-Pod Dr. Yamada  
TU Wien; Ueno-Dach-Zimmersee  
Markt-Kammer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9023133  
Nobuo MISHIMA

24. Zentralsparkasse Favoriten



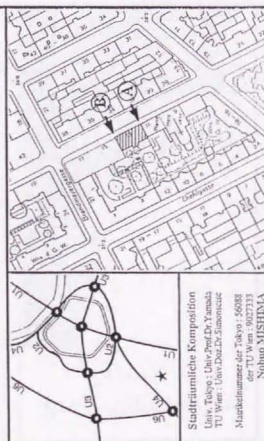
Stadtträumliche Komposition  
Ueno, Tokyo; Ueno-Pod Dr. Yamada  
TU Wien; Ueno-Dach-Zimmersee  
Markt-Kammer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9023133  
Nobuo MISHIMA



Wohnhaus  
Einsiedlergasse

25a. Wohnhaus Einsiedlergasse

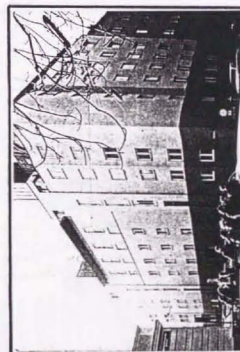
Architekt  
Heinz Tesar  
1976-83  
Bauplatz (od. incl. Entwurf)  
Adresse  
Einsiedlergasse 13  
W IV g  
Kontrolle der Baueingriff



Stadtplanmäßige Komposition  
des Bauwerks  
TU Wien - Urban Design Seminare  
Marktkommune der TU Wien - 5027333  
Nobuo MISHIMA

25a. Wohnhaus Einsiedlergasse

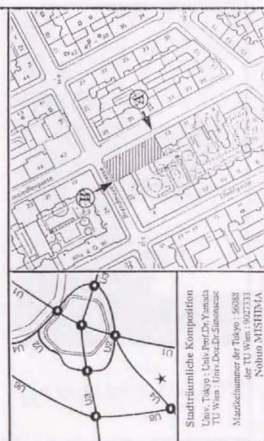
Stadtplanmäßige Komposition  
des Bauwerks  
TU Wien - Urban Design Seminare  
Marktkommune der TU Wien - 5027333  
Nobuo MISHIMA



Wohnhaus  
Einsiedlergasse

25b. Wohnhaus Einsiedlergasse

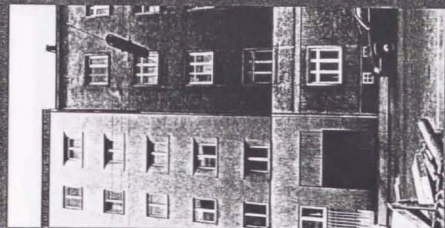
Architekt  
Theophil v. Hansen  
1976-83  
Bauplatz (od. incl. Entwurf)  
Adresse  
Einsiedlergasse 15-17  
W IV g  
Kontrolle der Baueingriff

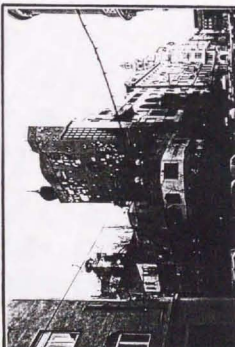


Stadtplanmäßige Komposition  
des Bauwerks  
TU Wien - Urban Design Seminare  
Marktkommune der TU Wien - 5027333  
Nobuo MISHIMA

25b. Wohnhaus Einsiedlergasse

Stadtplanmäßige Komposition  
des Bauwerks  
TU Wien - Urban Design Seminare  
Marktkommune der TU Wien - 5027333  
Nobuo MISHIMA



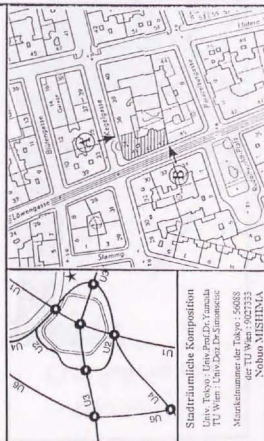


Hundertwasserhaus

# 26. Hundertwasserhaus

Architekt F. Hundertwasser

Baujahr (od. incl. Erweiterung) 1983  
3. Lage 41-43, Regelle 34  
Kontrolle der Baubehörde W IV g



Stadtträumliche Komposition  
Univ. Tokyo - Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Univ. Doc. Dr. Simonovic  
Marktnummer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9027133  
Nobuo MISHIMA

# 26. Hundertwasserhaus

Stadtträumliche Komposition  
Univ. Tokyo - Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Univ. Doc. Dr. Simonovic  
Marktnummer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9027133  
Nobuo MISHIMA

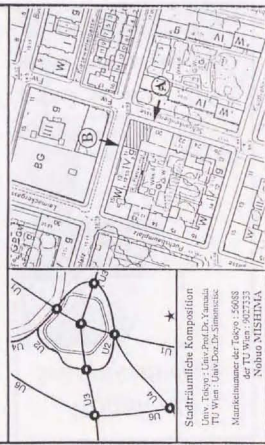


Wohnhaus  
Schrankenbergg.

# 27a. Wohnhaus Schrankenberggasse

Architekt Rob Kier

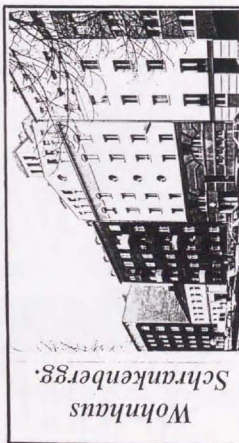
Baujahr (od. incl. Erweiterung) 1983  
10. Adresse W IV g  
Kontrolle der Baubehörde W IV g



Stadtträumliche Komposition  
Univ. Tokyo - Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Univ. Doc. Dr. Simonovic  
Marktnummer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9027133  
Nobuo MISHIMA

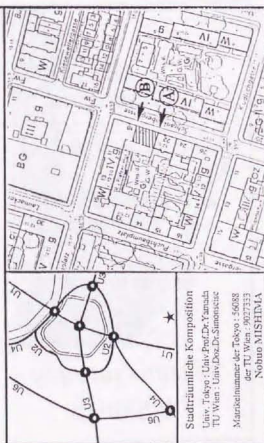
# 27a. Wohnhaus Schrankenberggasse

Stadtträumliche Komposition  
Univ. Tokyo - Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien - Univ. Doc. Dr. Simonovic  
Marktnummer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9027133  
Nobuo MISHIMA



27b. Wohnhaus Schrankenberggasse

Architekt Rob Krier  
1983-87  
Bauplatz (od. incl. Entwurf) 20  
Adresse Schrankenberggasse 20  
W IV 8  
Kontrolle der Bauordnung

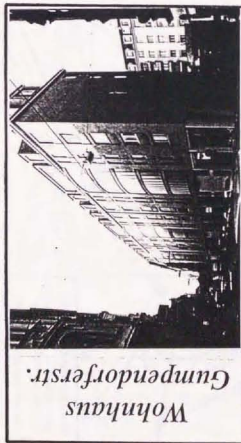


Strukturraumliche Komposition  
Umw. Tokyo: Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien: Univ. Prof. Dr. Simonschne  
Matrikelnummer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9027313  
Noboru MISHIMA

27b. Wohnhaus  
Schrankenberggasse

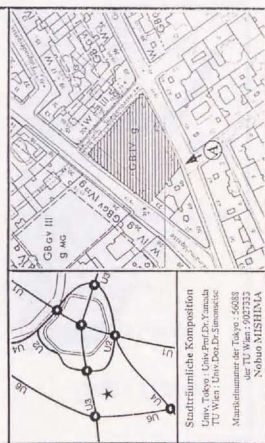


Strukturraumliche Komposition  
Umw. Tokyo: Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien: Univ. Prof. Dr. Simonschne  
Matrikelnummer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9027313  
Noboru MISHIMA



28. Wohnhaus Gumpendorferstraße

Architekt Tino Penttilä  
1984-88  
Bauplatz (od. incl. Entwurf) 44  
Adresse Gumpendorferstr. 44-44  
GB IV 8  
Kontrolle der Bauordnung



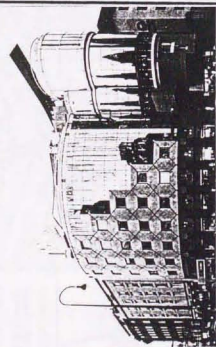
Strukturraumliche Komposition  
Umw. Tokyo: Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien: Univ. Prof. Dr. Simonschne  
Matrikelnummer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9027313  
Noboru MISHIMA

28. Wohnhaus  
Gumpendorferstraße



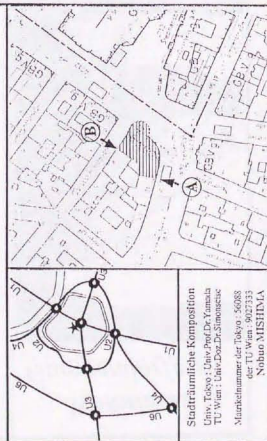
Strukturraumliche Komposition  
Umw. Tokyo: Univ. Prof. Dr. Yamada  
TU Wien: Univ. Prof. Dr. Simonschne  
Matrikelnummer der Tokyo: 56088  
der TU Wien: 9027313  
Noboru MISHIMA

# Haas Haus



## 29. Haas Haus

Architekt: Hans Hollein  
 Baugesch. (04. Incl. Entwurf): 1985-89  
 Adresse: 1., Stock-im-Eilen-Platz 4  
 Kontrolle der Bauordnung: GB V g BB6



Stadtplanische Komposition  
 Udo W. Tokyo: Univ.-Prof. Dr. Yamada  
 TU Wien: Univ.-Doz. Dr. Simonische  
 Markteinnehmer der Tokyo: 50288  
 der TU Wien: 5027331  
 Nobuo MISHIMA

## 29. Haas Haus

Stadtplanische Komposition  
 Udo W. Tokyo: Univ.-Prof. Dr. Yamada  
 TU Wien: Univ.-Doz. Dr. Simonische  
 Markteinnehmer der Tokyo: 50288  
 der TU Wien: 5027331  
 Nobuo MISHIMA

## 補章

- 補章A ウィーン市都市計画・建築業務関連部署
- 補章B Fプラン・Bプランの緑図面と赤図面
- 補章C 建築許可申請書
- 補章D 建築許可図面例
- 補章E ウィーン建築史年表
- 補章F オーストリアにおける都市計画用語

## 補章 A

### ウィーン市

#### 都市計画・建築業務関連部署

ウィーン市の各種行政業務は主に Magistrat（若しくは Magistratsabteilung、幾つかの部局をまとめて Geschäftsgruppe ということもある）と呼ばれる部局によって役割分担されている。それらの頂点に市長（Bürgermeister）が存在し、また、それぞれの区には Bezirksvorsteher と呼ばれる区長が存在する。Magistrat には業務別に番号がついていて、1 から 70 までである。Magistrat には先ず Senatsrat と呼ばれる局長がいて、さらに Gruppe あるいは Dezernat あるいは Angelegenheit と呼ばれる部に分かれている。部には各々 Gruppenleiter と呼ばれる部長と Referent と呼ばれる専門官及び Kanzlei と呼ばれる事務員がいるのが通常であるが、仕事の分量が多い場合には Außenstelle という外部機関が設けられたり、Leiter（係長）が設けられることもある。ここでは特に建築許可のプロセスにおいてある役割を果たす都市計画及び建築業務関連部署について、その業務内容及び連絡先と現 Senarat を紹介しておく。

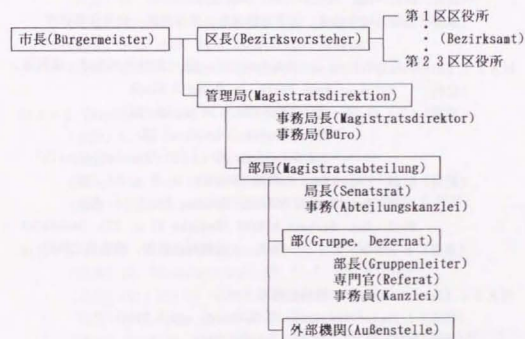


図 A-1 ウィーン市当局の組織図

MA 7 【Kulturamt】 <文化局>

(住所) 8. Friedrich Schmidt-Platz 5. 2., 3. und 4. Stock  
(電話) (01) 40 00 -84715 <Sekretariat>  
(局長) Dr. Bernhard DENSCHER, Obermagistratsrat  
(業務) 音楽、劇場、文化財保護

MA 15 【Gesundheitsamt】 <衛生局>

(住所) 1. Gonzagagasse 23. 2. Stock. Tür 212  
(電話) (01) 531 14 -87515 <Sekretariat>  
(局長) Dr. Karl GRAF, Obersenatsrat  
(業務) 保健衛生、医療、社会保険、児童健康管理

MA 18 【Stadtentwicklung und Stadtplanung】 <都市発展・都市計画>

(住所) 1. Rathausstraße 14-16. 3. Stock  
(電話) (01) 40 00 -88815 <Sekretariat>  
(局長) Dipl.-Ing. Dr. Peter JAWECKI, Senatsrat  
(業務) インフラストラクチュア、住民参加問題、都市研究、  
都市発展計画、緑地・空地計画、交通計画

MA 19 【Architektur und Stadtgestaltung】 <建築・都市景観>

(住所) 12. Niederhofstraße 23. 5. Stock. Tür 504-542  
(電話) (01) 811 14 -90926 <Portier>  
(局長) Dipl.-Ing. Dieter PAL, Senatsrat  
(業務) 建築許可手続き、都市景観保全、保存地区、公共空間計画

MA 21 【Stadtteilplanung und Flächennutzung】 <部分計画及び土地利用>

(住所) 1. Rathausstraße 14-16. 1., 2. und 3. Stock  
(電話) (01) 40 00 -88519 (Bezirke 1..9 u. 14..20)  
-88119 (Bezirke 10..13 u. 23)  
-88419 (Bezirke 21 u. 22) <Kanzleileiterin>  
(局長) Dipl.-Ing. Klaus VATTER (Bezirke 1..9 u. 14..20).  
Dipl.-Ing. Walter VOKAUN (Bezirke 10..13 u. 23).  
Dipl.-Ing. Herbert BINDER (Bezirke 21 u. 22), Senatsrat  
(業務) Fプラン・Bプラン作成、土地利用の管理、建築禁止指定

MA 22 【Umweltschutz】 <環境保護局>

(住所) 1. Ebendorferstraße 4. 2., 3., 4. und 5. Stock  
(電話) (01) 40 00 -88215 <Sekretariat>  
(局長) Dipl.-Ing. Helmut LÖFFLER, Senatsrat  
(業務) 自然環境保護、風景保全、廃棄物、土壌保全、大気保全

MA 30 【Kanalisation】 <下水道局>

(住所) 3. Wodecenterstraße 14  
(電話) (01) 795 14 -93015 <Sekretariat>  
(局長) Dipl.-Ing. Gerhard ADAM, Senatsrat  
(業務) 環境及び水資源基金、下水道管理、その他地下ケーブル (TV)

MA 35 【Allgemeine baubehördliche Angelegenheiten】 <一般建築行政局>

(住所) 20. Dresdner Straße 75. 4. Stock. Tür 444  
(電話) (01) 735 又は 331 40 -410 <Kanzleileiterin>  
(局長) Dipl.-Ing. Ernst WOLF, Senatsrat  
(業務) 建築材料承認、交通用地使用許可、沿道広告物許可  
公共建築物、地下鉄、劇場及び映画館等の安全性

MA 36 【Technische Gewerbeangelegenheiten, behördliche Elektro- und Gasangelegenheiten und Feuerpolizei】

<工業技術エネルギー経済局、消防警察>

(住所) 20. Dresdner Straße 75. 3. Stock. Tür 302  
(電話) (01) 735 又は 331 40 -310 <Kanzleileiterin>  
(局長) Dipl.-Ing. Dr. Techn. Hermann KOTZIAN, Senatsrat  
(業務) 工業技術一般、化学工業、機械工業、エネルギー関連、消防警察

MA 37 【Baupolizei】 <建築警察>

(住所) 20. Dresdner Straße 75. 2. Stock. Tür 201-219, 224-234  
(電話) (01) 735 又は 331 40 -230 <Kanzleileiterin>  
(局長) Dipl.-Ing. Kurt BRAZDOVICS, Senatsrat  
(業務) 建築許可業務 (区毎にAußenstelleに分かれる)

MA 42 【Stadtgartenamt】 <都市公園局>

(住所) 3. Am Heumarkt 2b  
(電話) (01) 711 16 -97219 <Kanzleileiterin>  
(局長) Ing. Paul SCHILLER, Stadtgartendirektor  
(業務) 公園計画、樹木保全、教育機関 (小・中学校、幼稚園)

MA 46 【Techn. Verkehrsangelegenheiten】 <交通技術局>

(住所) 12. Niederhofstraße 23. 1., 3. und 5. Stock  
(電話) (01) 811 14 -92619 <Kanzleileiterin>  
(局長) Dipl.-Ing. Hans SCHWIDL, Senatsrat  
(業務) 交通計画、道路交通行政、交通設備投資、特殊交通 (飛行機等)、  
車検、自動車保険など

MA 4 8 【Stadtreinigung und Fuhrpark】<都市清掃局>

(住所) 5. Einsiedlergasse 2  
(電話) (01) 588 17 -96112  
(局長) Dipl.-Ing. Wolfgang STEINBAUER, Senatsrat  
(業務) ゴミ処理、道路清掃

MA 6 8 【Feuerwehr und Katastrophenschutz】<消防・保安局>

(住所) 1. Am Hof 9  
(電話) (01) 768 又は 531 99 -390 <Sekretariat>  
(局長) Dipl.-Ing. Dr. Friedrich PERNER, Branddirektor  
(業務) 消防業務、防災業務、救助活動

補 章 B

F プ ラ ン ・ B プ ラ ン の

緑 図 面 と 赤 図 面

本論文第1章第2節1.1.3 2)で既に述べ、図1-1-6で示したように、Fプラン・Bプランが策定されるためには、先ず第一段階としてMA 2 1によって緑図面(Grundruck)が作成され、各部局間の調整が行われる。この調整を受けて作成されるのが赤図面(Rotdruck)である。緑図面も赤図面も文書と図面とで構成されるが、特に文書において記述される内容が異なる。即ち、緑図面では、計画概要として地区の状況(面積、人口等)と地区の歴史的発展経緯が示され、さらに計画の目的と内容が記される。赤図面では、各部局の調整段階でどのような意見が出されたかが示される。そして、公開時には両図面が掲示される。ここに掲載する緑図面と赤図面は残念ながら同じ地区のものではないが、参考にしてもらいた。

M A G I S T R A T D E R S T A D T W I E N  
Magistratsabteilung 21A  
1080 Wien, Rathausstr. 14-16  
Tel. 40 00 21 oder 40 00 00  
Wien, 08. November 1994  
MA 21A - Plan Nr. 6664  
TagMini 12-12-94  
Die Magistratsabteilung 21A hat unter der Plan Nr. 6664  
des Antragseinstufung  
Aufhebung und Neufestsetzung des Flächenwidmungs- und des Bebauungsplanes  
für den Gebiet zwischen Ledergasse, Lehnergasse, Josefthaler Straße,  
Josefthaler-Haus-Platz, Albertgasse, Floriengasse und Schönbachgasse  
in 08. Bezirk, 82. Grundstück  
sowie Festsetzung einer Schutzzone gemäß § 7 (1) und einer Wohnzone  
gemäß § 7a (1) der BO für Wien  
ausgearbeitet und ersucht um Stellungnahme bis 12-12-94.  
Sollte bis zu diesem Zeitpunkt keine Stellungnahme in der Magistrats-  
abteilung 21A eingelangt sein, der Festlegung Änderungen werden  
die in Entwurf dargestellten baurechtlichen Linien und Widmungen  
entsprechen den in der Zeichnungskarte rot dargestellten Signaturen.  
Der Sachbearbeiter:  
Dipl.-Ing. Klaus Vatter  
Kl.: 88543  
F. d. R. d. R. d. R.  
Beilagen: Entwurf des Antragsplanes  
Entwurf des Antragstextes  
Ergänz. an:  
41. 12. 94 (2-fach), 22. 25. 26. 27. 28 (2-fach), 30 (2-fach),  
31 (2-fach), 32. 33. 34 (2-fach), 40 (2-fach), 41 (2-fach), 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847. 848. 849. 850. 851. 852. 853. 854. 855. 856. 857. 858. 859. 860. 861. 862. 863. 864. 865. 866. 867. 868. 869. 870. 871. 872. 873. 874. 875. 876. 877. 878. 879. 880. 881. 882. 883. 884. 885. 886. 887. 888. 889. 890. 891. 892. 893. 894. 895. 896. 897. 898. 899. 900. 901. 902. 903. 904. 905. 906. 907. 908. 909. 910. 911. 912. 913. 914. 915. 916. 917. 918. 919. 920. 921. 922. 923. 924. 925. 926. 927. 928. 929. 930. 931. 932. 933. 934. 935. 936. 937. 938. 939. 940. 941. 942. 943. 944. 945. 946. 947. 948. 949. 950. 951. 952. 953. 954. 955. 956. 957. 958. 959. 960. 961. 962. 963. 964. 965. 966. 967. 968. 969. 970. 971. 972. 973. 974. 975. 976. 977. 978. 979. 980. 981. 982. 983. 984. 985. 986. 987. 988. 989. 990. 991. 992. 993. 994. 995. 996. 997. 998. 999. 1000.  
Magistratsabteilung 21A  
Magistratsabteilung 21B  
Magistratsabteilung 21C  
Magistratsabteilung 21D  
Magistratsabteilung 21E  
Magistratsabteilung 21F  
Magistratsabteilung 21G  
Magistratsabteilung 21H  
Magistratsabteilung 21I  
Magistratsabteilung 21J  
Magistratsabteilung 21K  
Magistratsabteilung 21L  
Magistratsabteilung 21M  
Magistratsabteilung 21N  
Magistratsabteilung 21O  
Magistratsabteilung 21P  
Magistratsabteilung 21Q  
Magistratsabteilung 21R  
Magistratsabteilung 21S  
Magistratsabteilung 21T  
Magistratsabteilung 21U  
Magistratsabteilung 21V  
Magistratsabteilung 21W  
Magistratsabteilung 21X  
Magistratsabteilung 21Y  
Magistratsabteilung 21Z  
Magistratsabteilung 21AA  
Magistratsabteilung 21AB  
Magistratsabteilung 21AC  
Magistratsabteilung 21AD  
Magistratsabteilung 21AE  
Magistratsabteilung 21AF  
Magistratsabteilung 21AG  
Magistratsabteilung 21AH  
Magistratsabteilung 21AI  
Magistratsabteilung 21AJ  
Magistratsabteilung 21AK  
Magistratsabteilung 21AL  
Magistratsabteilung 21AM  
Magistratsabteilung 21AN  
Magistratsabteilung 21AO  
Magistratsabteilung 21AP  
Magistratsabteilung 21AQ  
Magistratsabteilung 21AR  
Magistratsabteilung 21AS  
Magistratsabteilung 21AT  
Magistratsabteilung 21AU  
Magistratsabteilung 21AV  
Magistratsabteilung 21AW  
Magistratsabteilung 21AX  
Magistratsabteilung 21AY  
Magistratsabteilung 21AZ  
Magistratsabteilung 21BA  
Magistratsabteilung 21BB  
Magistratsabteilung 21BC  
Magistratsabteilung 21BD  
Magistratsabteilung 21BE  
Magistratsabteilung 21BF  
Magistratsabteilung 21BG  
Magistratsabteilung 21BH  
Magistratsabteilung 21BI  
Magistratsabteilung 21BJ  
Magistratsabteilung 21BK  
Magistratsabteilung 21BL  
Magistratsabteilung 21BM  
Magistratsabteilung 21BN  
Magistratsabteilung 21BO  
Magistratsabteilung 21BP  
Magistratsabteilung 21BQ  
Magistratsabteilung 21BR  
Magistratsabteilung 21BS  
Magistratsabteilung 21BT  
Magistratsabteilung 21BU  
Magistratsabteilung 21BV  
Magistratsabteilung 21BW  
Magistratsabteilung 21BX  
Magistratsabteilung 21BY  
Magistratsabteilung 21BZ  
Magistratsabteilung 21CA  
Magistratsabteilung 21CB  
Magistratsabteilung 21CC  
Magistratsabteilung 21CD  
Magistratsabteilung 21CE  
Magistratsabteilung 21CF  
Magistratsabteilung 21CG  
Magistratsabteilung 21CH  
Magistratsabteilung 21CI  
Magistratsabteilung 21CJ  
Magistratsabteilung 21CK  
Magistratsabteilung 21CL  
Magistratsabteilung 21CM  
Magistratsabteilung 21CN  
Magistratsabteilung 21CO  
Magistratsabteilung 21CP  
Magistratsabteilung 21CQ  
Magistratsabteilung 21CR  
Magistratsabteilung 21CS  
Magistratsabteilung 21CT  
Magistratsabteilung 21CU  
Magistratsabteilung 21CV  
Magistratsabteilung 21CW  
Magistratsabteilung 21CX  
Magistratsabteilung 21CY  
Magistratsabteilung 21CZ  
Magistratsabteilung 21DA  
Magistratsabteilung 21DB  
Magistratsabteilung 21DC  
Magistratsabteilung 21DD  
Magistratsabteilung 21DE  
Magistratsabteilung 21DF  
Magistratsabteilung 21DG  
Magistratsabteilung 21DH  
Magistratsabteilung 21DI  
Magistratsabteilung 21DJ  
Magistratsabteilung 21DK  
Magistratsabteilung 21DL  
Magistratsabteilung 21DM  
Magistratsabteilung 21DN  
Magistratsabteilung 21DO  
Magistratsabteilung 21DP  
Magistratsabteilung 21DQ  
Magistratsabteilung 21DR  
Magistratsabteilung 21DS  
Magistratsabteilung 21DT  
Magistratsabteilung 21DU  
Magistratsabteilung 21DV  
Magistratsabteilung 21DW  
Magistratsabteilung 21DX  
Magistratsabteilung 21DY  
Magistratsabteilung 21DZ  
Magistratsabteilung 21EA  
Magistratsabteilung 21EB  
Magistratsabteilung 21EC  
Magistratsabteilung 21ED  
Magistratsabteilung 21EE  
Magistratsabteilung 21EF  
Magistratsabteilung 21EG  
Magistratsabteilung 21EH  
Magistratsabteilung 21EI  
Magistratsabteilung 21EJ  
Magistratsabteilung 21EK  
Magistratsabteilung 21EL  
Magistratsabteilung 21EM  
Magistratsabteilung 21EN  
Magistratsabteilung 21EO  
Magistratsabteilung 21EP  
Magistratsabteilung 21EQ  
Magistratsabteilung 21ER  
Magistratsabteilung 21ES  
Magistratsabteilung 21ET  
Magistratsabteilung 21EU  
Magistratsabteilung 21EV  
Magistratsabteilung 21EW  
Magistratsabteilung 21EX  
Magistratsabteilung 21EY  
Magistratsabteilung 21EZ  
Magistratsabteilung 21FA  
Magistratsabteilung 21FB  
Magistratsabteilung 21FC  
Magistratsabteilung 21FD  
Magistratsabteilung 21FE  
Magistratsabteilung 21FF  
Magistratsabteilung 21FG  
Magistratsabteilung 21FH  
Magistratsabteilung 21FI  
Magistratsabteilung 21FJ  
Magistratsabteilung 21FK  
Magistratsabteilung 21FL  
Magistratsabteilung 21FM  
Magistratsabteilung 21FN  
Magistratsabteilung 21FO  
Magistratsabteilung 21FP  
Magistratsabteilung 21FQ  
Magistratsabteilung 21FR  
Magistratsabteilung 21FS  
Magistratsabteilung 21FT  
Magistratsabteilung 21FU  
Magistratsabteilung 21FV  
Magistratsabteilung 21FW  
Magistratsabteilung 21FX  
Magistratsabteilung 21FY  
Magistratsabteilung 21FZ  
Magistratsabteilung 21GA  
Magistratsabteilung 21GB  
Magistratsabteilung 21GC  
Magistratsabteilung 21GD  
Magistratsabteilung 21GE  
Magistratsabteilung 21GF  
Magistratsabteilung 21GG  
Magistratsabteilung 21GH  
Magistratsabteilung 21GI  
Magistratsabteilung 21GJ  
Magistratsabteilung 21GK  
Magistratsabteilung 21GL  
Magistratsabteilung 21GM  
Magistratsabteilung 21GN  
Magistratsabteilung 21GO  
Magistratsabteilung 21GP  
Magistratsabteilung 21GQ  
Magistratsabteilung 21GR  
Magistratsabteilung 21GS  
Magistratsabteilung 21GT  
Magistratsabteilung 21GU  
Magistratsabteilung 21GV  
Magistratsabteilung 21GW  
Magistratsabteilung 21GX  
Magistratsabteilung 21GY  
Magistratsabteilung 21GZ  
Magistratsabteilung 21HA  
Magistratsabteilung 21HB  
Magistratsabteilung 21HC  
Magistratsabteilung 21HD  
Magistratsabteilung 21HE  
Magistratsabteilung 21HF  
Magistratsabteilung 21HG  
Magistratsabteilung 21HH  
Magistratsabteilung 21HI  
Magistratsabteilung 21HJ  
Magistratsabteilung 21HK  
Magistratsabteilung 21HL  
Magistratsabteilung 21HM  
Magistratsabteilung 21HN  
Magistratsabteilung 21HO  
Magistratsabteilung 21HP  
Magistratsabteilung 21HQ  
Magistratsabteilung 21HR  
Magistratsabteilung 21HS  
Magistratsabteilung 21HT  
Magistratsabteilung 21HU  
Magistratsabteilung 21HV  
Magistratsabteilung 21HW  
Magistratsabteilung 21HX  
Magistratsabteilung 21HY  
Magistratsabteilung 21HZ  
Magistratsabteilung 21IA  
Magistratsabteilung 21IB  
Magistratsabteilung 21IC  
Magistratsabteilung 21ID  
Magistratsabteilung 21IE  
Magistratsabteilung 21IF  
Magistratsabteilung 21IG  
Magistratsabteilung 21IH  
Magistratsabteilung 21II  
Magistratsabteilung 21IJ  
Magistratsabteilung 21IK  
Magistratsabteilung 21IL  
Magistratsabteilung 21IM  
Magistratsabteilung 21IN  
Magistratsabteilung 21IO  
Magistratsabteilung 21IP  
Magistratsabteilung 21IQ  
Magistratsabteilung 21IR  
Magistratsabteilung 21IS  
Magistratsabteilung 21IT  
Magistratsabteilung 21IU  
Magistratsabteilung 21IV  
Magistratsabteilung 21IW  
Magistratsabteilung 21IX  
Magistratsabteilung 21IY  
Magistratsabteilung 21IZ  
Magistratsabteilung 21JA  
Magistratsabteilung 21JB  
Magistratsabteilung 21JC  
Magistratsabteilung 21JD  
Magistratsabteilung 21JE  
Magistratsabteilung 21JF  
Magistratsabteilung 21JG  
Magistratsabteilung 21JH  
Magistratsabteilung 21JI  
Magistratsabteilung 21JJ  
Magistratsabteilung 21JK  
Magistratsabteilung 21JL  
Magistratsabteilung 21JM  
Magistratsabteilung 21JN  
Magistratsabteilung 21JO  
Magistratsabteilung 21JP  
Magistratsabteilung 21JQ  
Magistratsabteilung 21JR  
Magistratsabteilung 21JS  
Magistratsabteilung 21JT  
Magistratsabteilung 21JU  
Magistratsabteilung 21JV  
Magistratsabteilung 21JW  
Magistratsabteilung 21JX  
Magistratsabteilung 21JY  
Magistratsabteilung 21JZ  
Magistratsabteilung 21KA  
Magistratsabteilung 21KB  
Magistratsabteilung 21KC  
Magistratsabteilung 21KD  
Magistratsabteilung 21KE  
Magistratsabteilung 21KF  
Magistratsabteilung 21KG  
Magistratsabteilung 21KH  
Magistratsabteilung 21KI  
Magistratsabteilung 21KJ  
Magistratsabteilung 21KK  
Magistratsabteilung 21KL  
Magistratsabteilung 21KM  
Magistratsabteilung 21KN  
Magistratsabteilung 21KO  
Magistratsabteilung 21KP  
Magistratsabteilung 21KQ  
Magistratsabteilung 21KR  
Magistratsabteilung 21KS  
Magistratsabteilung 21KT  
Magistratsabteilung 21KU  
Magistratsabteilung 21KV  
Magistratsabteilung 21KW  
Magistratsabteilung 21KX  
Magistratsabteilung 21KY  
Magistratsabteilung 21KZ  
Magistratsabteilung 21LA  
Magistratsabteilung 21LB  
Magistratsabteilung 21LC  
Magistratsabteilung 21LD  
Magistratsabteilung 21LE  
Magistratsabteilung 21LF  
Magistratsabteilung 21LG  
Magistratsabteilung 21LH  
Magistratsabteilung 21LI  
Magistratsabteilung 21LJ  
Magistratsabteilung 21LK  
Magistratsabteilung 21LL  
Magistratsabteilung 21LM  
Magistratsabteilung 21LN  
Magistratsabteilung 21LO  
Magistratsabteilung 21LP  
Magistratsabteilung 21LQ  
Magistratsabteilung 21LR  
Magistratsabteilung 21LS  
Magistratsabteilung 21LT  
Magistratsabteilung 21LU  
Magistratsabteilung 21LV  
Magistratsabteilung 21LW  
Magistratsabteilung 21LX  
Magistratsabteilung 21LY  
Magistratsabteilung 21LZ  
Magistratsabteilung 21MA  
Magistratsabteilung 21MB  
Magistratsabteilung 21MC  
Magistratsabteilung 21MD  
Magistratsabteilung 21ME  
Magistratsabteilung 21MF  
Magistratsabteilung 21MG  
Magistratsabteilung 21MH  
Magistratsabteilung 21MI  
Magistratsabteilung 21MJ  
Magistratsabteilung 21MK  
Magistratsabteilung 21ML  
Magistratsabteilung 21MM  
Magistratsabteilung 21MN  
Magistratsabteilung 21MO  
Magistratsabteilung 21MP  
Magistratsabteilung 21MQ  
Magistratsabteilung 21MR  
Magistratsabteilung 21MS  
Magistratsabteilung 21MT  
Magistratsabteilung 21MU  
Magistratsabteilung 21MV  
Magistratsabteilung 21MW  
Magistratsabteilung 21MX  
Magistratsabteilung 21MY  
Magistratsabteilung 21MZ  
Magistratsabteilung 21NA  
Magistratsabteilung 21NB  
Magistratsabteilung 21NC  
Magistratsabteilung 21ND  
Magistratsabteilung 21NE  
Magistratsabteilung 21NF  
Magistratsabteilung 21NG  
Magistratsabteilung 21NH  
Magistratsabteilung 21NI  
Magistratsabteilung 21NJ  
Magistratsabteilung 21NK  
Magistratsabteilung 21NL  
Magistratsabteilung 21NM  
Magistratsabteilung 21NN  
Magistratsabteilung 21NO  
Magistratsabteilung 21NP  
Magistratsabteilung 21NQ  
Magistratsabteilung 21NR  
Magistratsabteilung 21NS  
Magistratsabteilung 21NT  
Magistratsabteilung 21NU  
Magistratsabteilung 21NV  
Magistratsabteilung 21NW  
Magistratsabteilung 21NX  
Magistratsabteilung 21NY  
Magistratsabteilung 21NZ  
Magistratsabteilung 21OA  
Magistratsabteilung 21OB  
Magistratsabteilung 21OC  
Magistratsabteilung 21OD  
Magistratsabteilung 21OE  
Magistratsabteilung 21OF  
Magistratsabteilung 21OG  
Magistratsabteilung 21OH  
Magistratsabteilung 21OI  
Magistratsabteilung 21OJ  
Magistratsabteilung 21OK  
Magistratsabteilung 21OL  
Magistratsabteilung 21OM  
Magistratsabteilung 21ON  
Magistratsabteilung 21OO  
Magistratsabteilung 21OP  
Magistratsabteilung 21OQ  
Magistratsabteilung 21OR  
Magistratsabteilung 21OS  
Magistratsabteilung 21OT  
Magistratsabteilung 21OU  
Magistratsabteilung 21OV  
Magistratsabteilung 21OW  
Magistratsabteilung 21OX  
Magistratsabteilung 21OY  
Magistratsabteilung 21OZ  
Magistratsabteilung 21PA  
Magistratsabteilung 21PB  
Magistratsabteilung 21PC  
Magistratsabteilung 21PD  
Magistratsabteilung 21PE  
Magistratsabteilung 21PF  
Magistratsabteilung 21PG  
Magistratsabteilung 21PH  
Magistratsabteilung 21PI  
Magistratsabteilung 21PJ  
Magistratsabteilung 21PK  
Magistratsabteilung 21PL  
Magistratsabteilung 21PM  
Magistratsabteilung 21PN  
Magistratsabteilung 21PO  
Magistratsabteilung 21PP  
Magistratsabteilung 21PQ  
Magistratsabteilung 21PR  
Magistratsabteilung 21PS  
Magistratsabteilung 21PT  
Magistratsabteilung 21PU  
Magistratsabteilung 21PV  
Magistratsabteilung 21PW  
Magistratsabteilung 21PX  
Magistratsabteilung 21PY  
Magistratsabteilung 21PZ  
Magistratsabteilung 21QA  
Magistratsabteilung 21QB  
Magistratsabteilung 21QC  
Magistratsabteilung 21QD  
Magistratsabteilung 21QE  
Magistratsabteilung 21QF  
Magistratsabteilung 21QG  
Magistratsabteilung 21QH  
Magistratsabteilung 21QI  
Magistratsabteilung 21QJ  
Magistratsabteilung 21QK  
Magistratsabteilung 21QL  
Magistratsabteilung 21QM  
Magistratsabteilung 21QN  
Magistratsabteilung 21QO  
Magistratsabteilung 21QP  
Magistratsabteilung 21QQ  
Magistratsabteilung 21QR  
Magistratsabteilung 21QS  
Magistratsabteilung 21QT  
Magistratsabteilung 21QU  
Magistratsabteilung 21QV  
Magistratsabteilung 21QW  
Magistratsabteilung 21QX  
Magistratsabteilung 21QY  
Magistratsabteilung 21QZ  
Magistratsabteilung 21RA  
Magistratsabteilung 21RB  
Magistratsabteilung 21RC  
Magistratsabteilung 21RD  
Magistratsabteilung 21RE  
Magistratsabteilung 21RF  
Magistratsabteilung 21RG  
Magistratsabteilung 21RH  
Magistratsabteilung 21RI  
Magistratsabteilung 21RJ  
Magistratsabteilung 21RK  
Magistratsabteilung 21RL  
Magistratsabteilung 21RM  
Magistratsabteilung 21RN  
Magistratsabteilung 21RO  
Magistratsabteilung 21RP  
Magistratsabteilung 21RQ  
Magistratsabteilung 21RR  
Magistratsabteilung 21RS  
Magistratsabteilung 21RT  
Magistratsabteilung 21RU  
Magistratsabteilung 21RV  
Magistratsabteilung 21RW  
Magistratsabteilung 21RX  
Magistratsabteilung 21RY  
Magistratsabteilung 21RZ  
Magistratsabteilung 21SA  
Magistratsabteilung 21SB  
Magistratsabteilung 21SC  
Magistratsabteilung 21SD  
Magistratsabteilung 21SE  
Magistratsabteilung 21SF  
Magistratsabteilung 21SG  
Magistratsabteilung 21SH  
Magistratsabteilung 21SI  
Magistratsabteilung 21SJ  
Magistratsabteilung 21SK  
Magistratsabteilung 21SL  
Magistratsabteilung 21SM  
Magistratsabteilung 21SN  
Magistratsabteilung 21SO  
Magistratsabteilung 21SP  
Magistratsabteilung 21SQ  
Magistratsabteilung 21SR  
Magistratsabteilung 21SS  
Magistratsabteilung 21ST  
Magistratsabteilung 21SU  
Magistratsabteilung 21SV  
Magistratsabteilung 21SW  
Magistratsabteilung 21SX  
Magistratsabteilung 21SY  
Magistratsabteilung 21SZ  
Magistratsabteilung 21TA  
Magistratsabteilung 21TB  
Magistratsabteilung 21TC  
Magistratsabteilung 21TD  
Magistratsabteilung 21TE  
Magistratsabteilung 21TF  
Magistratsabteilung 21TG  
Magistratsabteilung 21TH  
Magistratsabteilung 21TI  
Magistratsabteilung 21TJ  
Magistratsabteilung 21TK  
Magistratsabteilung 21TL  
Magistratsabteilung 21TM  
Magistratsabteilung 21TN  
Magistratsabteilung 21TO  
Magistratsabteilung 21TP  
Magistratsabteilung 21TQ  
Magistratsabteilung 21TR  
Magistratsabteilung 21TS  
Magistratsabteilung 21TT  
Magistratsabteilung 21TU  
Magistratsabteilung 21TV  
Magistratsabteilung 21TW  
Magistratsabteilung 21TX  
Magistratsabteilung 21TY  
Magistratsabteilung 21TZ  
Magistratsabteilung 21UA  
Magistratsabteilung 21UB  
Magistratsabteilung 21UC  
Magistratsabteilung 21UD  
Magistratsabteilung 21UE  
Magistratsabteilung 21UF  
Magistratsabteilung 21UG  
Magistratsabteilung 21UH  
Magistratsabteilung 21UI  
Magistratsabteilung 21UJ  
Magistratsabteilung 21UK  
Magistratsabteilung 21UL  
Magistratsabteilung 21UM  
Magistratsabteilung 21UN  
Magistratsabteilung 21UO  
Magistratsabteilung 21UP  
Magistratsabteilung 21UQ  
Magistratsabteilung 21UR  
Magistratsabteilung 21US  
Magistratsabteilung 21UT  
Magistratsabteilung 21UU  
Magistratsabteilung 21UV  
Magistratsabteilung 21UW  
Magistratsabteilung 21UX  
Magistratsabteilung 21UY  
Magistratsabteilung 21UZ  
Magistratsabteilung 21VA

in Bereich um die Schindlgasse ein Linienwerk gebaut, das den Ausgangspunkt für die weitere Bebauung bildete.  
Bei der 2. Türkenbelagerung wurden alle Bauwerke zerstört, um den Türken keinen Schutz zu bieten. Der Wiederaufbau erfolgte ab ca. 1680. In wenigen Jahrzehnten wurden die Strukturen des heutigen Bezirks geschaffen. Der 8. Bezirk, der nie ein bäuerliches Dorf und von Anfang an von Handwerkern und Beamten dominiert war, wurde später als die anderen Bezirke zwischen Ring und Gürtel besiedelt.

Die Bauteilkerne in Bereichen zwischen Josefstadt Straße, Schönbörngasse, Florianigasse und Laubengasse, welche Anlaß zu zahlreichen Nachwachsen der Bevölkerung gewesen war (aufgrund wiederholter Brände, Kriege mit Soldaten, Geruchbelästigungen etc.) wurde erst 1860 gesamt. Das Areal des Melker Hofes wurde in vorigen Jahrhunderten von Stift Melk geschenkt. Er weist vier Höfe mit insgesamt 126 Wohnungen auf.  
Im Jahre 1912 wurden das Bezirksamtgebäude und die Häuser am Hasenringplatz erweitert (weiter auch die einrückenden Jugendstilgebäude Josefstadt Straße GNR. 50, 51 und 54). Das Kartographische Institut, das heute Sitz der Gruppe Landesaufnahme und des Kartographischen Instituts des Bundesamtes für Eich- und Vermessungswesen ist, wurde 1905 bezogen, wenig später (1908) das Haus der 1918 im Leben gefallenen Handelskassierin (Hasenringplatz GNR. 3-6).

Die Sockelwasserfabrik Ede Ledergasse/Laubengasse wurde im 2. Weltkrieg durch Bomben zerstört. An deren Stelle wurde 1948-1960 das jetzige Geschäft-, Büro- und Wohnhaus gebaut.

Die Hauptzahl der derzeit bestehenden Bauten stammt aus der Nachkriegszeit. Lediglich im Ostteil des Gebietes befinden sich noch Bauten aus der Zeit vor 1860 (Führmannsgasse, Ledergasse).

Die Wohnhaftigkeit in diesem Teil Wiens hält sich in Grenzen. Das Hauptgebiet liegt derzeit auf der Stadterneuerung bzw. Dachgeschossausbauten.

die Bauklasse IV, im Ostteil die Bauklasse III.

Durch die Festlegung von inneren Baufluchtlinien ergeben sich unterschiedliche Traktflächen von 12-15 a. In Teilbereichen, hauptsächlich entlang von Geschäftstrassen, ist in den Hofbereichen die Widmung Wohngebiet oder Gewerbegebiet-Bürogebiet (viertel in der Bauklasse = I, Höhenbeschränkung auf 4,5 bzw. 7,5m, festgesetzt. Teilweise besteht dort die Zusatzfestlegung, daß mindestens 75 % der Flächen für den dort zu errichtenden Gebäude geeignet werden müssen.

Für alle verbleibenden Innenflächen ist die gärtnerische Ausgestaltung vorgeschrieben.

Der Park am Hasenringplatz ist als Erholungsgebiet Parkanlage, Grundfläche für öffentliche Zwecke, ausgewiesen, wobei die Errichtung einer unterirdischen Anlage von Einfallstrassen von Privatfahrzeugen zulässig ist. Für öffentliche Zwecke sind weiterhin die Flächen des Bundesamtes für Eich- und Vermessungswesen und des Bezirksamtes bzw. der Bezirksvertretung vorbehalten.

Als Schutzzone sind mit den in der angrenzenden Straßengasse reichenden Handbereichen, die zwei weithin davon gelegenen Baukörper sowie der Melker Hof ausgewiesen.  
Weiter ist für das gesamte Gebiet laut Artikel IV der MO für Wien eine Wohnzone festgesetzt.

#### Verkehrsplanung

Die Ergebnisse einer städtebaulichen Untersuchung haben gezeigt, daß die Realisierung der derzeitigen Bebauungsbestimmungen in mehreren Bereichen zu Lasten schutzrelevanter Einzelgebäude (und auch Ensembles) gehen würde. Überwiegend wären zusätzliche Belastungen von bereits jetzt schon sehr intensiv genutzten Flächen wie z.B. Verkehrsfunkeln sowie der Grün- und Erholungsflächen die Folge.  
Unter Berücksichtigung des Bestandes und der derzeitigen Bebauung (geschlossene Hauptlagen) werden für das Plangebiet die Festsetzungen derzeit vorgeschlagen, daß vor allem nachstehend angeführte

Die Mehrzahl der Gebäude weist 5 Geschosse auf, nur wenige mehr; die Bauten, die vor 1860 errichtet wurden, haben größtenteils 2 bis 4 Geschosse.

In Plangebiet überwiegt die Wohnnutzung. Die Nutzung der Erholungsflächen und von Teil auch der darüber liegenden Höfe besonders in der Josefstadt Straße und teilweise auch in der Florianigasse und der Laubengasse ist überwiegend des Handels- und Dienstleistungssektors zuzurechnen.

An öffentlichen Einrichtungen befinden sich das Bezirksamt für den 1. und 8. Bezirk, die Bezirksvertretung für den 8. Bezirk, die Krankenförderungsanstalt der Bundesarmen der Stadt Wien (Schlesingerplatz GNR. 3-4), das Bundesamt für Eich- und Vermessungswesen, Gruppe Landesaufnahme (Kretschmergasse GNR. 7), das Bezirkspolizeikommissariat (Führmannsgasse GNR. 5) sowie die Handelskassierin II und III und die Handelskassierin II und IV der Wiener Kaufmannschaft (Hasenringplatz GNR. 3-6 sowie Schönbörngasse GNR. 3-5) innerhalb des Plangebietes.

Die Versorgung mit öffentlichen Verkehrsmitteln ist sehr gut. Trotzdem tritt der Individualverkehr in Form des Durchverkehrs (Florianigasse, Josefstadt Straße) störend in Erscheinung, und die Stoppkettensituation ist trotz der Triagegarage am Hasenringplatz sehr unbefriedigend.

Innerhalb des Plangebietes gibt es am Hasenringplatz eine große, strenglich zugesperrte Grünfläche. In der Nachbarkommune befinden sich wenig bzw. nur kleine private Grünflächen.

#### Sachlage

Die derzeit gültige Sachlage basiert auf dem Plandokument 5573 aus dem Jahre 1979.

Für das gesamte Bauland ist die Widmung Wohngebiet festgesetzt. Die einzige Ausnahme bildet der Bereich des Melker Hofes und die östlich daran angrenzenden Grundstücke, wo die Widmung Gewerbegebiet festgelegt wurde. Es gilt in größeren, westlichen Teil

Ziele erreicht werden können:

- Sicherung des charakteristischen Erscheinungsbildes dieses Stadtteiles und Festlegung von Schutzzonen
- Festlegung einer Wohnzone
- wohnungsmäßige Sicherung und Vorzüge für Gewerbe- und Handelsbetriebe
- wohnungsmäßige Sicherung öffentlicher und privater Grünflächen.

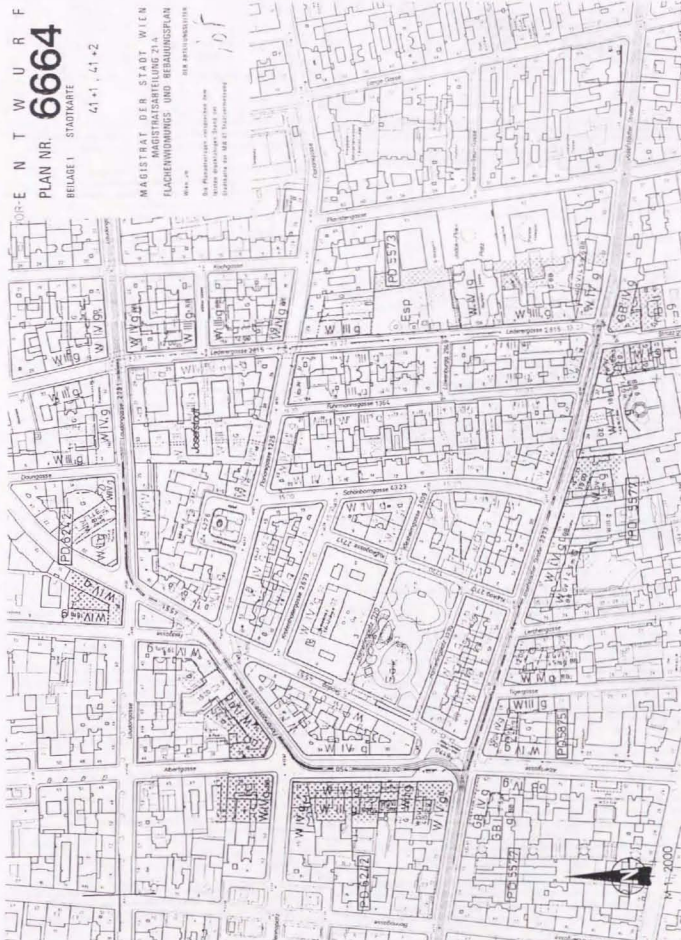
In einzelnen wird dazu ausgeführt:

Ausgehend von der Zielsetzung, die historische Bauabstände und das daraus resultierende Erscheinungsbild dieses Stadtteiles zu bewahren, wird vorgeschlagen, einerseits die bereits bestehenden Schutzzone (Melker Hof, Bereich um die Schönbörngasse) beizubehalten, andererseits das gesamte übrige Plangebiet, mit Ausnahme der Liegenschaft Laubengasse GNR. 29 - 31 und 35 bis 41 sowie Schönbörngasse GNR. 12 bis 18 in Abhängigkeit mit der Magistratsabteilung 19 ebenfalls als Schutzzone auszuweisen.

Innerhalb der von der Schutzzone umschlossenen Bereiche sollen die Bebauungsbestimmungen an den zu öffentlichen Verkehrsmitteln orientierten Gebäudetrakten mehr auf den Bestand abgestimmt werden.

Aufgrund der überwiegenden Wohnnutzung soll für das gesamte Bauland die Widmung Wohngebiet festgesetzt werden. Zur Sicherung des Wohnungsbestandes wird gemäß § 7a der MO für Wien vorgeschlagen, auch eine Wohnzone festzulegen. Ausgenommen davon sollen die Liegenschaften Schlesingerplatz GNR. 3-4 (Jachhaus), Kretschmergasse GNR. 3 (Bundesamt für Eich- und Vermessungswesen), Hasenringplatz GNR. 3-6 bzw. Schönbörngasse GNR. 3-5 (Händlerkassierin) sowie Führmannsgasse GNR. 5 (Polizeikommissariat) sein. Für diese Wohnzone soll auch gemäß § 5 (4) a der MO für Wien bestimmt werden, daß bei Neuerrichtung von Gebäuden nicht weniger als 80 % der Summe der Nutzfläche der Hauptgeschosse, jedoch unter Ausschluss des Erdgeschosses, Wohnzonen vorbehalten sind. Ausgenommen davon sollen jene Hauptzüge sein, die an Hauptverkehrsstraßen liegen.

UR-ENTWURF  
PLAN NR. 6664  
BEFUGTE 1. STADTBÄUER  
41.1.41-2



图B-1 緑図の例

【出典：WA21a — Plan Nr. 6664, Wien, 8. Nov. 1994. Termin: 12-12-94】



## 建築許可申請書

新築・増築・改築を行う建築主は、全てMA37（建築警察）に建築許可の申請をしなければならない。建築主はこの時以下の図書を提出することが要求される。

- 1) 建築図面（平面図、立面図、断面図）
- 2) 土地台帳の写し
- 3) 委任状
- 4) 建築規制の書類（図面と報告書）
- 5) 建築概要書
- 6) 要求される断熱及び防音設備の指示書
- 7) 検査表（Prüfungsbogen）
- 8) MA 19 の許可書類
- 9) MA 30 の許可書類
- 10) その他のMAの許可書類

以下にその内の検査表を掲載しておく。合法性のチェックがこれで行われることが理解できよう。

[illegible]

**Kostenstruktur**

<input checked="" type="checkbox"/>	Auf die Kostenstruktur aufzufolge positiv oder negativ, Vertriebskosten eingestrichen Vertriebskosten eingestrichen
<input type="checkbox"/>	Einkaufspreise positiv oder negativ, Vertriebskosten positiv oder negativ Vertriebskosten positiv oder negativ
<input type="checkbox"/>	Für gegenständlichen Kassenbuch nicht aufgeführt

Die nach unten stehenden Werte sind die höchsten Kostenstruktur.  
Die gegenständlichen Werte sind die höchsten Kostenstruktur.  
Die gegenständlichen Werte sind die höchsten Kostenstruktur.

Quelle: *Handbuch der Kostenrechnung*, 19. Aufl., S. 17

[illegible]

<sup>1)</sup> Die Untersuchungen ergaben:

Psychologisches Modul 3	W1	W2	W3	W4	W5	W6	W7	W8	W9	W10	W11	W12	W13	W14	W15	W16	W17	W18	W19	W20	W21	W22	W23	W24	W25	W26	W27	W28	W29	W30	W31	W32	W33	W34	W35	W36	W37	W38	W39	W40	W41	W42	W43	W44	W45	W46	W47	W48	W49	W50	W51	W52	W53	W54	W55	W56	W57	W58	W59	W60	W61	W62	W63	W64	W65	W66	W67	W68	W69	W70	W71	W72	W73	W74	W75	W76	W77	W78	W79	W80	W81	W82	W83	W84	W85	W86	W87	W88	W89	W90	W91	W92	W93	W94	W95	W96	W97	W98	W99	W100	W101	W102	W103	W104	W105	W106	W107	W108	W109	W110	W111	W112	W113	W114	W115	W116	W117	W118	W119	W120	W121	W122	W123	W124	W125	W126	W127	W128	W129	W130	W131	W132	W133	W134	W135	W136	W137	W138	W139	W140	W141	W142	W143	W144	W145	W146	W147	W148	W149	W150	W151	W152	W153	W154	W155	W156	W157	W158	W159	W160	W161	W162	W163	W164	W165	W166	W167	W168	W169	W170	W171	W172	W173	W174	W175	W176	W177	W178	W179	W180	W181	W182	W183	W184	W185	W186	W187	W188	W189	W190	W191	W192	W193	W194	W195	W196	W197	W198	W199	W200	W201	W202	W203	W204	W205	W206	W207	W208	W209	W210	W211	W212	W213	W214	W215	W216	W217	W218	W219	W220	W221	W222	W223	W224	W225	W226	W227	W228	W229	W230	W231	W232	W233	W234	W235	W236	W237	W238	W239	W240	W241	W242	W243	W244	W245	W246	W247	W248	W249	W250	W251	W252	W253	W254	W255	W256	W257	W258	W259	W260	W261	W262	W263	W264	W265	W266	W267	W268	W269	W270	W271	W272	W273	W274	W275	W276	W277	W278	W279	W280	W281	W282	W283	W284	W285	W286	W287	W288	W289	W290	W291	W292	W293	W294	W295	W296	W297	W298	W299	W300	W301	W302	W303	W304	W305	W306	W307	W308	W309	W310	W311	W312	W313	W314	W315	W316	W317	W318	W319	W320	W321	W322	W323	W324	W325	W326	W327	W328	W329	W330	W331	W332	W333	W334	W335	W336	W337	W338	W339	W340	W341	W342	W343	W344	W345	W346	W347	W348	W349	W350	W351	W352	W353	W354	W355	W356	W357	W358	W359	W360	W361	W362	W363	W364	W365	W366	W367	W368	W369	W370	W371	W372	W373	W374	W375	W376	W377	W378	W379	W380	W381	W382	W383	W384	W385	W386	W387	W388	W389	W390	W391	W392	W393	W394	W395	W396	W397	W398	W399	W400	W401	W402	W403	W404	W405	W406	W407	W408	W409	W410	W411	W412	W413	W414	W415	W416	W417	W418	W419	W420	W421	W422	W423	W424	W425	W426	W427	W428	W429	W430	W431	W432	W433	W434	W435	W436	W437	W438	W439	W440	W441	W442	W443	W444	W445	W446	W447	W448	W449	W450	W451	W452	W453	W454	W455	W456	W457	W458	W459	W460	W461	W462	W463	W464	W46
-------------------------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----

Kennzeichnung: Seite Seite 2  
Die nach unten stehenden Teile sind von der Tabelle wegzulassen.  
A 7 101.4 - 1000 Jan. 1.1.1995 - 101 - 1000 - 10

[illegible]

**Erklärung des Verfassers der Vorprüfung:**

[illegible]

**Körperzeichnung: Studie Seite 1**

Prüfungsausschuss Seite 8		Prüfungsausschuss Seite 8	
Inhaltsgegenstand (Situation) & Fachwissen/Methoden		Inhaltsgegenstand (Situation) & Fachwissen/Methoden	
1. Magisterklausur 7 - Klausur			
2. Magisterklausur 10 - Neurochemie			
3. Magisterklausur 13 - Neurophysiologie			
4. Magisterklausur 15 (für alle Mediziner)			
5. Magisterklausur 16 - Immunologie			
6. Magisterklausur 18 (für Mediziner/Physiologen)			
7. Magisterklausur 20 - Pathologie			
8. Magisterklausur 21 (Pathologie, Mikrobiologie, Immunologie)			

Kennzeichnung: **Maße (mm)**  
Die stark unterschiedlichen Werte sind von der Betriebsanweisung  
ab 1991 A : 600 (ca. 4,4 mm - 45 : 100 mm) : 19

[illegible]

Karlsruhe/Baden-Baden  
Die stark unterschätzte Zeit wird von der Deutsche Automobil-  
A.G. (DAG) - München 8040 - 97

[illegible]

**Footnote**

\* John Hughes is the author of *Man's Search for Meaning* (1946).

## 補章 D

### 建築許可図面

建築許可の図書は、ほぼ1880年以降のものが建築警察に保管されている。これらの図書は普通はプライバシー保護のため、建築主と依頼された建築家及び近隣住民しか閲覧することは許されない。それをコピーするには相応のコピー料金を支払うことも要求される。しかしながら、大学生又は研究者で、大学教授などの紹介状と身分証明書があり、図書の利用目的が示されれば、図書を写真で撮ることが無料で許される（コピーは許されない）。筆者は、ウィーン工科大学のUniv. Doz. Dr. E. Simoncsics先生と東京大学工学部助教授山田先生の紹介状を提出することにより、本文の第3章と第4章とで分析した全ての建築物に関する建築許可図書を写真撮影するための許可を得ることができた。

また、建築許可図書は膨大な量であるので、それを取り扱うMA37は区ごとに外部機関(Außenstelle)を設けている。ここにその外部機関の位置を示し、さらに建築許可図書の事例をいくつか示しておく。

#### 第1、8、9区

1080 Wien, Lerchenfelder Straße 4 ☎ 42 76 11/386

#### 第2、20区

1200 Wien, Dresdner Straße 75 ☎ 35 66 11/210

#### 第3、4、5区

1031 Wien, Am Modenapark 1-2 ☎ 711 16/491

#### 第6、7区

1070 Wien, Hernanngasse 24-26 ☎ 93 76 46/271

#### 第10区

1100 Wien, Laxenburger Straße 43-47 ☎ 601 06/509

#### 第11区

1110 Wien, Enkplatz 2 ☎ 74 75 41/282

#### 第12区

1121 Wien, Schonbrunner Straße 259 ☎ 83 16 01/252

#### 第13、14区

1130 Wien, Hietzinger Kai 1-3 ☎ 878 34/312

#### 第15区

1150 Wien, Gasgasse 8-10 ☎ 83 36 11/257

#### 第16区

1164 Wien, Richard-Wagner-Platz 19 ☎ 491 96/257

#### 第17区

1170 Wien, Elterleinplatz 14 ☎ 401 19/509

#### 第18区

1181 Wien, Martinstraße 100 ☎ 34 25 20/509

#### 第19区

1190 Wien, Gatterburggasse 14 ☎ 36 42 50/244

#### 第21区

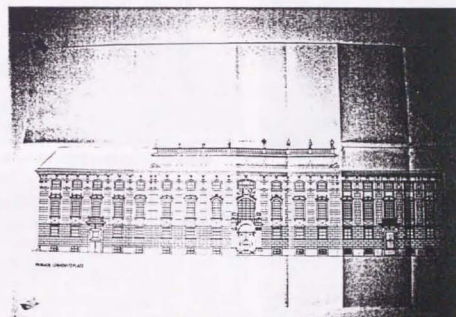
1211 Wien, Am Spitz 1 ☎ 38 15 04/312

#### 第22区

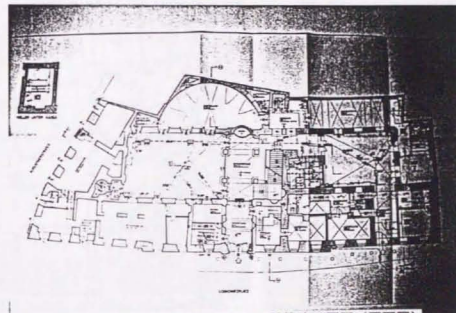
1222 Wien, Schrodingerplatz 1 ☎ 211 23/509

#### 第23区

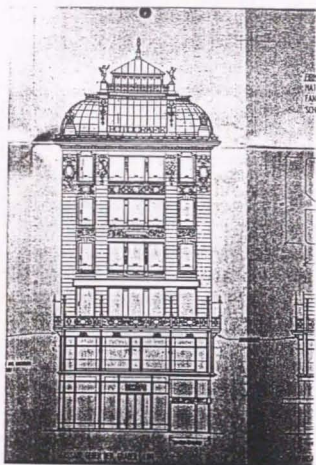
1230 Wien, Perchtoldsdorfer Straße 2 ☎ 86 75 31/308



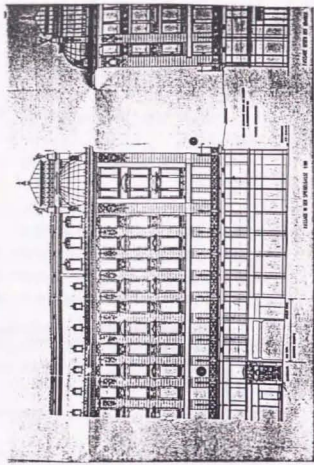
写真D-1 Palais Lobkowitz建築許可図面(立面図)



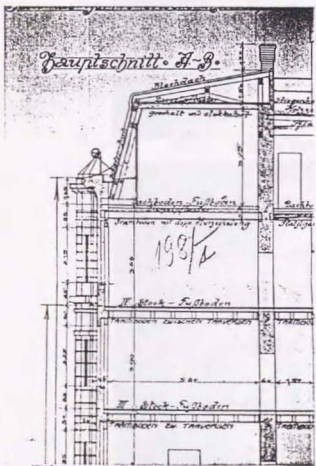
写真D-2 Palais Lobkowitz建築許可図面(平面図)



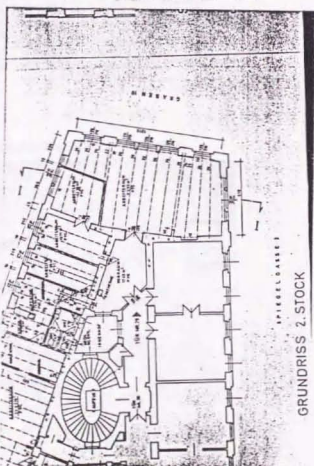
写真D-3 Anker Haus<Otto Wagner>  
建築許可図面(立面图)



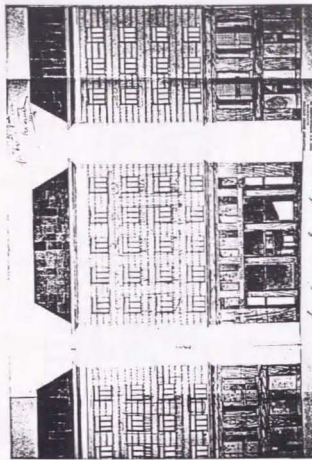
写真D-4 Anker Haus<Otto Wagner>  
建築許可図面(立面图)



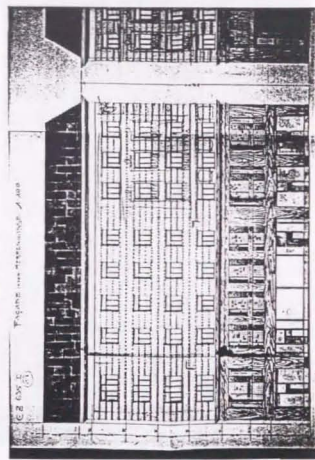
写真D-5 Anker Haus<Otto Wagner>  
建築許可図面(断面图)



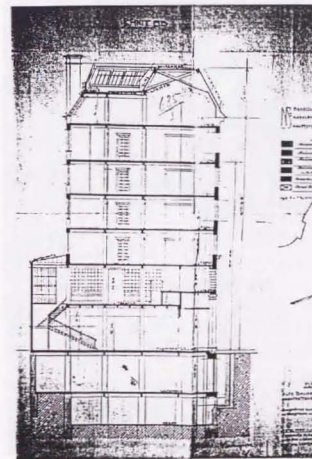
写真D-6 Anker Haus<Otto Wagner>  
建築許可図面(平面图)



写真D-7 Loos Haus<Adolf Loos>  
建築許可図面(立面图)



写真D-8 Loos Haus<Adolf Loos>  
建築許可図面(立面图)



写真D-9 Loos Haus<Adolf Loos>  
建築許可図面(断面图)



写真D-10 Loos Haus<Adolf Loos>  
建築許可図面(平面图)

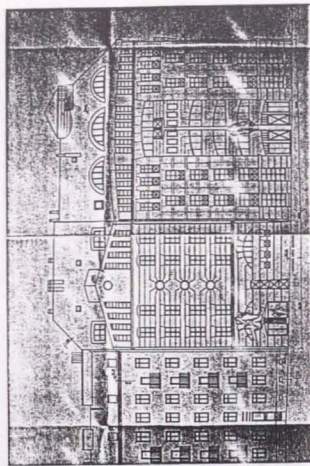


写真 D-11 Wohnhaus Schrankenberggasse  
 <Rob Krier>建築許可図面(立面図)

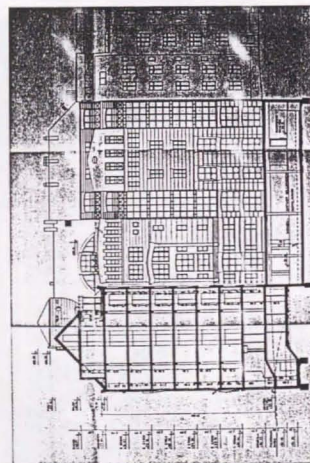


写真 D-13 Wohnhaus Schrankenberggasse  
 <Rob Krier>建築許可図面(立面断面図)

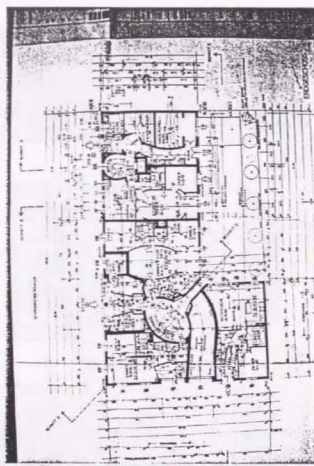


写真 D-12 Wohnhaus Schrankenberggasse  
 <Rob Krier>建築許可図面(平面図)

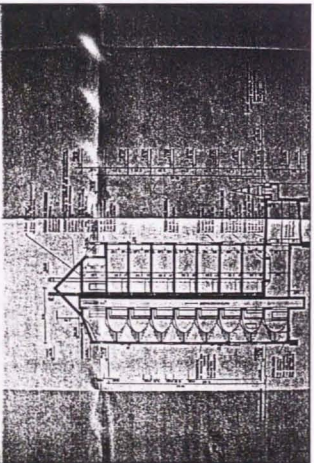


写真 D-14 Wohnhaus Schrankenberggasse  
 <Rob Krier>建築許可図面(断面図)

## 補章 E

### ウィーン建築史年表

ここに、ウィーンの建築史の年表を掲載しておく。第3章及び第4章では、街路空間及び隣接部分における建築様式や装飾様式の相違について議論したが、ここで整理して作成した年表がその理解を進めるのに役立つと考えられる。

ここで、以下の点について留意しておきたい。

- ①ウィーンは神聖ローマ帝国の首都であり、その歴代の皇帝を400年もの長期に渡って輩出し、帝国を支配したハプスブルグ家がその城を構えた都市であり、さらに15世紀から19世紀までの長きに渡ってヨーロッパの政治的・経済的・文化的(中でも音楽)中心であった。しかし、建築様式としてはイタリア、フランスよりも遅れて発達した。例えば、ルネサンス様式はその盛期(15世紀後半から16世紀前半)には殆ど見られず、19世紀のリバイバルによって、幾つかの事例でようやく見られるようになった。また、17世紀末頃から18世紀にかけてバロックが主流となったが、この頃に多くの王侯貴族の館あるいは教会の改修が行われた。従って、ウィーン市中心部にある歴史的建築物にはバロック調のものが多く、18世紀後半からはロ可可そして19世紀には新古典主義や歴史主義が中心となり、グルンデア・ツァイトの建築にはネオゴシックやネオバロックの建築も見られる。
- ②19世紀末にはそうした歴史主義の流れの中での古ドイツのネオバロック等も見られる一方で、分離派などのユーゲンド・シュチュール建築が起り、オット・ワグナーとその弟子連を始めとするその時代を代表する多くの建築家達が活躍した。このように、特に18世紀後半〜20世紀初頭の期間には、多くの様式が錯綜して建設された。
- ③20世紀に入ると、アドルフ・ロースの「装飾は罪悪である」という言葉に示されるような機能主義建築(例えばロース・ハウス)が見られるが、それらはむしろウィーン市郊外に多く、ウィーン市都心部においてそうした建築が増え始めるのは、むしろ第二次世界大戦後のことである。即ち、戦後の戦災復興計画によって建設活動が推進され、多くの近代建築が建設された。
- ④本年表には、上段にこうした建築様式の時期を、下段にウィーンで活躍した建築家たちによって設計された建築作品(特に第1区にあるもの)を記載した。また備考欄には、特にウィーンに関係する歴史的史実を記載しておいた。これで見ると、大きな戦争があった時期には建築活動が停滞していることが分かる。

図 E-1 ウィーン建  
(注

年 代	120	1800	1900	
模 式	ロ マ ネ ス ク	ロ コ コ  バ ラ デ イ オ 主 義	新古典主義 歴史主義 リリシム ネオロマン ネオバロック ドイッロマン ワグナー	世 紀 末 建 築  ゼ セ ッ シ ョ ン  モ ダ ニ ズ ム  ポ ス ト モ ダ ン
建築物	— ヌブレト	ウィーン市歴史美術館(O. ヌストル: 1954-59) — ウィーン大学法学部(E. ヒースマイヤー: 1969-83) — — シュリッ宝石店 II (H. ヌイラー: 1981-82) — — ヌルツァムト・バー・ノストラ(H. ヌシュト: 1981-83) — — ハウス・ハウス(H. ヌイラー: 1985-90) — — ヌーフトツ・リゼンツィン(C. ヒンメルツァグ: 1987-89) — — ヌルントナー・リング・ホフ(W. ヌルバハグ: 1987-93) —	ア 宮殿(G. P. テンカウ, エッラハ: 1685-87) イ 宮殿(D. マルチ: 1690-?) ロ イツ公宮殿(エッラハ, ヒルツァント: 1695-1724) ハ ニュー・シュンベルン宮殿(エッラハ: 1698-1706) ニ ミンソ大使館(エッラハ: 1708-1914) — キンスキー宮殿(ヒルツァント: 1713-16) — カールス 教会(エッラハ: 1715-22) 〔 — 国立図書館(エッラハ: 1719-35) — キンゼリール宮殿(ヒルツァント: 1723-30) — (J. コーネン: 1826-32) — イ 宮殿(H. V. フェルステル: 1856-60) — ロ (L. フェルステル, T. ハンゼン: 1861-64) — ハ ルドルフスツ(T. ハンゼン: 1871-76) — ニ 美術史美術館(ゼンバー: 1871-91) — — ブルグ劇場(ゼンバー: 1874-88) — — エイタグル宮殿(A. ストレイト: 1890-91) — — アンカーハウス(O. ヌグナー: 1893-95) — — カールス駅(O. ヌグナー: 1898-99) — — ゼッパツェン(J. M. ヌグラー: 1897-98) — — サルターハウス(プレヒツ: 1903-05) — — 中央郵便局(O. ヌグナー: 1904-06) — — ロースハウス(A. ロース: 1909-11) — — 国立銀行(L. バグ: 1913-25) — — — アツテ通りアンツァム(1720-1790) — フォイテ通りアンツァム(1700-1810) — ヌツテ広場アンツァム(1400-1820)	1914-18 40-45 55 第一 第二次世界大戦 第二次世界大戦 独立
備 考	(オーストリア)	1789-99 フ ラ ン ス 革 命	1814 ウ イ ー ン 会 議	1866 普 奥 戦 争

図 E-1 ウィーン建築史年表【参考文献：“ARCHITEKTUR IN WIEN”, Prachner, 1990】  
 (注1) 第1区内の主要な建築物のみ取り上げた (注2) — : 設計及び施工期間

年 代	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900					
様 式	ロ マ ネ ス ク	ゴ シ ツ ク	後 期 ゴ シ ツ ク	ル ネ ッ サ ン ス	マ ニ エ リ ス ム	イ タ リ バ ア ロ ン ク	後 期 バ ロ ッ ク	新古典主義 歴史主義 バリ デ イ オ 主 義	世 紀 末 建 築 ゼ セ ッ シ ョ ン モ ダ ニ ズ ム ポ ス ト モ ダ ン				
建築物	—— ヌレイト教会(740-1170) —— ミヒエル教会(1220-50) —— アガステーン教会(1330-39)      シュテファン教会(1221-1454) —— マリア・ザウアーチ教会(1343-1414) —— ツム・キーク教会(1386-1408) —— レオパルド宮殿(1547-52) —— イェスス教会(1626-31) —— ロフヴィッハ 宮殿(G. P. テンカ、エヴァハ: 1685-87) —— ハラハ宮殿(D. マルトリ: 1690-?) —— オイゲン公宮殿(エヴァハ、ヒルデブラント: 1695-1724) —— バンヤニン・シェンボルク宮殿(エヴァハ: 1698-1705) —— ネミツァン大使館(エヴァハ: 1708-1914) —— キンスキー宮殿(ヒルデブラント: 1713-16) —— カールス 教会(エヴァハ: 1715-22) —— 国立図書館(エヴァハ: 1719-35) —— キャメリンー宮殿(ヒルデブラント: 1723-30) —— ショッテンホーフ(J. コンネイゼル: 1826-32) —— —— フェルスター宮殿(H. v. フェルスター: 1856-60) —— —— ドレスコ宮殿(L. フェルスタ、T. ハンゼン: 1861-64) —— —— ヘルドフスキー(T. ハンゼン: 1871-76) —— —— 自然史・美術史美術館(ゼンバー: 1871-91) —— —— ブルグ劇場(ゼンバー: 1874-88) —— —— スタディオ宮殿(A. ストレイト: 1890-91) —— —— アノカーハウス(O. ワグナー: 1893-95) —— —— カーネル駅(O. ワグナー: 1898-99) —— —— ザヴェンシュン(J. M. ホルブリック: 1897-98) —— —— ザビターホルマス(フルビニック: 1903-05) —— —— 中央郵便局(O. ワグナー: 1904-06) —— —— ロスホルス(A. ローヌ: 1909-11) —— —— 国立銀行(L. ワグナー: 1913-25) —— —— ツン通りアンサンブル(1720-1790) —— フォク通りアンサンブル(1700-1810) —— コナ広場アンサンブル(1400-1820)												
	(オーストリア辺境伯) 1278      (ハプスブルグ王朝→)			1517	1529	1683	1701-14	1789-99	1814	1866	1914-18	40-45	55
	ル ド ル フ I 世			ル タ ー の 意 見 書	オ ス マ に よ る ル 包 囲	オ ス マ に よ る ル 包 囲	オ ス マ に よ る ル 包 囲	フ ラン ソ ン 革 命	ウ イ ン ゲ ン 会 議	普 興 戦 争	第 一 次 世界 大 戦	第 二 次 世界 大 戦	独 立

## 補章 F

### オーストリアにおける

#### 都市計画用語

ここでは、オーストリアで使用される都市計画用語（特に、整備・開発・保全に関する用語）について整理することを試みる。ここで留意しておくべきことは、オーストリアの都市計画用語とドイツの都市計画用語はかなり違うということである。同じドイツ語民族ではあるが、文化的相違点が認められるように都市計画の上でもその考え方は異なるようである。従って、都市計画学会で出されている「日独都市計画用語対照」は参考程度として考えるべきである。

そこでまず第一に、日常的に使用される言葉の意味を理解するために、日本語と英語と対応させながら、オーストリアで使われる都市計画・建築に関する一般用語について整理する。第二に、オーストリア都市計画の専門用語を理解するために、概念として使用される場合と手法として使用される場合とに分けて整理する。

#### (1) 一般用語

日本語	英語	ドイツ語（オーストリアの場合）	オーストリアでの使われ方
保護	PROTECTION	STRENGER SCHUTZ	政治的用语で否定的
保存	PRESERVATION	SCHUTZ	
保全	CONSERVATION	CONSERVIERUNG	
修復	RESTORE	RESTAURIERUNG	専門的には使わない
改善	IMPROVEMENT	VERBESSERUNG	
改築	REMODELING	UMBAU	
刷新	RENOVATION	RENOVIERUNG	
更新	RENEWAL	ERNEUERUNG	
再開発	REDEVELOPMENT	SANIERUNG	
開発	DEVELOPMENT	ENTWICKLUNG	

以上の用語は、オーストリアで極一般的に用いられる言葉であるので、日本語に対応させてこれらの言葉を用いたとしても、専門的に通じるとは限らない。むしろ、これらには全く専門の意味はないと考えたほうが望ましいくらいである。

## (2) 専門用語

次に専門用語について整理する。ここでは、まず概念ごとに分類し、対応すると思われる日本語を( )内に記す。そして、それぞれの中での手法について説明する。

### DENKMALSCHUTZ (記念物保存または記念物保護)

この中には大きく3つの手法がある。それらは、

1. OBJEKTSCHUTZ (単体保護) : 例えば有形文化財、国宝、

ファサード保存 (PASSADENSCHUTZ)

2. ENSEMBLESCHUTZ (伝統的建造物群保存) : 群をなしている歴史的建築

3. SCHUTZZONE (保存地区) : 保存すべき歴史的地区・地域

である。また、前者2つについてはDENKMALAMT (記念物局) が監督庁であり、最後の保存地区はMA 19が担当部局である。

さらに、保全(CONSERVATION)という概念はオーストリアの都市計画の中には存在しない。CONSERVATIONは政治的用語であり、どちらかというと否定的かつ及び懐的な意味を持っているからである。

### SANIERUNG (改善)

この中には手法として、4つの段階がある。それらは変化の少ないほうから順番に並べると、

1. RESTAURIERUNG (復元) : 色や材料を全く変えない

2. RENOVIEREN (修復・交換) : 材料などを交換する

3. REPARIEREN (改修) : 材料などを交換し、手も加える

4. REVITALISIER (改造) : 機能を変えたり、新たな機能を加える

というようになる。

従って、例えば窓の改善を行うときに、1.であれば全くそのままに復元することが望まれるし、一方で4.であれば新しい機能を付与することが望まれる。

### STADTERNEUERUNG (都市更新)

この都市更新における具体的な都市計画手法としては、大きく次のようなものがある。

1. STADTFLURBEREINIGUNG (都市区画整理) : 土地所有権の権利変換によって、都市基盤を整備する(我が国の区画整理事業と同じ)。

2. STRASSENFLURBEREINIGUNG (道路拡張整備) : 土地の収用などによって、道路整備を行う。

3. BULLDOZERSANIERUNG (再開発、スラブ・アンド・コア) : 立体換地によって、新しい空間を形成する(我が国の再開発事業と同じ)。

しかし、オーストリアではこのような再開発を行うことはほとんどなく、単に概念だけで、都市計画手法としては存在しない。

である。このように、従前の都市構造に大きく手を加えることによって環境

の質を上げることをSTADTERNEUERUNGという。

さらに、特に住環境を改善する手法として、STANDARTANHEBUNGというものがある。これは、大きく住居(Wohnung)と住宅(Haus)との場合がある。例えば前者については、共同トイレしかないようなアパートの各部屋に新しいトイレを個別に入れたり、クーラーを設置したりして、住環境の標準レベルを上げることを行うものである。また後者は、一軒の建物に対して前述したような手を加えるものである。

この他には、都市計画の具体的手法として、

a. PLANQUADRAT/BLOCKSANIERUNG : 街区改善

b. HOFBERGRÜNUNG : 中庭整備

c. VERKEHRSBERUHRIGUNG : 交通事情改善

d. SOCKELSANIERUNG : 地盤改良

などがある。

以上の都市計画用語の概念及び手法の整理については、1995年にウィーン工科大学空間計画・建築学科から東京大学工学部都市工学科西村研究室に研究生として留学していたDipl.-Ing. Renate HAMMER女史の協力を頂いた。ここに附して御礼を申し上げる。

## 謝 辞

本論文は、私が1990年10月から合計4年（実質2年半）ウィーン工科大学に国費の交換留学生として留学した経験に基づきまとめたものである。東京大学都市工学科からは初めてのウィーンへの留学だった。ウィーンに滞在中はよくオペラやコンサートに行った。現九大助教授の出口先生も同じプログラムで短期留学されていて、よく一緒に行ったものだ。その時思ったのが、ウィーンフィルを始めとするウィーン楽派は完成された美の世界を持っていて、他を受け入れない排他的な所があるにもかかわらず、ウィーンの都市は人種と文化といふ文化といふ多くの種類のものが混ざり合っていて、それがうまく調和しているということである。それはウィーンの都市の二面性（Ambivalent：アンビヴァレント）である。バリも同じように都市の大改造が行われたが、バロックで完成しており、それとは対照的である。この都市における二面性を何とかタウンスケープについて論ずることができないだろうか。また、最近の新しいウィーンの動向を何とか伝えることができないだろうか。そして、自分がウィーンにいたんだという事の証を立てたい。それがこの論文の出発点だった。

このきっかけを与えてくださったのは他ならぬ山田先生である。先生は、当時まだ離っ子で都市計画学と建築学のなんたるかも分からずうろついていた私に、素晴らしい機会を与えてくださった。ウィーンに行っても折り返し連絡をしてくださるだけでなく、92年10月にウィーンにいらした折には、直接励ましの言葉をくださった。そして、研究の入口を見出し、さらに展開していくために多くの助言をくださった。その山田先生が骨髄性白血病でなくなれるまでに本論文を書き上げることができなかったことは心残りであり、その事を思うたびに胸が張り裂けんばかりになる。しかし、こうして書き上げて先生に御報告するのが、自分にできる最大の供養であると思っている。

西村幸夫先生は、ウィーンの保存地区について調べるようにというお手紙をわざわざウィーンにいる私宛にくださったばかりでなく、山田先生が入院されてからは、論文の内容と言葉の使い方などについて細かく意見してくださった。また、論文全体の仕立て方をより良くしていくために、何度も目を通して下さり、叱咤激励して下さい。あの時の西村先生の厳しいお言葉がなければ、自分を追い込むことができなかったかもしれない。

渡辺定夫先生には、大学院に進学した時から、都市デザインとは何ぞや、研究とは何ぞやということについて多くを教えて頂いた。特に幕張新都心住宅地計画の作業に僅かながらも参加させて下さり、都市デザインの実務を勉強させて頂いたのはいい経験だった。本論文の最後のまとめの時にも、心優しく私の話を聞いて下さり、研究の位置づけについて御助言を頂いた。不肖の弟子として、この三人の先生方には心から感謝申し上げます。

ウィーン留学中にはUniv. Doz. Dr. Emerich SIMONCSICS先生ご夫妻に公私共々非常にお世話になった。研究の進め方、内容についても助言をくださったし、ウィーンの建築家や研究者そして行政官への紹介状についてもご意見して下さい。始めの頃はお優しい顔をしていたのが、研究が進むにつれ一人前として振って厳しい顔つきで御指導されたのが印象

的であった。Univ. Prof. Arch. Hans HOLLEIN先生とUniv. Prof. Arch. Wilhelm HOLZBAUER先生には直接資料を頂き、さらには論文についての参考となるお話を頂いた。ウィーン工科大学の元学長Univ. Prof. Arch. Tech. Dr. MOSER先生には研究の資料を頂いたり、先生の下で研究をしているUniv. Ass. Dr. VOIGT氏と話ができたのもいい経験だった。MA 19所属のDipl.-Ing. Peter SCHEUBEL氏は、忙しい最中に時間を割いて話を下さり、ウィーンの都市計画と保存地区に関する資料を数多く提供して頂いた。

また、自分との交換留学生で都市工学科に留学したDipl.-Ing. Udo SCHUSTER氏(現Holzbauer事務所勤務)には、W. HOLZBAUER先生に連絡を取って頂いたし、私生活でもパーティー等でウィーンを楽しませてくれた。Johannes ZINGERLE氏は、私のウィーンでの最初の建築学科の友達で、彼とは建築そして芸術について色々語ったし、建設法についても教えてくれたり、一緒に遊んだり、彼がいたお蔭でウィーンの生活が充実したものになった。Dipl.-Ing. Renate Hammer氏は、1995年4月から西村研究室に留学してきたが、私の拙いドイツ語に付き合ってくれて、ウィーン州建設法の解釈やドイツ語らしい表現等について色々教えてくれた。ウィーンの多くの日本人留学生との会話も自分の目を開かせてくれた。特に画家の岩田剛氏や音楽美学を専攻する友部衆樹氏とは同居中にウィーン文化と人間性、そして芸術について夜を徹して語ることができた。同時に留学した建築学科の塚本大氏も刺激的であった。その他多くの音楽留学生・芸術学生と知り合い、オペラや演奏会に通い、語り合うことができたのも大きな財産である。そして、94年度に東大から留学してきた山崎律子氏と桜井文優氏には、論文の資料を集める手伝いをしていただいた。心から感謝する。

留学中にウィーンで事務所を開設したばかりの衛藤信一氏(かつてホライン事務所に勤務)と知り合い、衛藤信一建築都市デザインアトリエで3年間建築の修行を積むことができたのは、自分にとって大きな財産となった。実際にこの手でデザインし、それが実施され、実現される喜びはこの時知った。そうやって完成したインターナショナル堂島ホテルと三基食品御西宮工場本社バビリオンを始めとする多くの建築作品は、自分が建築に進むための知識と経験を与えてくれたし、その時知り合った堂島ホテル山崎専務、三基食品御門田社長御夫妻、三基建設御松田社長、同僚役野裕之氏そして好井所長を始めとする御フジタの多くの方々と現場での真剣な打合せは、実務の厳しさと常に精進すべき心構えを教えてくれた。これらの方々とは直接本論文と関係なかったが、都市計画・建築学の研究は実務と決して無関係ではないと思う。この場を借りて、感謝を申し上げる。

大学院の生活では、かつて研究室の助手だった小林敬一先生(現東北芸術工科大学助教)、そして研究室で都市計画・都市デザインの技術を直接教えて下さった高瀬忠重先生(現東大助手)、岩田司先生(現建設省建築研究所)、出口敦先生(現九州大学助教)、篠崎道彦先生(現芝浦工大助教)、野沢康先生(現工学院大学講師)、孟令強氏、そして机を並べて勉強した崔宣珠氏、山形浩生氏、李氏、前田英寿氏、栗林久美子氏、宮脇勝氏、桑田仁氏、原田栄二氏、青山昭裕氏、木下光氏、鈴木隆之氏、鈴木伸治氏といった多くの仲間との都市デザイン・建築に関する議論は、本研究を進めていく上での参考になった。

また、同期の小泉秀樹氏(現東京理科大学助手)、室町泰徳氏(現東京大学助手)とは、しばしば論文に関する議論を行った。彼らには自分の未熟さを知らされ、研究の内容を深

める方法について指摘して頂いた。当時大阪の衛藤事務所で働いていた私が、東京に上京するたびに心よく泊めてくれ、その度に夜遅くまで多分野に渡って議論したのも懐かしい。こうした方々に囲まれた自分の環境は滅多に得られないものである。これからこの関係を大切にしていきたいし、こうした方々の都市だけでなく建築へも向かう情熱と共に、将来の都市計画そして都市デザインの新しいパラダイムを築いていきたいものだ。

最後になったが、本論文が完成したのも一重に私の家族の支えのお蔭である。父庄一・母素子には、長きに渡った学生生活において財政的かつ精神的な援助をしてもらった。また、建築家である父と兄辰雄には、論文の内容についてもいろいろなアドバイスしてもらった。兄とはウィーンで一緒に衛藤氏のもとで働いたのもいい思い出である。今後とも家族を大切に、一つずつ「ものづくり」を積み重ね、実務と研究とに精進していきたいと思う。

平成5年5月 東大14号館西村研究室にて

本郷の 我が身をつつむ 五月晴れ

三島 伸雄

